

視線入力オプション取扱説明書

株式会社 日立ケーイーシステムズ

■はじめに

視線入力オプションを使用する場合は、トビーPCEye5 の「ユーザーマニュアル」の「1.概要」、「2.セーフティ」を守っていただき、正しくご使用ください。

また「伝の心」の操作に関しては電子マニュアル「伝の心」取扱説明書」もご参照ください。

重要なお知らせ

■ 保証について

「伝の心」の無償保証期間は、本システム装置に同梱されている保証書に記載されている期間とします。

オプションに関してはオプション品に同梱されている保証書に記載されている期間とします。

故障が発生した場合は、販売会社へご連絡ください。

なお、つぎに該当する場合は、保証の範囲から除外させていただきます。

- お客様の不適切な取扱い、使用による場合。
- 故障の原因が納入品以外の事由による場合。
- 納入者以外の改造または修理による場合。
- その他、天災、災害など納入者の責にあらざる場合。

ここで言う保証は納入品単体を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。また、保証は日本国内においてのみ有効です。(Effective only Japan)

■ お断り

●本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用する事を禁止します。

●本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

●本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。

●本製品(オプション品)を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

●本製品(オプション品)は日本国内のみに使用してください。(For Japanese Domestic Use Only)

■ 商標と技術について

●「伝の心」は株式会社 日立ケーイーシステムズの登録商標です。

●トビーPCEye 5 は株式会社クレクトの登録商標です。

●Microsoft、Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

●その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

■動作環境

対象機器	トビーPCEye 5
対応アプリケーション	伝の心 Ver.06-50 以降
OS	Windows 11
メモリ	8GB
USB	2.0 以上

■ 制限事項

「伝の心」の搭載メモリは4GB です。視線入力オプションを使用する場合は、8GB 以上になるようにメモリの増設を行ってください。

目次

■はじめに.....	2
■動作環境.....	2
視線入力オプションのセットアップ	5
■はじめて使う時の準備.....	6
伝の心を停止します.....	6
ソフトウェアのインストール.....	6
トビーPCEye5 の設置を行います.....	8
トビーPCEye5 と使用者の位置を調整します.....	14
トビーPCEye5 の設定を行います（ユーザープロファイルの作成）.....	16
伝の心で使えるようにします.....	21
■起動と終了.....	24
視線入力有効時の「伝の心」の起動.....	24
視線入力有効時の「伝の心」の終了.....	26
■視線入力ソフトウェアについて（必ずお読みください）.....	27
Computer Control について.....	27
Update Notifier について.....	27
Eye Tracking Settings について.....	29
タスクトレイの Eye Assist について.....	36
視線入力オプションを使う（基本編）	37
■マウスカーソルとクリック（決定）動作.....	38
視線で動かすカーソル移動.....	38
クリック（決定）するには.....	38
■視線入力の一時的停止・再開.....	39
伝の心のガイダンス行の注視で一時的停止・再開が可能です.....	39
ガイダンス行が無い Windows 操作では[ON/OFF]ボタンがあります.....	41
■視線入力が上手く行かないときは.....	41
視線がずれていると感じた時にはキャリブレーション.....	41
マウスカーソルの動きがぎこちない・動きすぎると感じた時には.....	44
マウスクリックまでの時間が早すぎる・遅すぎると感じた時には.....	46
視線入力オプションを使う（詳細編）	47
■通常版「伝の心」との違い.....	48
電源 ON 時の起動画面について.....	48
操作が連続して行われる機能の制限について.....	48
メニューの読上げやスキャン音について.....	48
文字盤の拡大表示について.....	48

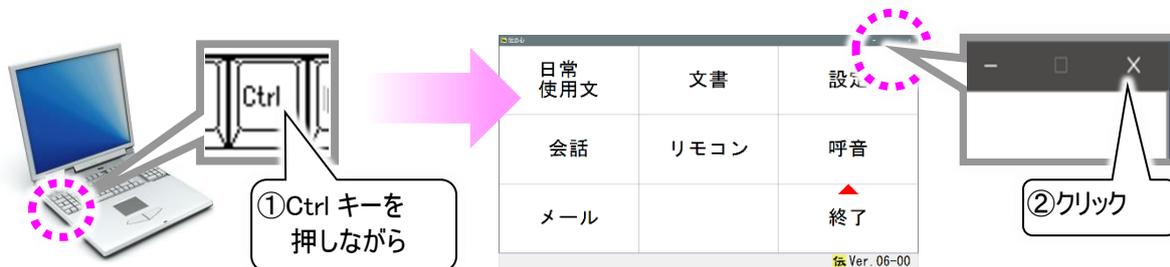
視線入力切替設定の追加	49
読上げ画面の操作	50
定型句入力画面の操作	50
日時入力画面の操作	50
文書印刷画面の操作	51
支援者用設定画面について	51
応用操作（Windows 操作・ブラウザ操作）について	52
応用操作（視線入力有効時に表示されるメニュー）について	52
応用操作（LINE）について	53
■ Windows 操作（視線入力有効時）	55
メニュー一覧	55
マウスクリックの切り替え（左クリック・右クリックなど）	56
マウスのスクロール	57
ドラッグ&ドロップ操作	59
視線入力の ON/OFF	60
画面操作とカーソル移動	61
その他の機能	63
■ 視線入力の設定	64
視線のマウス追従速度（反応速度）	67
マウスクリックまでの時間（注視時間）	67
マウスカーソルの周りの円の大きさ（視線カーソル）と表示の有無（視線カーソルの表示）	68
マウスカーソルのボタン吸着	69
マウスカーソルの周りの円の色（視線カーソルの色）	71
マウスカーソル付近の拡大表示（拡大鏡表示）	71
Windows 操作（視線入力）メニューの設定	72
ガイダンス機能について	74
■ こんな時には	74
メッセージが表示されて「伝の心」が起動しない	74
キャリブレーションを行ったら、動作不能になった	76
なんでもスイッチのみで「伝の心」の操作がしたい	77
■ まばたきスイッチについて	78
まばたきスイッチの設定	78
まばたき時間の設定	79
■ サポート	80

視線入力オプションのセットアップ

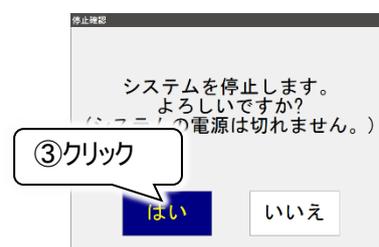
■はじめて使う時の準備

伝の心を停止します

- (1) 「伝の心」のメインメニューを表示します。
- (2) キーボード左側にある「Ctrl」キーを押したまま、「伝の心」トップ画面の右上 × ボタンをマウスでクリックしてください。



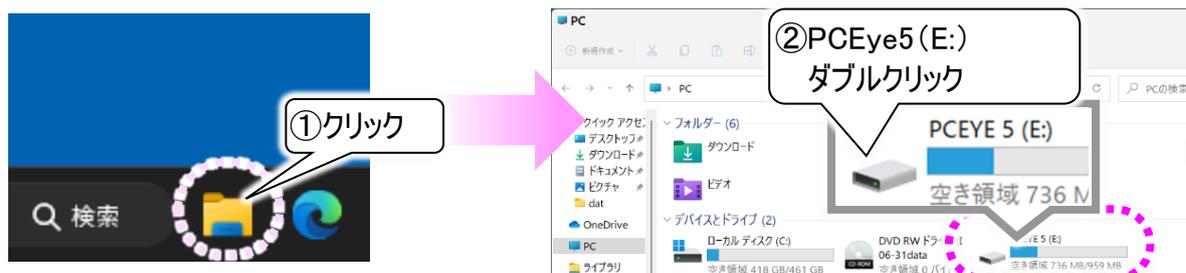
- (3) 右記のメッセージが表示されるので、「Ctrl」キーの押下を止め、「はい」を選択してください。「伝の心」が終了して、デスクトップ画面が表示されます。



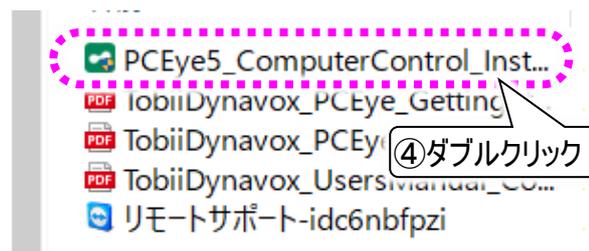
ソフトウェアのインストール

※トビーPCEye5 に付属のソフトウェアを使用します。付属の USB メモリを「伝の心」の左側の USB ポートに挿してください。(右側の USB ポートはトビーPCEye5 で使用します。)

- (1) デスクトップ画面下のタスクバー [エクスプローラー] アイコンをマウスでクリックします。
(※アイコンを右クリックして表示されたメニューから「エクスプローラー」を選択しても同様です。)
次に[PCEye5 (E:)]⇒[PCEye5_ComputerControl_Installer_***]の順にダブルクリックします。



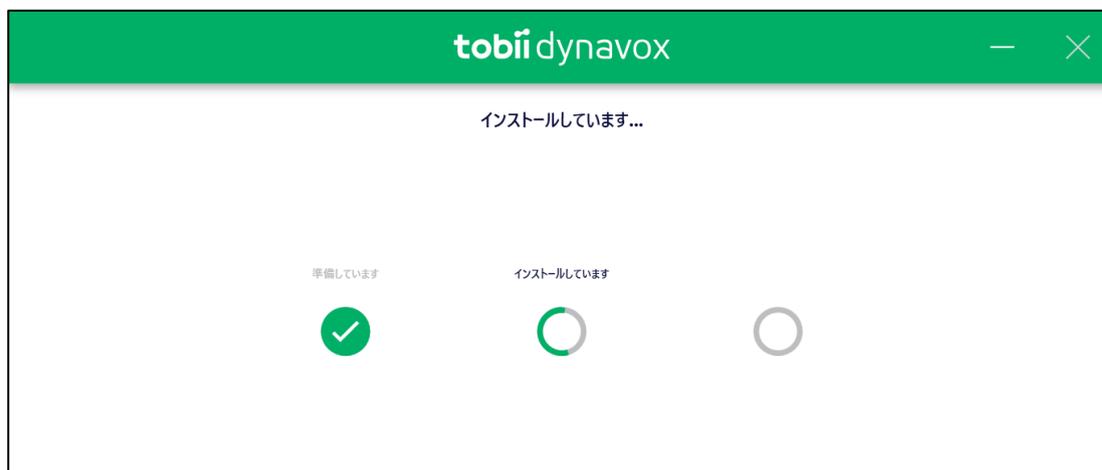
※[PCEye5_ComputerControl_Installer_***]の「***」の部分は購入時期によって異なります。



(2) 下記画面が表示されるので、**開始**ボタンをクリックします。



(3) 下記画面が表示されインストールが開始されますので、しばらく待ちます。

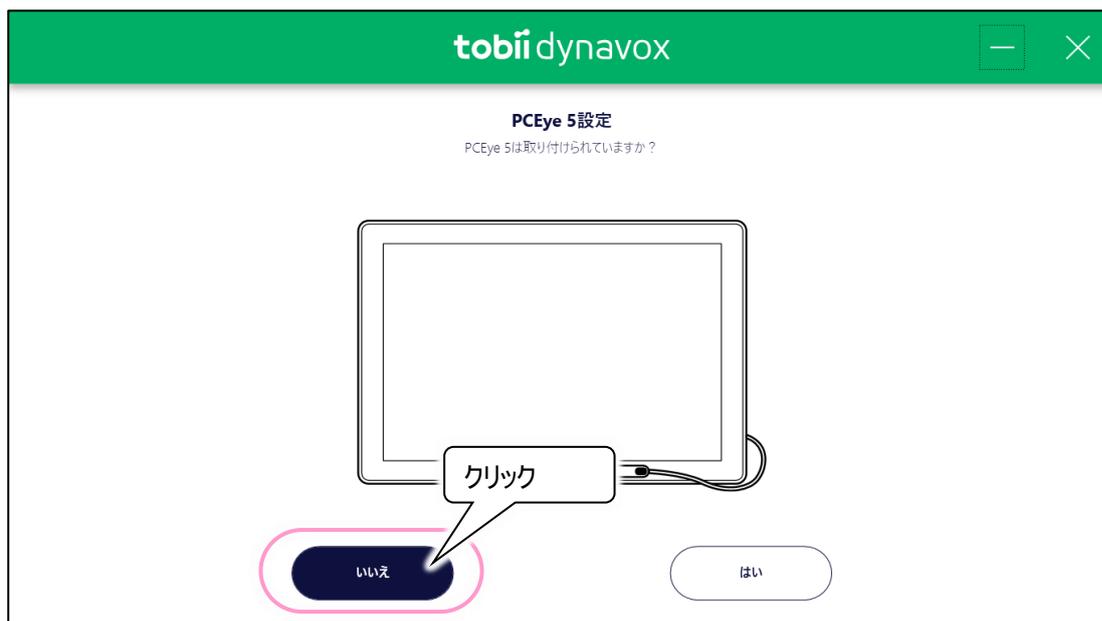


(4) 下記画面が表示されるので、8 ページの「トビーPCEye5 の設置を行います」に進みます。



トビーPCEye5 の設置を行います

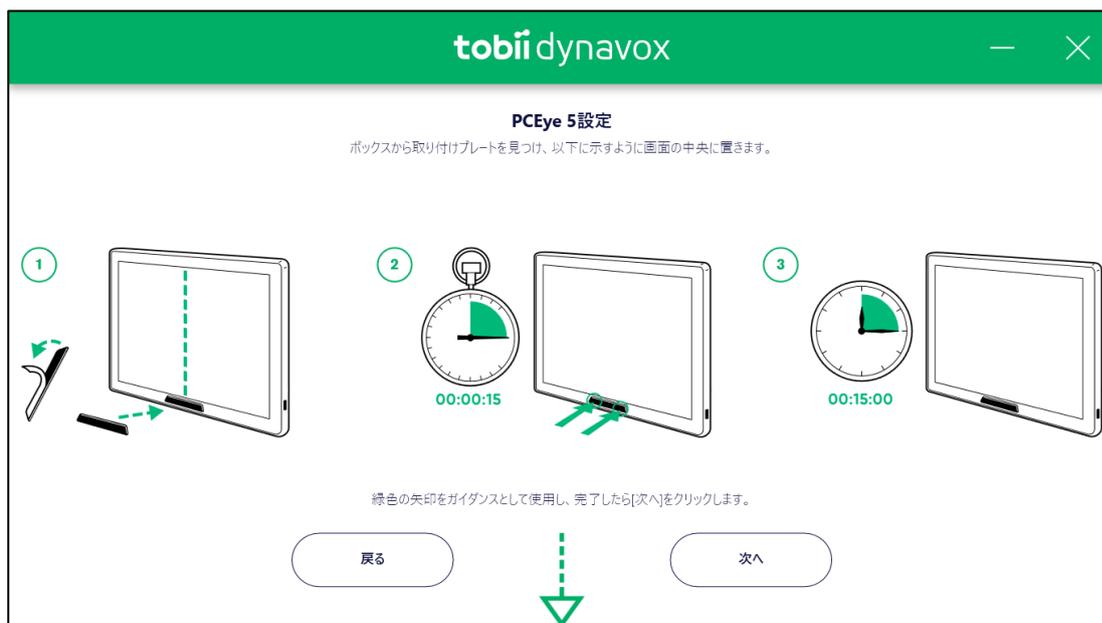
- (1) **いいえ** ボタンをクリックします。
※トビーPCEye5 本体はまだ「伝の心」に取り付けしないでください。



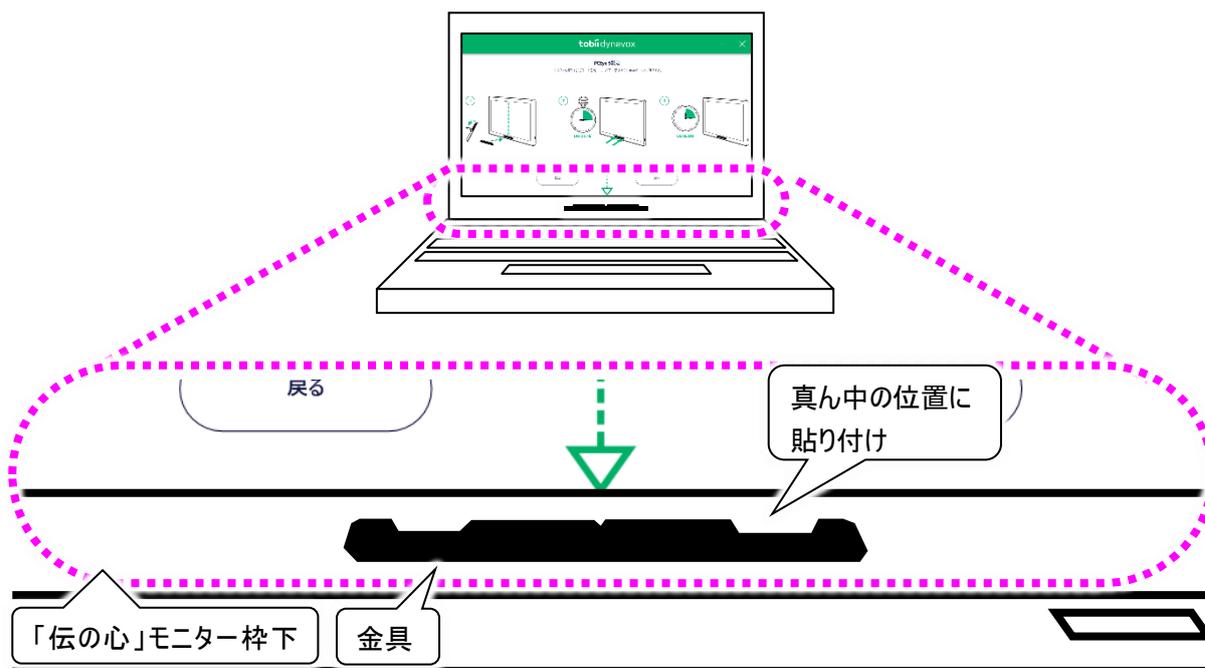
- (2) 本体貼り付け用の金具を張り付けるフレームの清掃案内が表示されます。
案内に従って清掃します。清掃が終わったら**次へ** ボタンをクリックします。



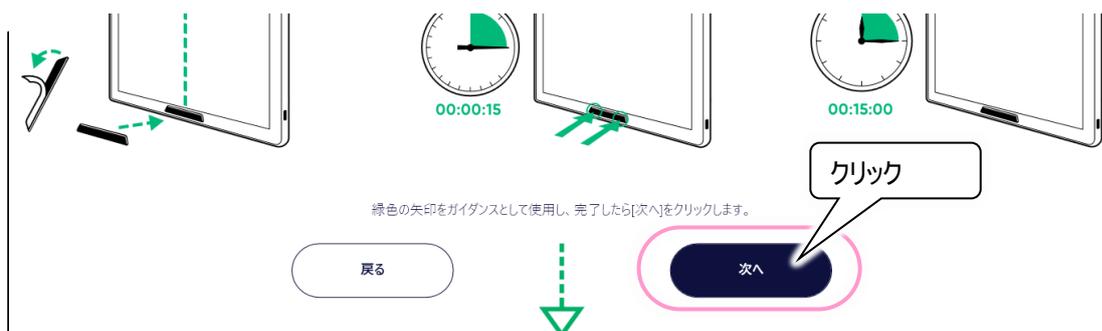
(3) 本体貼り付け用の金具の取り付け方法の案内が表示されます。



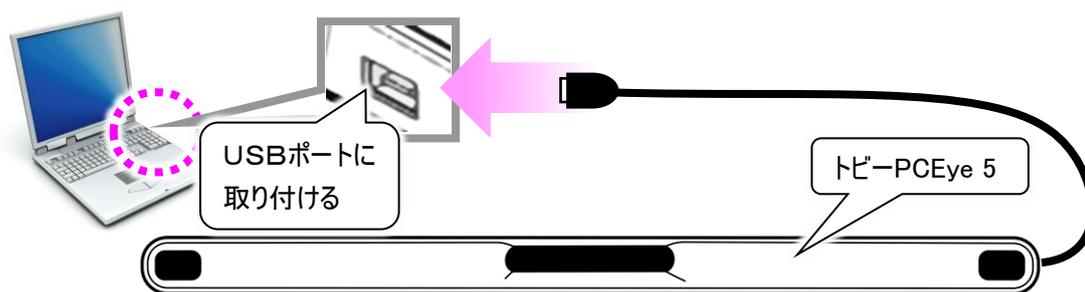
(4) 画面下の「▽」表示に合わせて、金具を「伝の心」モニター枠下部に貼り付けます。
※金具はトビーPCEye5 のパッケージに同梱されています。



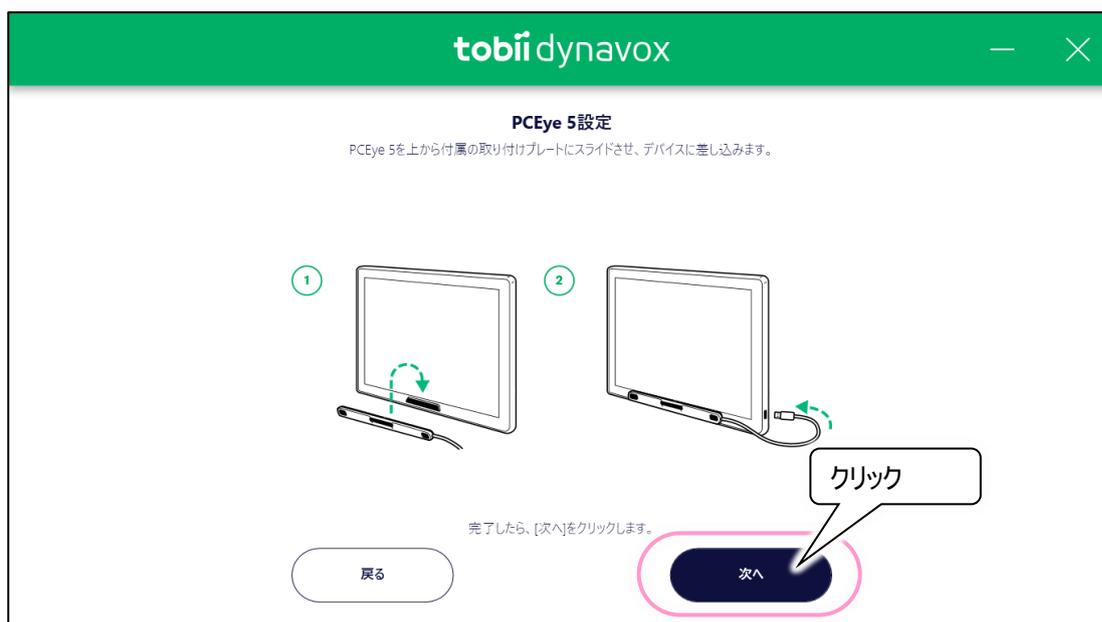
(5) 金具を取り付けたら、**次へ**ボタンをクリックします。



- (6) 画面の説明に従って、取付金具にトビーPCEye5 本体を取り付けます。
(本体の裏は磁石が付いていますので、トビーPCEye5 本体を置くだけで張り付きます。)
また、トビーPCEye5 本体を「伝の心」の USB ポートに取り付けます。



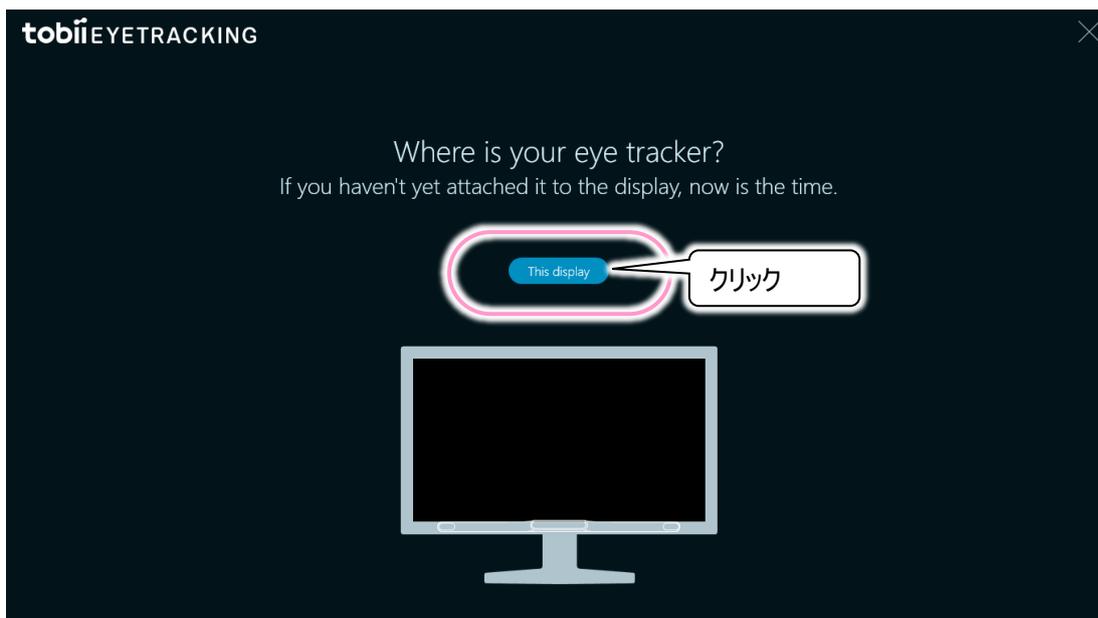
- (7) 取り付けが完了したら、**次へ** ボタンをクリックします。



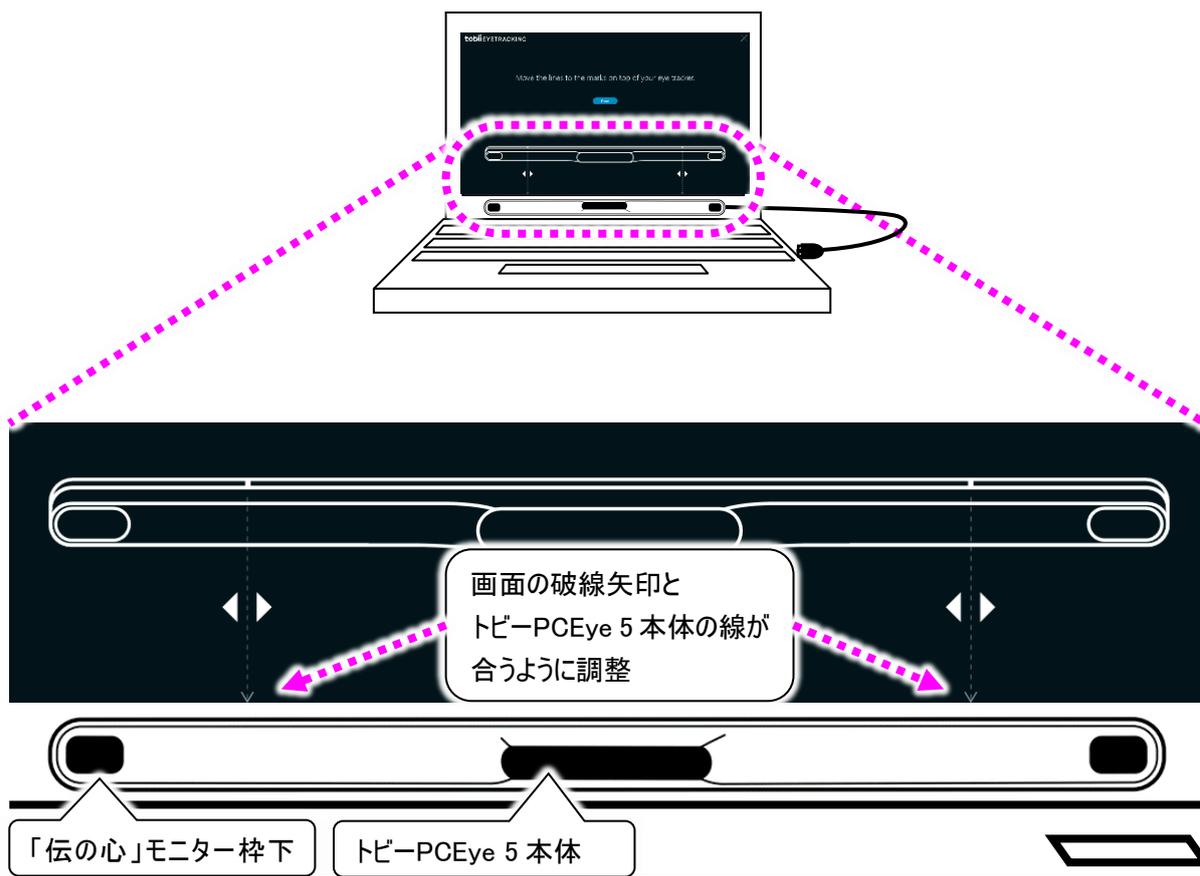
- (8) 下記画面が表示されるので、**設定** ボタンをクリックしてください。



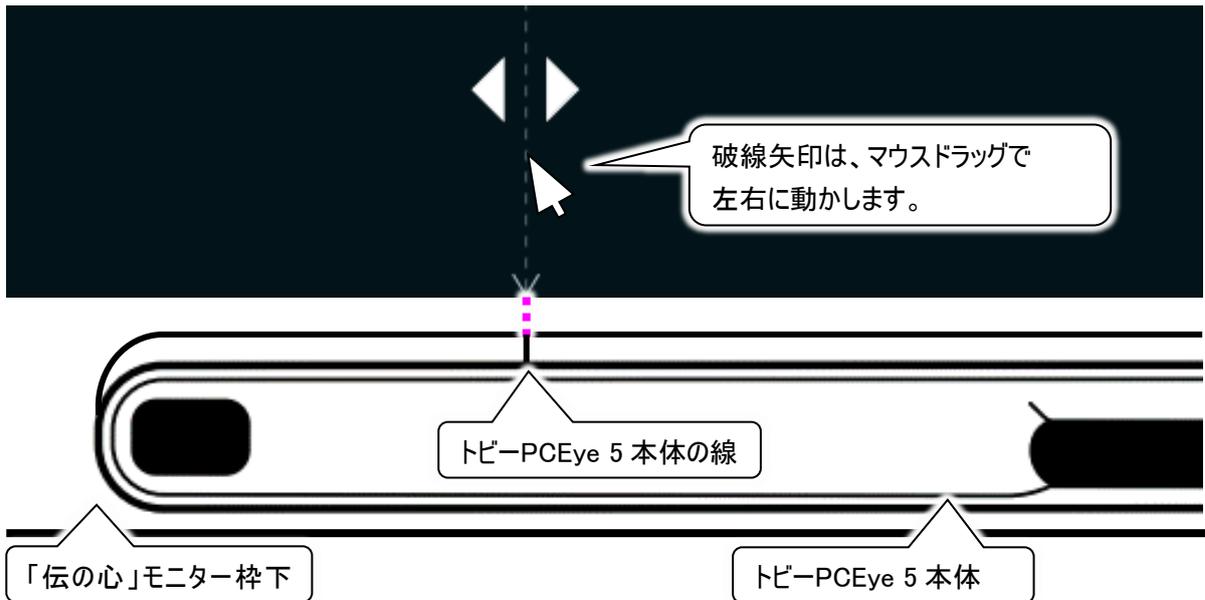
(9) 下記画面が表示されるので、**This Display** ボタンをクリックしてください。



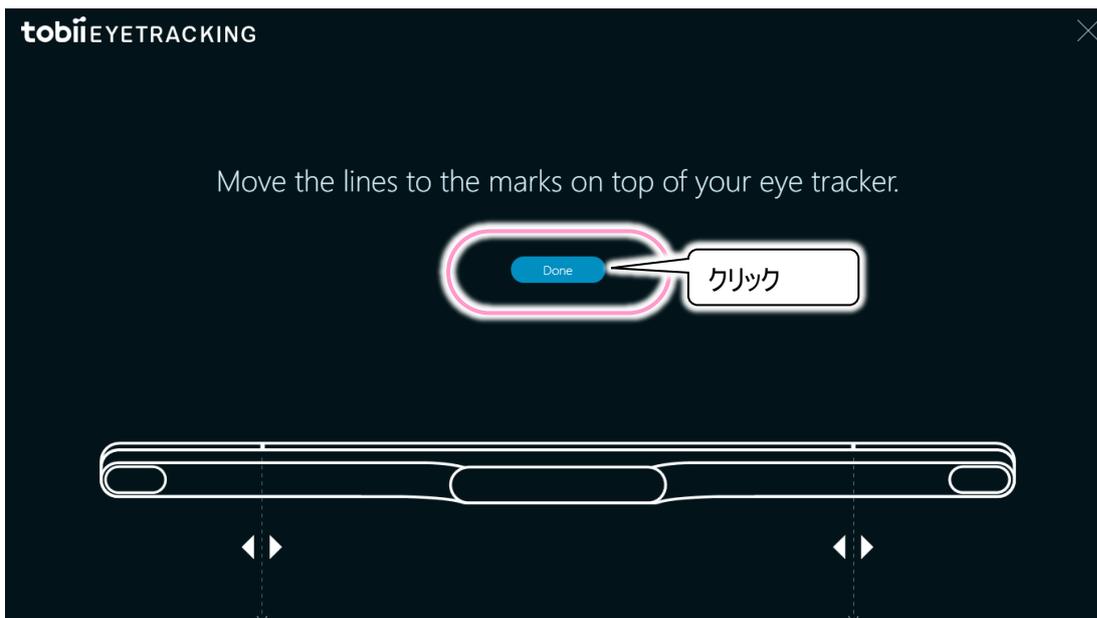
(10) トビー-PCEye5 の画像が表示されるので、取り付けた実際のトビー-PCEye5 と大きさが同じになるように、表示のガイドの破線を調整します。



- (11) 表示のガイドの破線矢印にマウスカーソルを合わせて、トビーPCEye5 本体の線の位置に破線矢印が合うように調整しましょう。



- (12) トビーPCEye5 の大きさの調整が終わったら、Done ボタンをクリックしてください。



- (13) (8)項の画面に戻るので、**次へ**ボタンをクリックします。

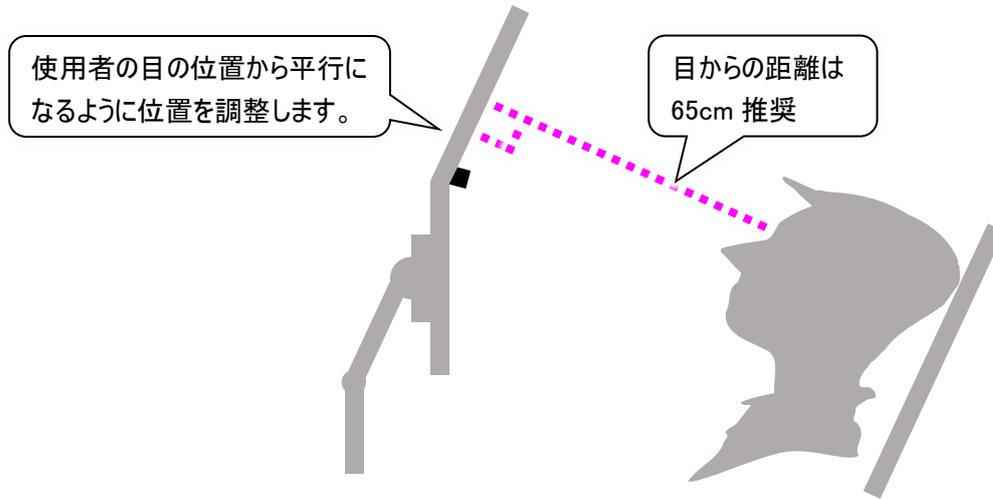


- (14) 引き続き、14 ページの「トビーPCEye5と使用者の位置を調整します」に進みます。
※表示のセットアップ画面は、下記のようにデスクトップアイコンから再表示することが可能です。

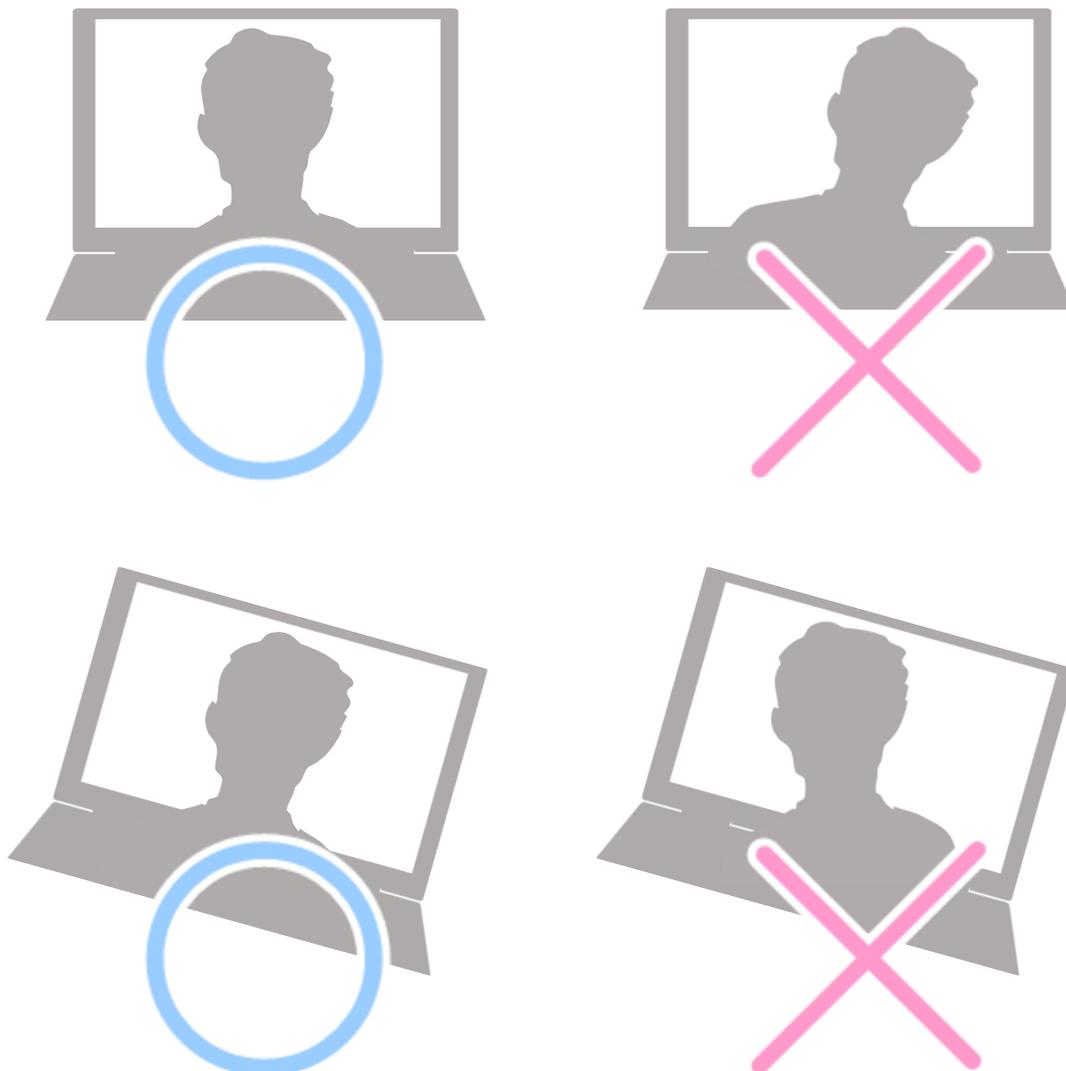


トビーPCEye5 と使用者の位置を調整します

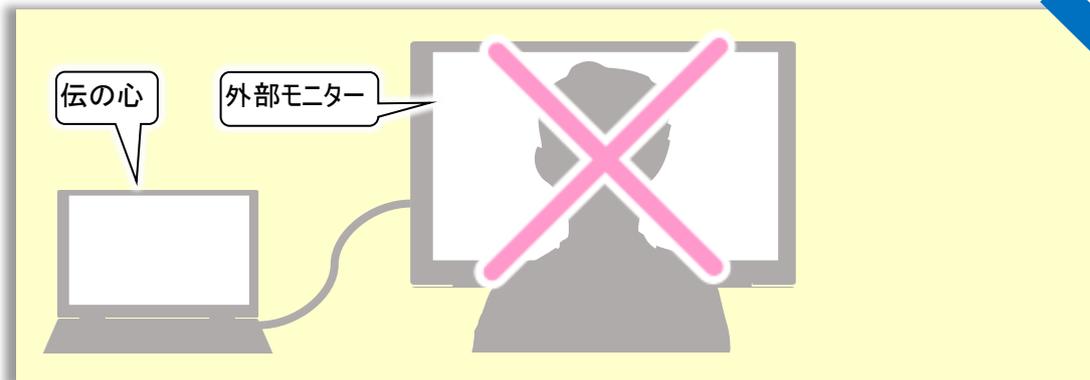
- (1) 「伝の心」のモニターと使用者の目との距離は、使用者の目の位置から平行に、50～95 cm の範囲で調整してください。(65cm を推奨します)
※モニターの中を少し見下ろす程度の位置で距離を調整すると、目の疲れが軽減されます。



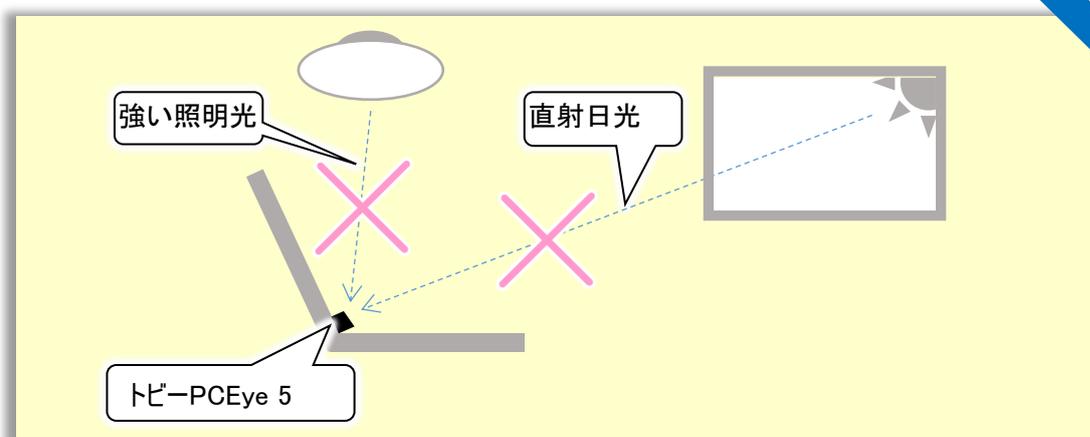
- (2) 顔が「伝の心」のモニターに対して斜めに傾いている場合、モニターや頭の位置を調整してください。



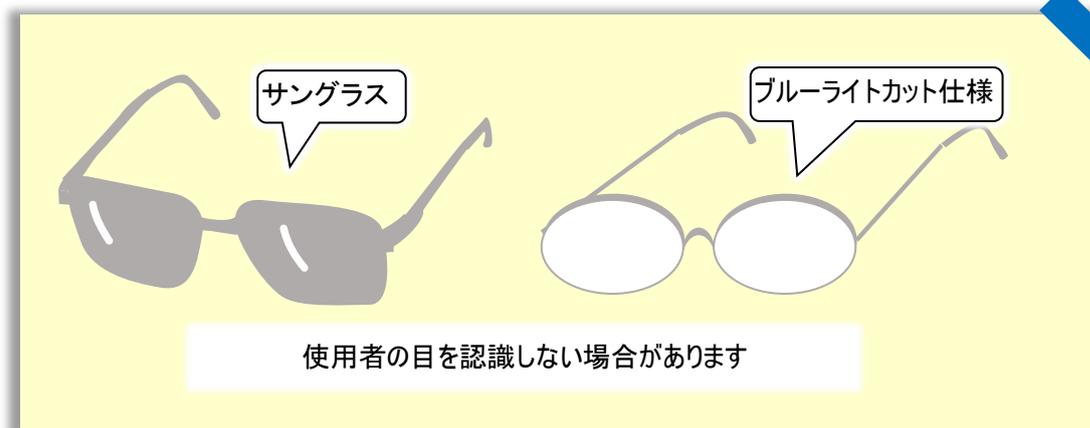
※「伝の心」に外部モニターを接続して、外部モニター側にトビーPCEye5 本体を設置して使用することはできません。



※トビーPCEye5 はパルス赤外光を使用します。直射日光や強い照明の元では正常に動作しない場合があります。その場合は、日光や照明が直接トビーPCEye5 に照射しないように設定位置を調整ください。



※使用者のメガネに関して、ブルーライトカット仕様のものは、使用者の目を認識しない場合があります。ご注意ください。また、サングラスについても同様ですので、ご注意ください。



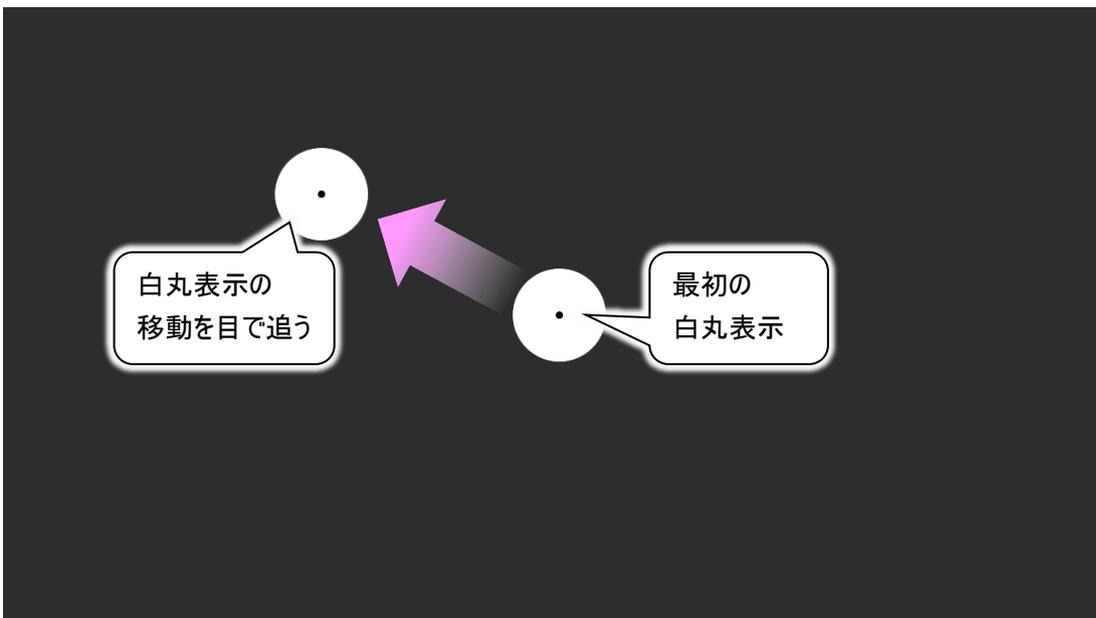
- (3) 調整が終了したら、引き続きキャリブレーション(微調整)を行いますので、16 ページの「トビーPCEye5 の設定を行います(ユーザープロファイルの作成)」に進んでください。

トビーPCEye5 の設定を行います（ユーザープロファイルの作成）

- (1) 「伝の心」のモニターに表示中の下記画面で、**キャリブレーションをする**ボタンをクリックします。

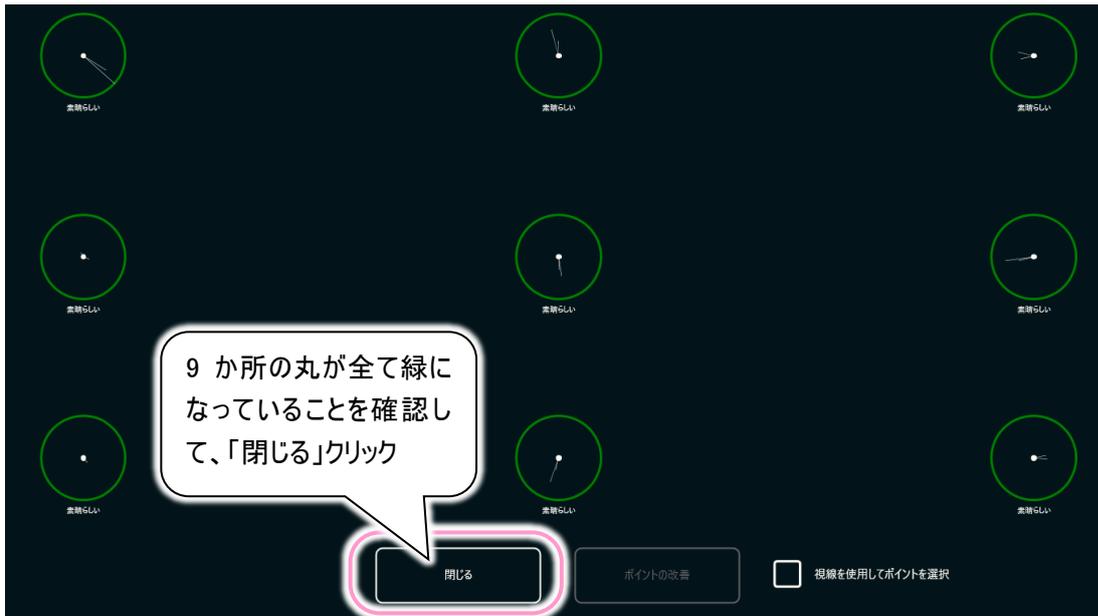


- (2) キャリブレーションが始まります。
まず画面の中心に白い「○」が表示されるので、白い「○」の中心の黒い点を見つめます。
暫くすると白い「○」が動き始めます。白い「○」を視線で追っていきましょう。



※首や体を動かさず、視線だけを白い「○」に向けます。視線を向けるのに困難を感じるようでしたら、14 ページの「トビーPCEye5と使用者の位置を調整します」を参考に、「伝の心」のモニターと使用者の位置を調整してください。

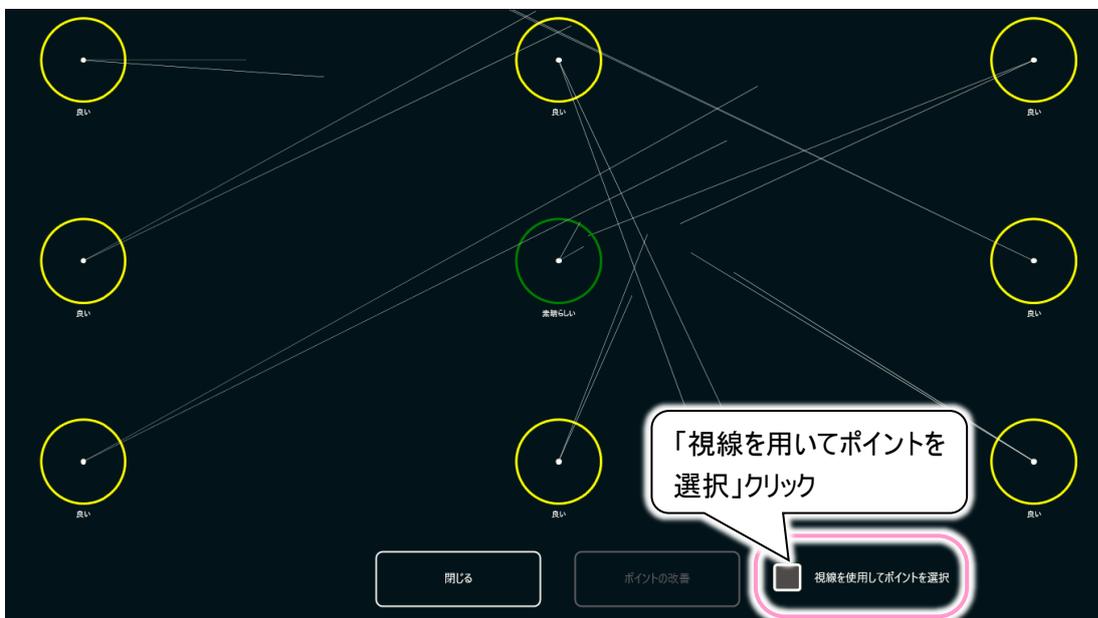
- (3) キャリブレーションが終わったら、自動的に下記のような画面が表示されます。
9か所の丸が全て緑になっていることを確認して、「閉じる」ボタンをクリックしてください。



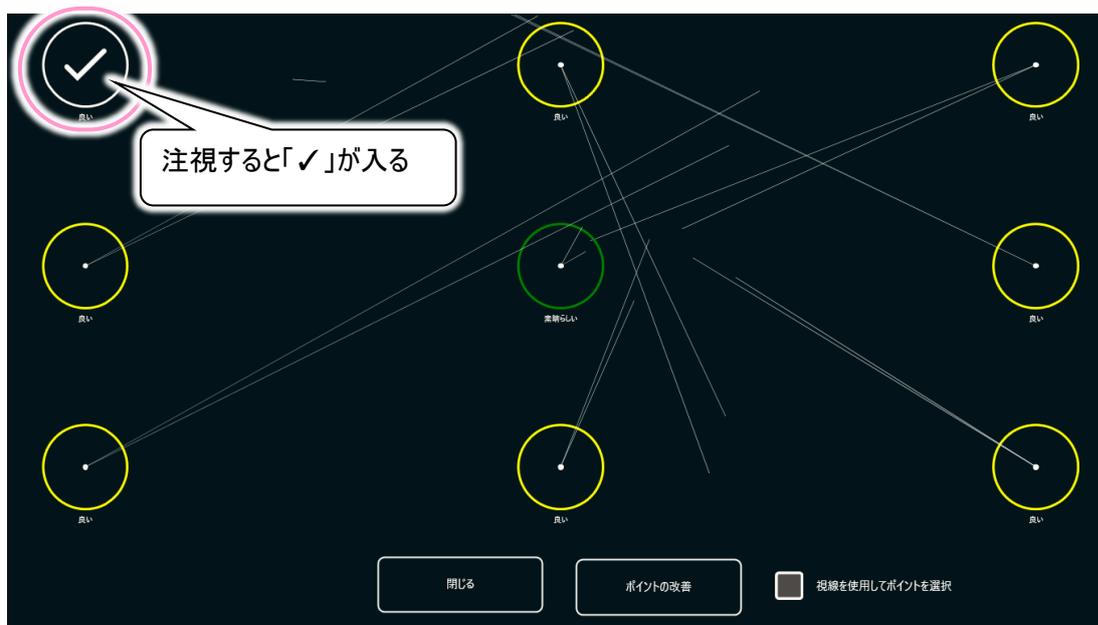
※緑の丸ではない表示がある場合、全て緑の丸になるように再度キャリブレーションを行います。
(4)項に進んでください。

9か所の丸が全て緑になって「閉じる」ボタンをクリックした場合は、(8)項に進んでください。

- (4) 下記のように緑の丸ではない表示がある場合、全て緑の丸になるように再度キャリブレーションを行います。
「視線を用いてポイントを選択」をクリックして、緑の丸ではない丸「○」に視線を動かして注視します。



(5) 注視した丸「○」にチェック「✓」が入ります。



(6) 緑の丸ではない丸「○」全てを注視して、「○」にチェック「✓」を入れたら、**ポイントの改善**ボタンを注視してください。

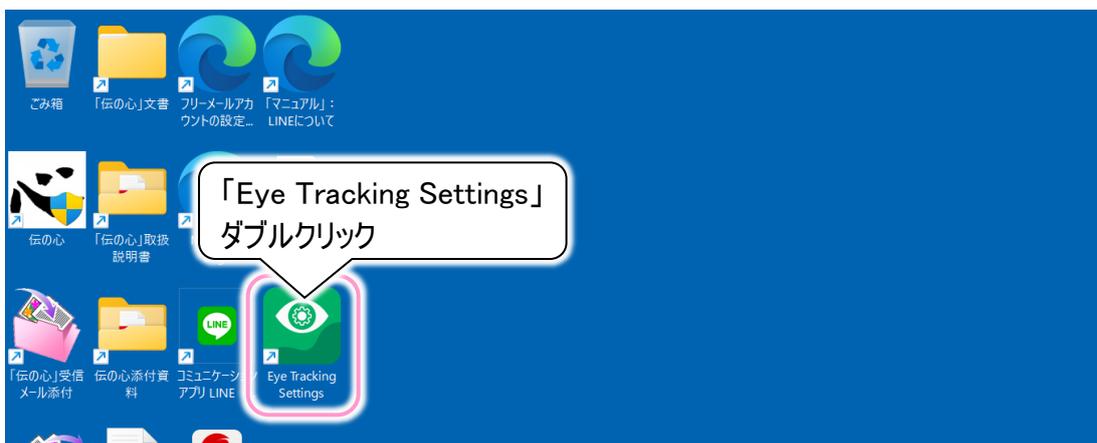


(7) チェック「✓」の入っている部分だけのキャリブレーションが始まります。
(2) 項に戻ってキャリブレーションを行ってください。

(8) **閉じる** ボタンをクリックすると、下記画面が表示されるので、**いいえ** ボタンをクリックして画面を閉じます。



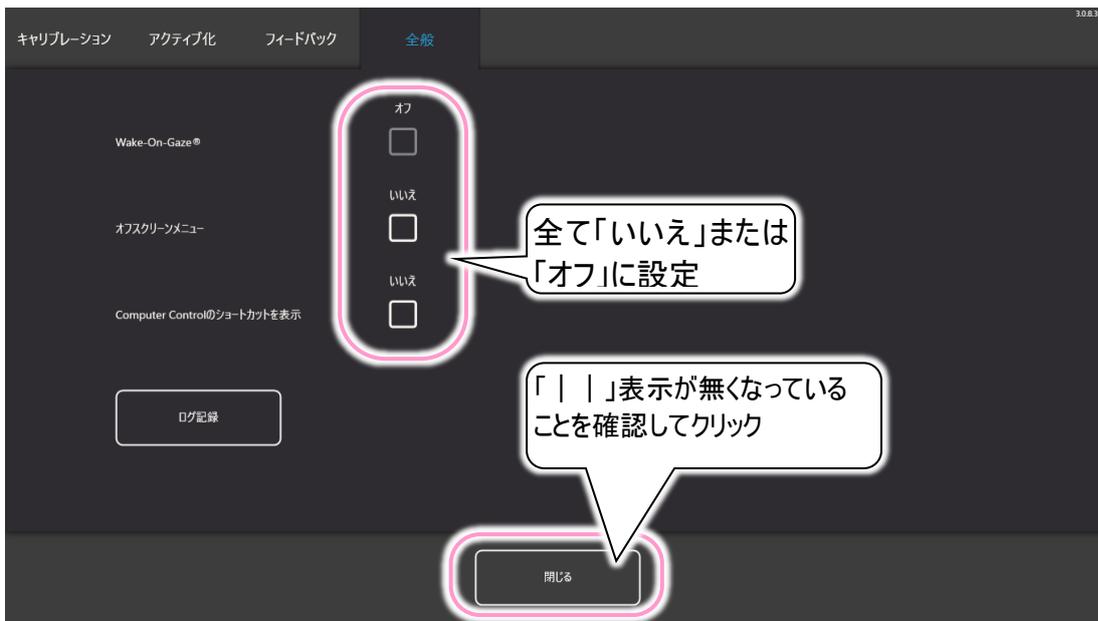
(9) 次にデスクトップの、「Eye Tracking Settings」アイコンをダブルクリックします。



(10) 「Eye Tracking Settings」画面が表示されるので[全般]タブをクリックします。



(11) 表示された項目全てを「いいえ」または「オフ」に設定します。



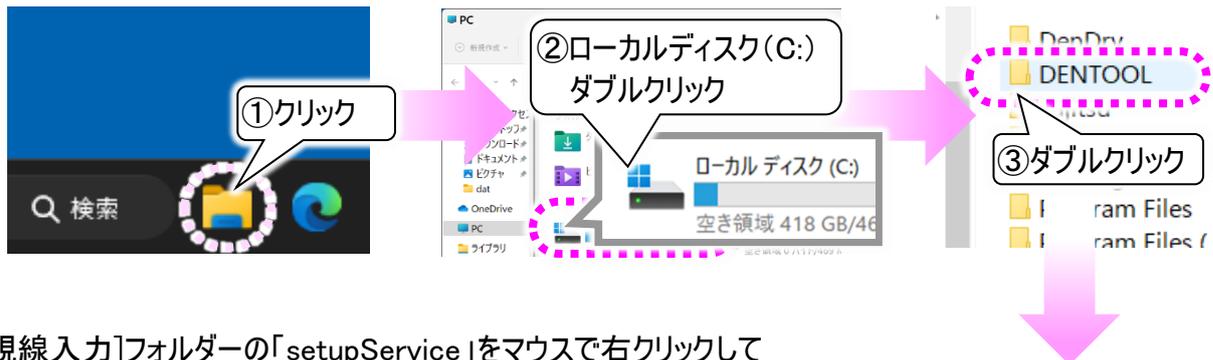
- (12) **閉じる**ボタンの上の「||」表示が無くなっていることを確認し、**閉じる**ボタンをクリックして、画面を閉じます。
- (13) 引き続き伝の心側の設定を行いますので、21 ページの「伝の心で使用できるようにします」に進んでください。

■ お願い事項

はじめて使用する場合は、27 ページの「■ 視線入力ソフトウェアについて」もご一読いただき、設定を行ってください。

○ 視線サービスの設定

- (1) デスクトップ画面下のタスクバー [エクスプローラー] アイコンをマウスでクリックします。
(※アイコンを右クリックして表示されたメニューから「エクスプローラー」を選択しても同様です。)
次に[ローカルディスク(C:)]⇒[DENTOOL]⇒[視線入力]の順にダブルクリックしていきます。



- (2) [視線入力]フォルダーの「setupService」をマウスで右クリックして表示されたメニューから「管理者として実行」をマウスでクリックします。

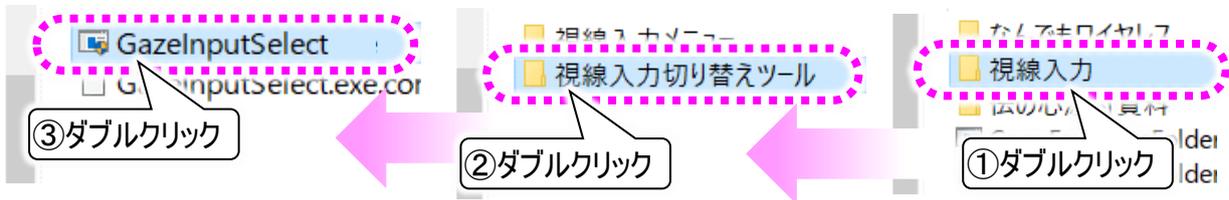


- (3) 下記画面が表示されますので、「ChangeServiceConfig SUCCESS」の表示を確認して、キーボードから「Enter」キーを押下して下記画面を閉じます。

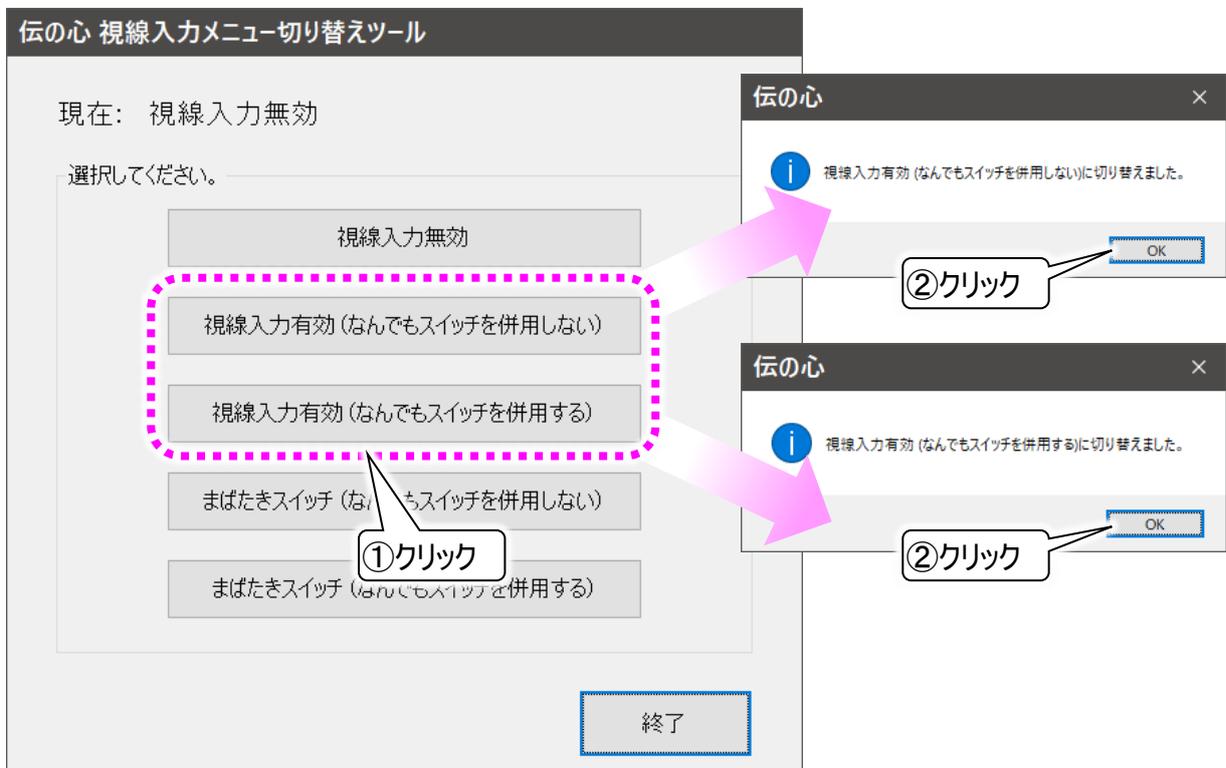
```
C:\> C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
C:\WINDOWS\system32> sc config "Eye Tracking" start=delayed-auto
[SC] ChangeServiceConfig SUCCESS
C:\WINDOWS\system32> pause
続行するには何かキーを押してください . . .
```

○視線入力メニューの切り替え

- (1) 次に、視線入力メニューへの切り替えを行います。
前項の「○視線サービスの設定」を実行していない場合は先に前項を実施ください。
実施済みの場合は、(2)項に進んでください。
- (2) [視線入力]フォルダーより、[視線入力切り替えツール]⇒[GazeInputSelect.] の順にダブルクリックします。



- (3) 下記のような画面が表示されますので、視線でマウスを動かし、視線でクリック(決定)する場合は**視線入力有効(なんでもスイッチを併用しない)**ボタンを、視線でマウスを動かし、スイッチ入力でクリック(決定)する場合は**視線入力有効(なんでもスイッチを併用する)**ボタンをクリックしてください。



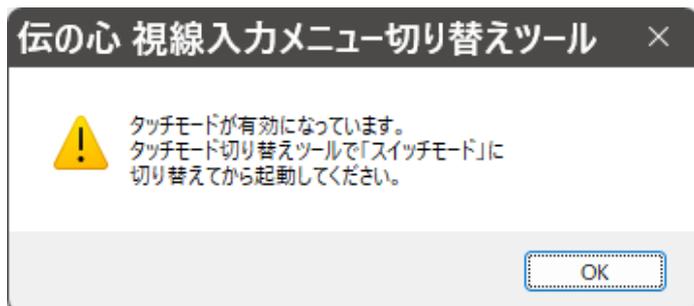
※**なんでもスイッチを併用する場合は、2点スイッチは使用できません。**

視線入力を有効にする前に、「支援者用設定」で2点スイッチの設定を行っていても1点スイッチに変更されます。

※**なんでもワイヤレスの設定がリセットされます。**

なんでもワイヤレスを使用している場合は、なんでもスイッチを併用設定にすると、スイッチの設定がなんでもスイッチに戻ります。お手数ですが再度なんでもワイヤレスを使用する設定に変更ください。

- (4) 下記のようなメッセージが表示される場合は、「伝の心」取扱説明書を参照して「スイッチモード」に設定し、再度(2)項から実施ください。

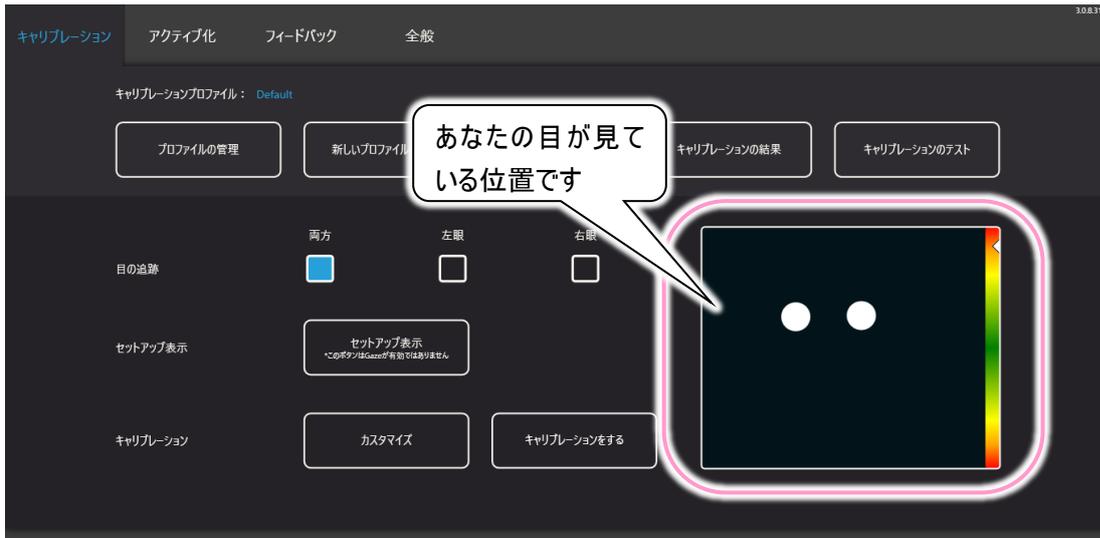


- (5) これで準備は完了です。
デスクトップの「伝の心」ショートカットから「伝の心」を起動させてください。
- (6) 次回からは電源を入れるだけで視線入力オプションが使用できます。

■ 起動と終了

視線入力有効時の「伝の心」の起動

- (1) 「伝の心」の取り扱い説明書を参照して、システム装置の電源ボタンを押します。
- (2) システム装置が起動し、キャリブレーション画面が表示されます。
ここで、14 ページの「トビーPCEye5 と使用者の位置を調整します」で調整した位置補正の確認や微調整を行えます。
- (3) まず、画面の右側の四角い枠を確認します。
表示されている2つの●が視線入力装置にて認識される目になります。
2つの●が四角い枠の真ん中付近に表示されるように、「伝の心」との位置や距離を微調整します。

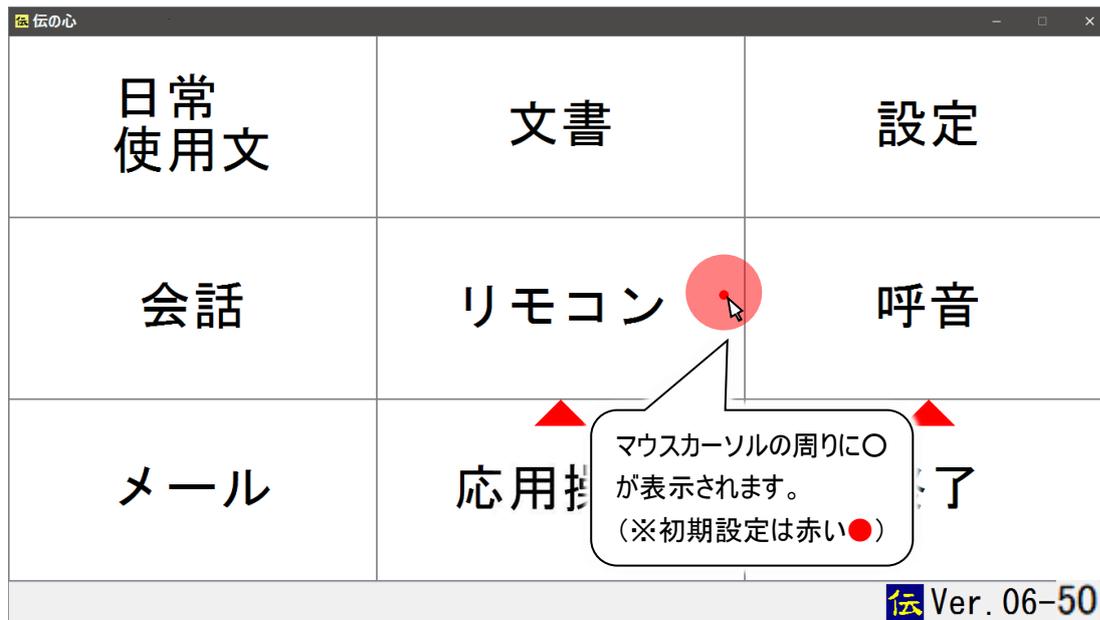


- (4) **キャリブレーションをする** ボタンを注視(クリック)してキャリブレーションを行います。キャリブレーション更新手順は、16 ページの「トビーPCEye5 の設定を行います(ユーザープロフィールの作成)」の(2)~(7)の手順と同様です。



- (5) キャリブレーションが終了すると、上記の画面に戻ってくるので、**閉じる** ボタンを注視(クリック)してキャリブレーション画面を閉じます。

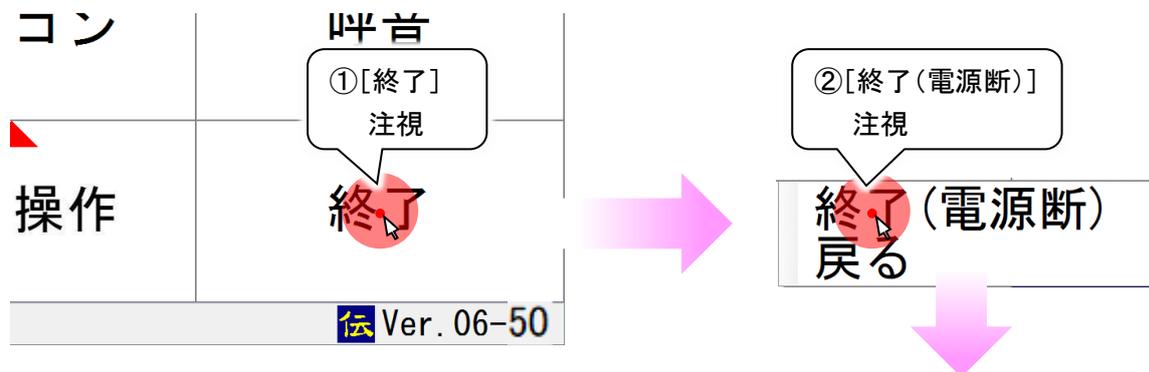
(6) 閉じるボタンを注視(クリック)して閉じると、伝の心のメインメニューが起動します。



※なんでもスイッチ併用時、注視でもクリックさせたい場合は、67 ページの「マウスクリックまでの時間(注視時間)」を参照して設定を行ってください。

視線入力有効時の「伝の心」の終了

- (1) 伝の心のメインメニューの[終了]を注視するとサブメニューが表示されるので、[終了(電源断)]をします。



- (2) 確認メッセージが表示されるので、[[はい]]を注視すると「伝の心」が終了して、システム装置の電源が切れます。

※なんでもスイッチ併用時、注視でもクリックさせたい場合は、67 ページの「マウスクリックまでの時間(注視時間)」を参照して設定を行ってください。



■視線入力ソフトウェアについて(必ずお読みください)

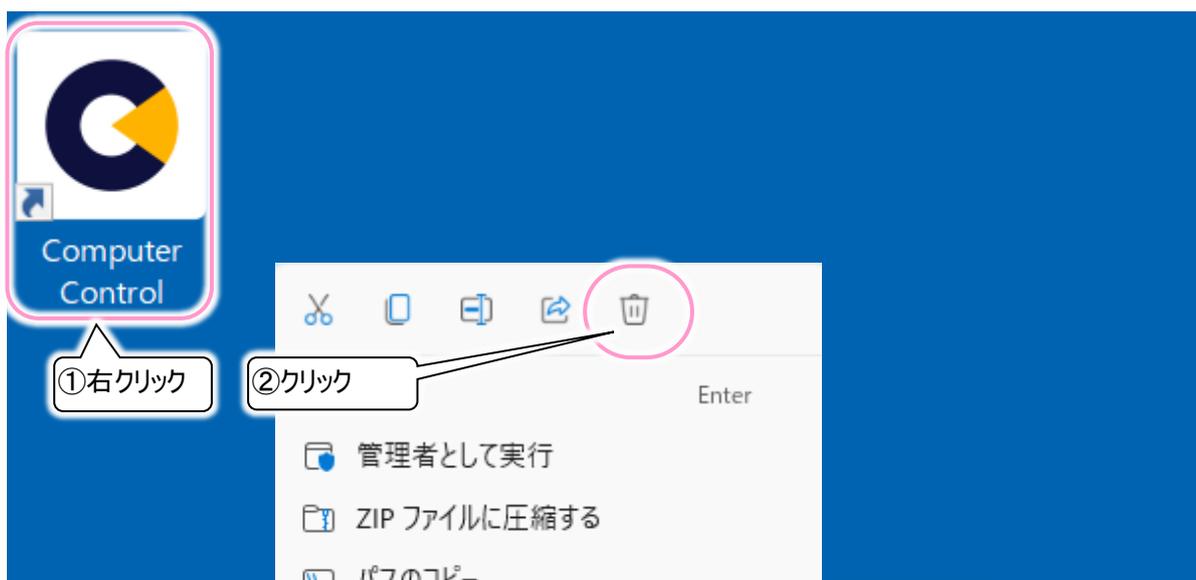
視線入力を使用するために、ソフトウェアをインストールすると、デスクトップ画面に「Eye Tracking Settings」「Computer Control」「Update Notifier」の 3 つのショートカット、デスクトップ画面下のタスクトレイに「Eye Assist」が自動的に表示されるようになります。

各々のツールについて、注意事項や設定がありますので、必ずご確認ください。

Computer Control について

伝の心の視線入力と同時に使用することはできません。使用しないでください。

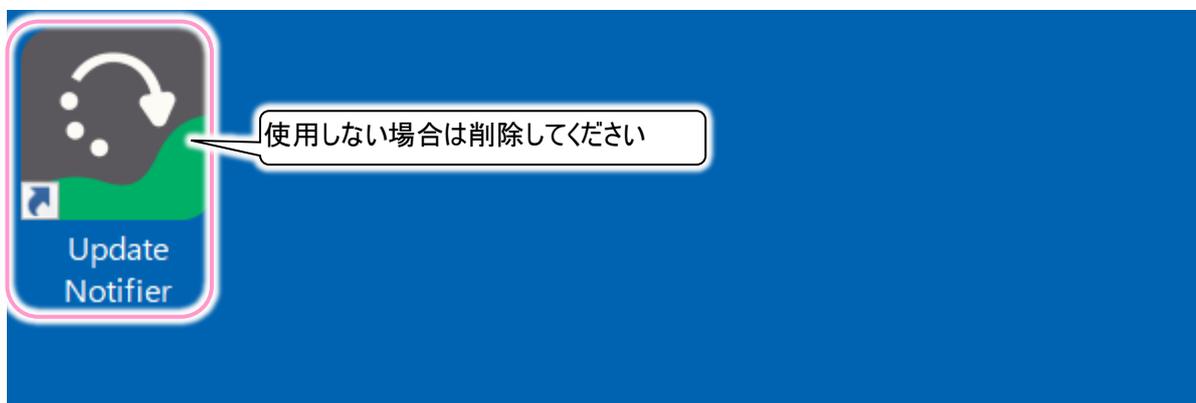
デスクトップ画面のショートカットは、アイコンの右クリックで表示されるメニューから「削除」アイコンを選択して、削除してください。



Update Notifier について

視線入力ソフトのアップデートを行う画面を表示します。アップデートを行うと、トビーPCEye5 の再設定が必要になる場合がありますので、使用はお勧めしません。

使用しない場合は、デスクトップ画面のショートカットは、アイコンの右クリックで表示されるメニューから「削除」を選択して、削除してください。



また、「伝の心」電源 ON 時に起動する設定がされていますので、下記の手順にて起動しないように設定してください。設定しないと、視線入力ソフトのアップデートがあった場合は自動的にアップデート画面を表示して伝の心の操作ができなくなる場合もあります。

- (1) デスクトップ画面下の [スタート] アイコンを右クリックしてメニューを表示し、表示されたメニューから「タスクマネージャー」をマウスでクリックします。



- (2) タスクマネージャー画面が表示されるので、[スタートアップ] アイコンをクリックします。



- (3) 「Tobii Dynavox Update Notifier」の表示をクリックして、無効化ボタンをクリックします。

- (4) 無効化ボタンが有効にするボタンに変化することを確認し、タスクマネージャー画面右上の「×」ボタンをクリックして画面を閉じます。

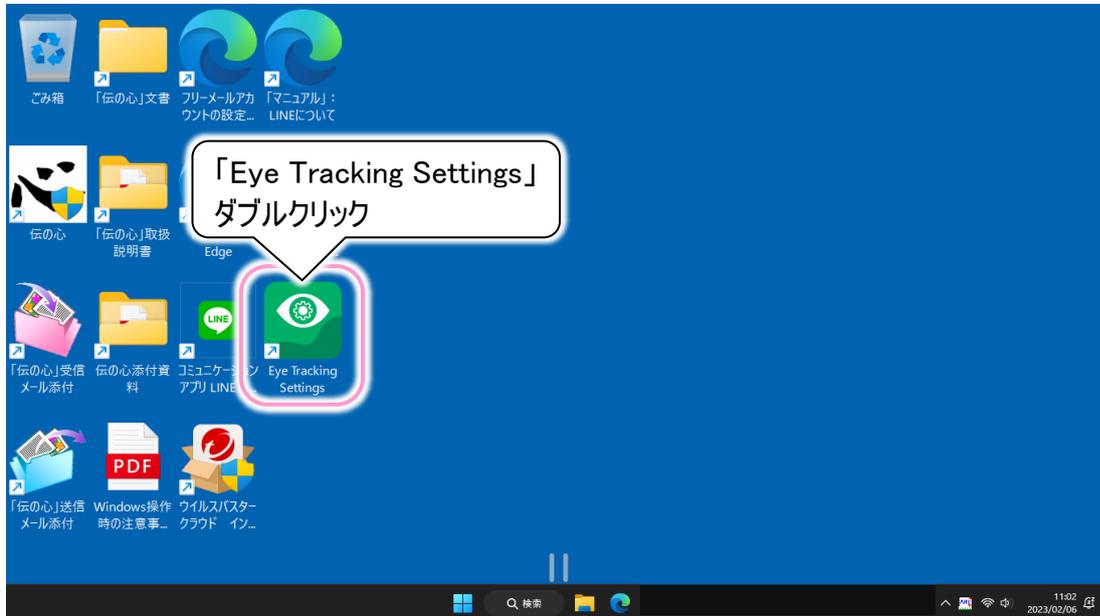


Eye Tracking Settings について

「Eye Tracking Settings」は、画面表示の調整やキャリブレーションなどの各種設定を行うツールです。初めて視線入力オプションを使用する場合は、ご一読いただき、設定を行ってください。

○起動・終了

(1) デスクトップの、「Eye Tracking Settings」アイコンをダブルクリックします。



(2) 下記画面が表示されます。



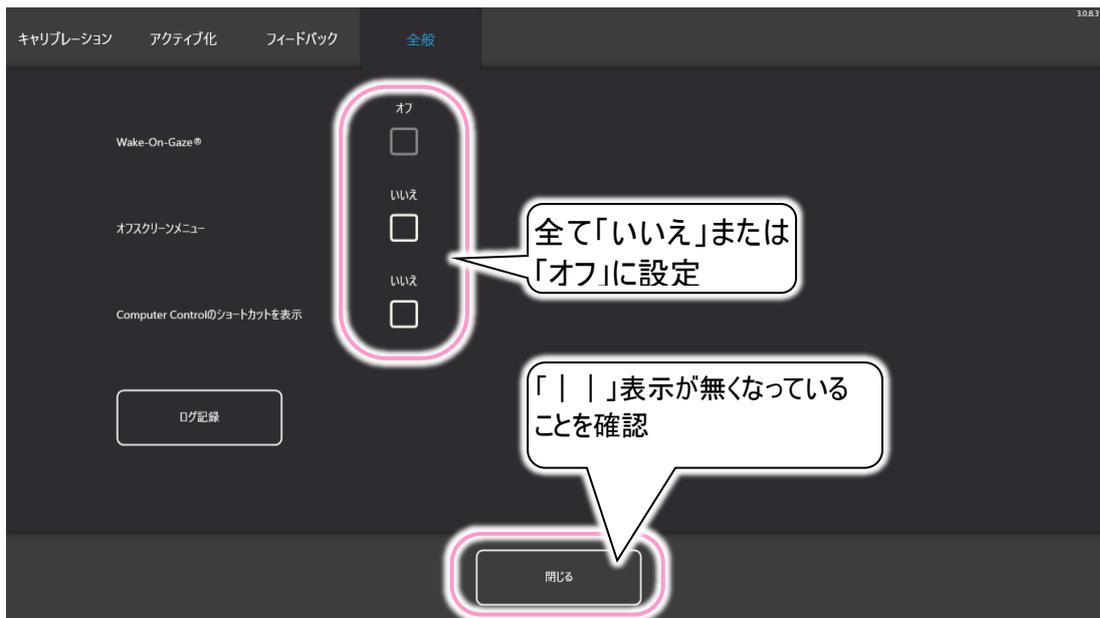
(3) **閉じる** ボタンをクリックすると、画面は閉じます

○全般の設定

(1) 「Eye Tracking Settings」画面の[全般]タブをクリックします。



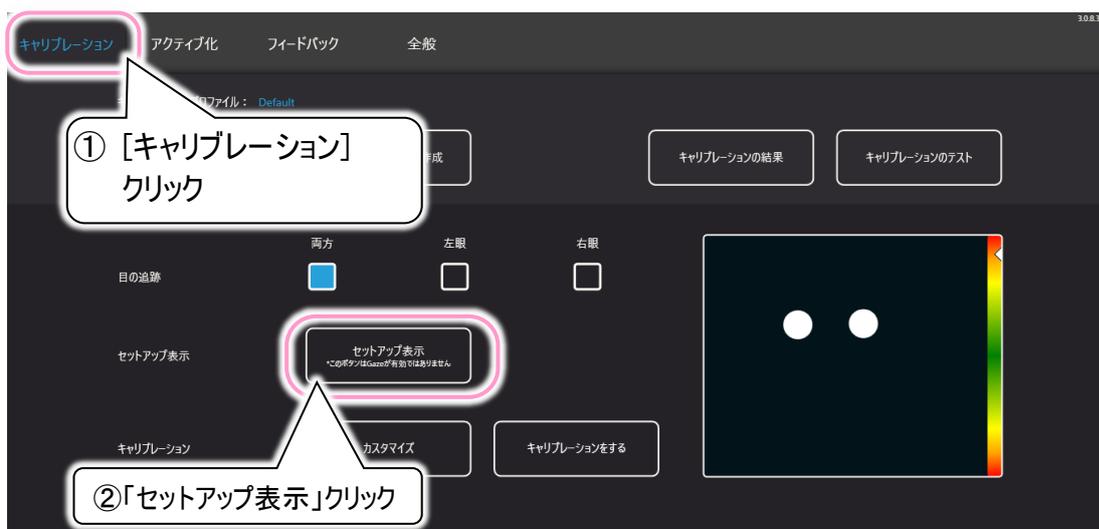
(2) 表示された項目全てを「いいえ」または「オフ」に設定します。



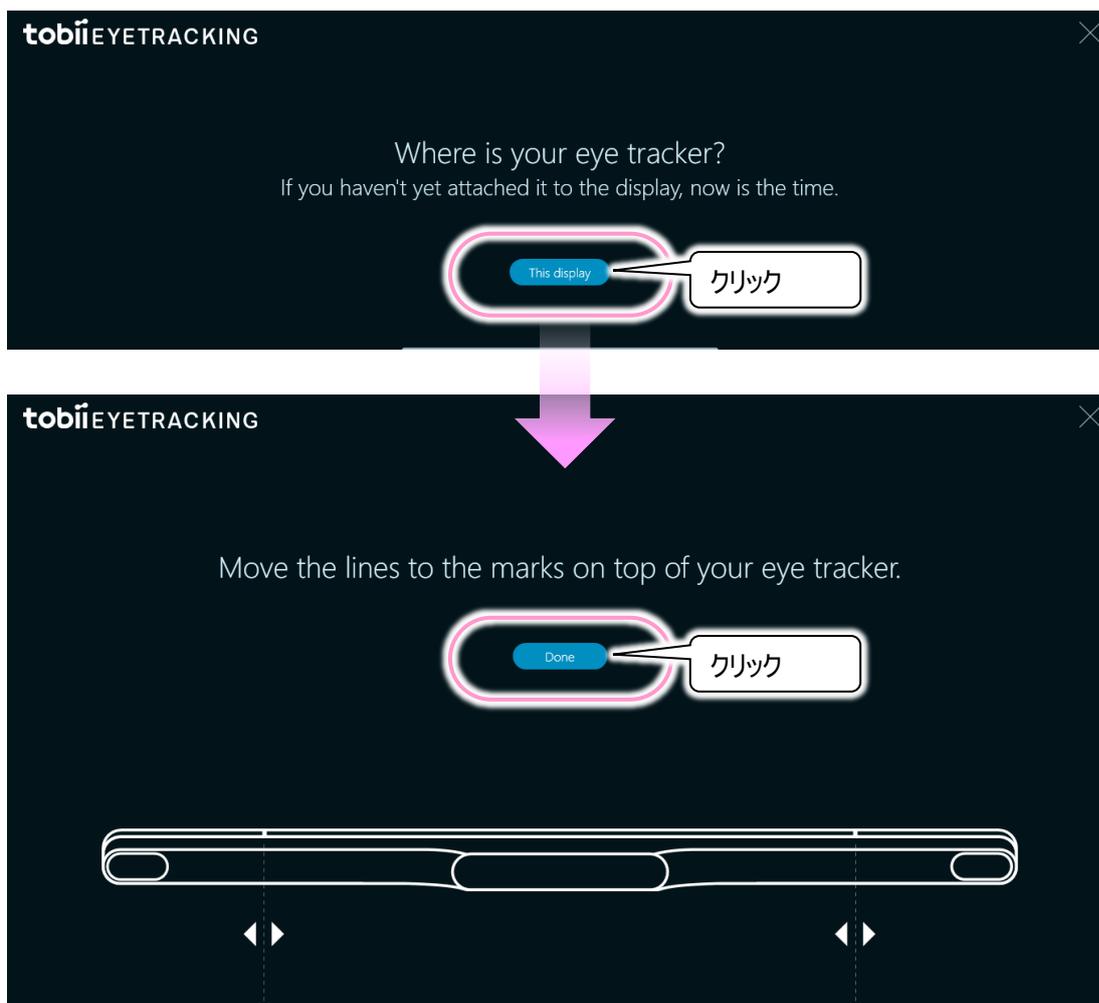
(3) **閉じる**ボタンの上「||」表示が無くなっていることを確認します。

○表示のセットアップ

- (1) 「Eye Tracking Settings」画面の[キャリブレーション]タブをクリックします。



- (2) セットアップ表示ボタンをクリックすると、下記画面が表示されます。トビーPCEye5 を取り外して再度取り付けする場合などで、画面の位置調整をする際にご利用ください。



- (3) Doneボタンまたは右上×のクリックで画面は閉じます。

○ユーザープロフィールの設定(キャリブレーション)

- (1) 「Eye Tracking Settings」画面の[キャリブレーション]タブをクリックします。



- (2) 目の追跡のオプションが設定可能です。
初期設定は[両方]ですが、両目で見ているのに片目しか認識されないときがある場合は、
[左眼]又は[右眼]をクリックして選んでください。



- (3) 「キャリブレーションをする」ボタンをクリックします。



(4) 下記画面が表示されたら、**はい** ボタンをクリックしてください。



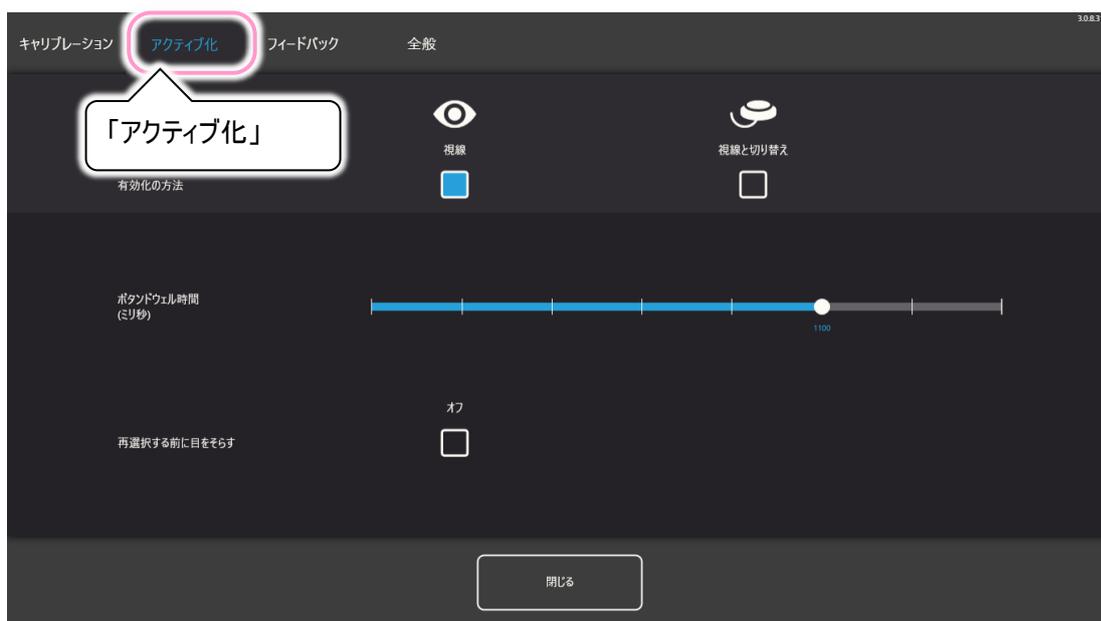
(5) キャリブレーション更新手順は、16 ページの「トビーPCEye5 の設定を行います（ユーザープロフィールの作成）」の(2)～(7)の手順と同様です。

※キャリブレーションの更新は、CPU 負荷が非常に高くなるため、OS の状態によっては視線制御ソフトが停止してしまうことがあります。停止すると操作不能になってしまいますので、キャリブレーションの更新を行う場合は、必ず支援者の方と一緒に行ってください。

視線制御ソフトが停止した場合は、76 ページの「キャリブレーションを行ったら、動作不能になった」を参照ください。

○その他の設定

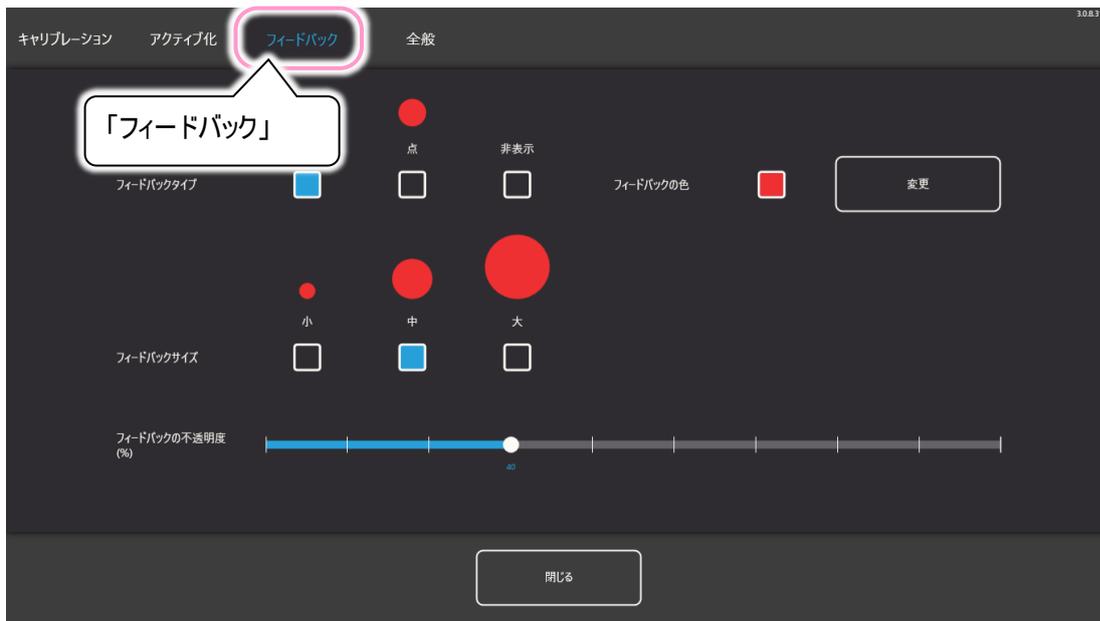
(1) 「Eye Tracking Settings」画面の[アクティブ化]タブをクリックすると、下記画面が表示されます。



(2) この画面の設定は特に変更の必要はありません。
特に、「有効化の方法」の設定は、「視線」のままにしてください。
「視線と切り替え」にはしないでください。



(3) 「Eye Tracking Settings」画面の[フィードバック]タブをクリックすると、下記画面が表示されます。



(4) ここでの設定は、「Eye Tracking Settings」画面の操作にのみ有効です。
伝の心が起動すると、伝の心の視線設定に従った表示に切り替わります。

タスクトレイの Eye Assist について

デスクトップ画面右下のタスクトレイには、「Eye Assist」が常駐します。
このソフトは終了させないでください。



間違えて終了させてしまった場合は、システム装置を再起動させてください。

視線入力オプションを使う(基本編)

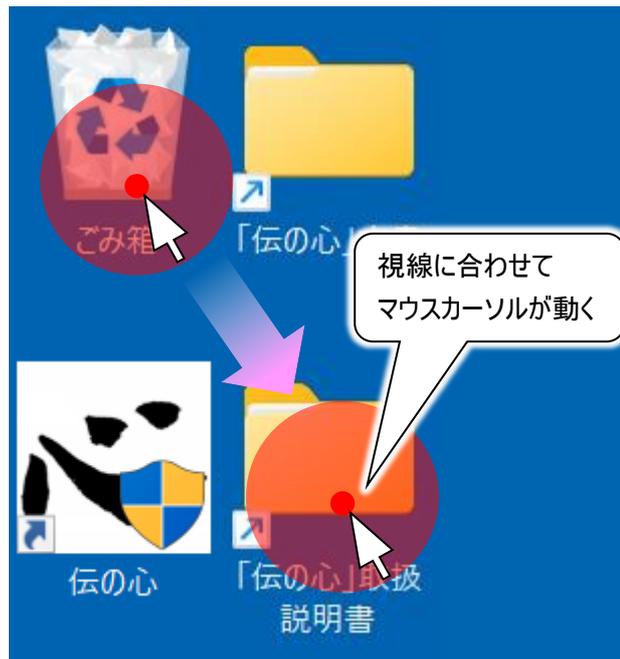
■マウスカーソルとクリック(決定)動作

視線で動かすカーソル移動

視線を向けた位置にマウスカーソルが動きます。
マウスカーソルの周りには色付きの円が表示されます。

視線の自然な揺れを吸収するために、この円の中から視線が外れた時にマウスカーソルが視線に追従して動くようになります。

※円の大きさや色は設定で変更可能です。また、円を非表示にすることも可能です。
詳細は 68 ページの「マウスカーソルの周りの円の大きさ(視線カーソル)と表示の有無」を参照ください。



クリック(決定)するには

マウスカーソルが同じエリアに一定時間留まっていると、マウスカーソルの周りの色付きの円が時計回りに消えていき、円が消えた時にクリック動作が行われます。



※伝の心の「Windows 操作」以外では、マウスクリックは全て左クリックとなります。
「Windows 操作」については 55 ページの「■Windows 操作(視線入力有効時)」をご覧ください。

※なんでもスイッチを併用する場合

スイッチ入力でマウスクリック動作が行われますので、マウスカーソルの周りの色付きの円が消える前にクリック動作を行うことができます。

色付きの円が消え始めていなくても同様です。

初期設定は注視無効となっていますので、色付きの円は消えません。

注視でもクリックさせたい場合は、67 ページの「マウスクリックまでの時間」を参照して設定を変更してください。

※クリック動作が行われるまでの時間は変更可能です。詳細は 67 ページの「マウスクリックまでの時間」を参照ください。

■視線入力の一時的停止・再開

伝の心のガイドス行の注視で一時的停止・再開が可能です

○一時的停止

ガイドス行を一定時間注視すると、**伝**アイコンが**休**アイコンに変化して、視線入力を一時的に停止します。



※なんでもスイッチを併用の場合でも、一時的停止はスイッチ入力では開始しません。ガイドス行を一定時間注視してください。

○視線入力再開

休止解除表示になっているタイトル行を一定時間注視すると、ガイドンス行の**休**アイコンが**伝**アイコンに変化して、視線入力が再開します。



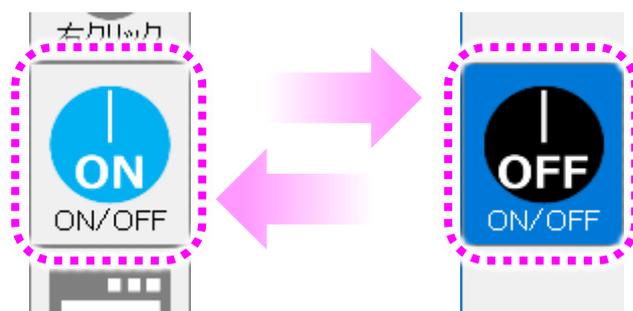
※なんでもスイッチを併用の場合でも、一時停止はスイッチ入力では解除できません。タイトル行を一定

時間注視してください。

ガイドス行が無い Windows 操作では[ON/OFF]ボタンがあります

[ON/OFF]ボタンを一定時間注視することで、視線入力を一時停止/再開と切り替えられます。

※「Windows 操作」については 55 ページの「■ Windows 操作(視線入力有効時)」をご覧ください。



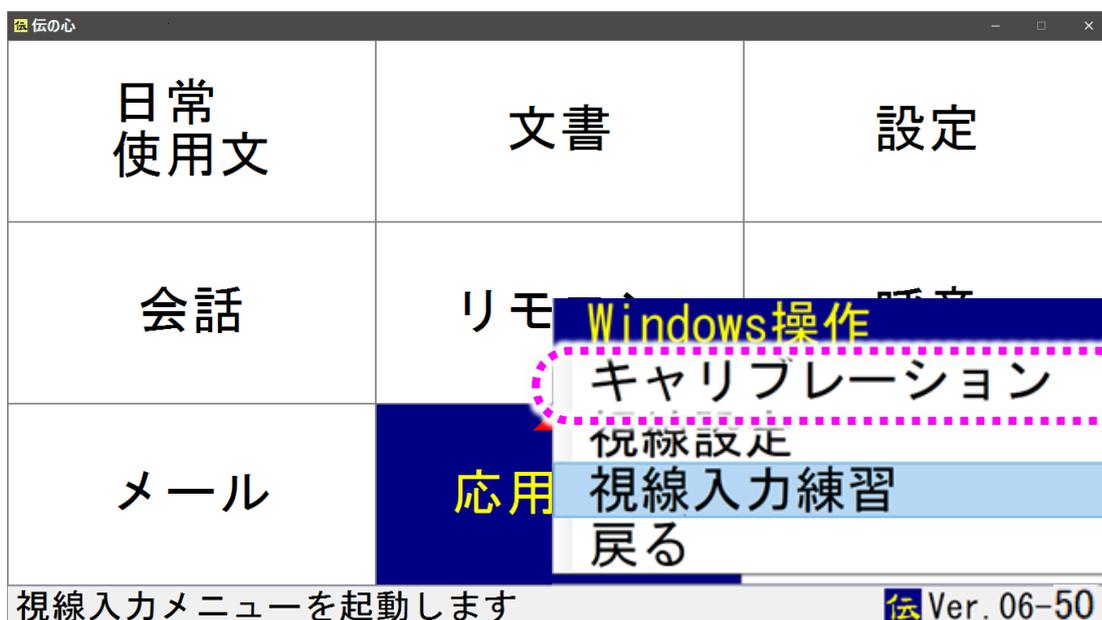
■ 視線入力が上手く行かないときは

視線がずれていると感じた時にはキャリブレーション

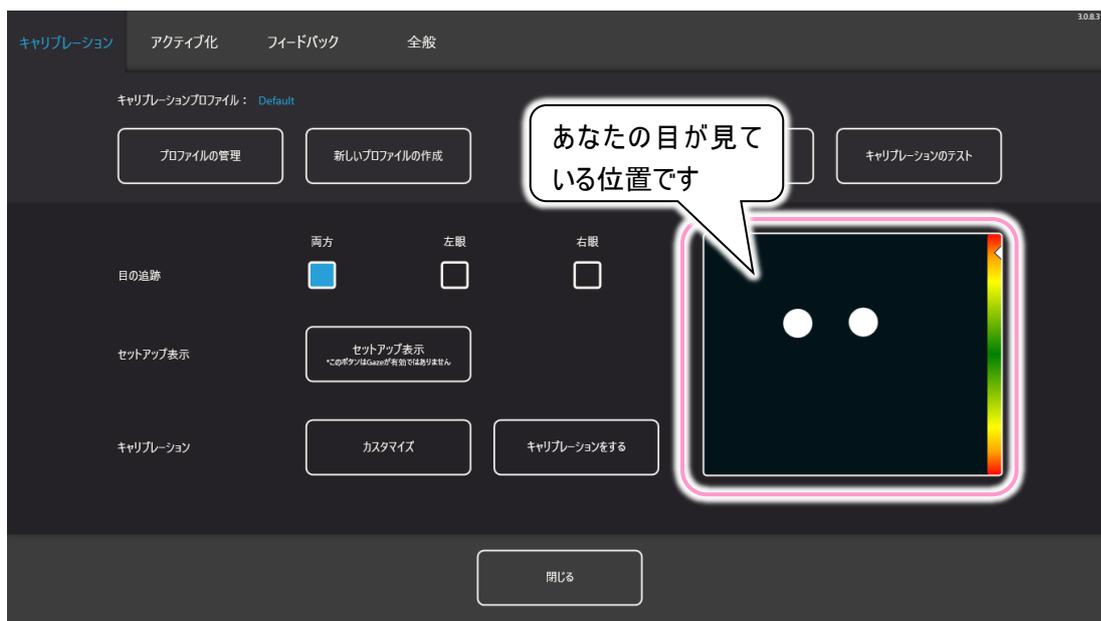
視線入力を行っている途中で、見ているところに上手くマウスカーソルが動かないと感じた場合は、キャリブレーションを行って、視線とマウスカーソルを合わせると改善するかもしれません。

「伝の心」起動時にはキャリブレーション画面が表示されますが、その時キャリブレーションを行わなくても、下記の手順でキャリブレーション画面を表示することが可能です。

(1) 伝の心のメインメニューから[応用操作]→[キャリブレーション]を選択します。



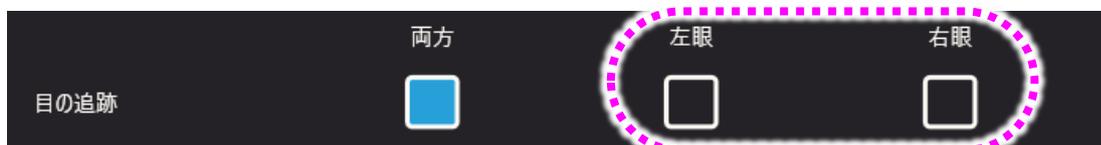
(2)「伝の心」起動時に表示された位置補正画面が表示されます。



(3)ここでは、体の傾き、上下左右の位置、距離の確認ができます。

体が左右に傾いていたり、目の位置が画面中央よりずれていたりした場合は、次に表示されるキャリブレーション画面でのキャリブレーションが正しく行われなことがありますので、ここで調整します。調整の手順は、24 ページの「視線入力有効時の「伝の心」の起動」の(3)の手順と同様です。

(4)片目だけで見ている方、または左右どちらかの目を見た方が、上手くマウスカーソルを動かせる方は、目の追跡の設定の[左眼]又は[右眼]を注視して選択してください。

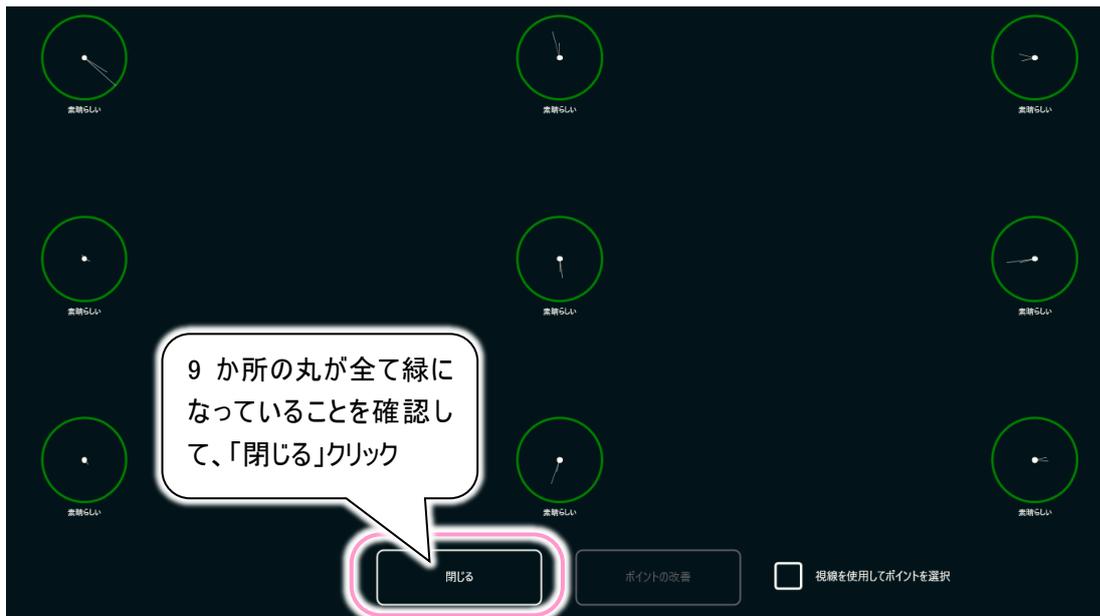


※[左眼]または[右眼]を選択した場合、片目を閉じる必要はありません。

(5)次に「キャリブレーションをする」ボタンを注視(クリック)してキャリブレーションを行います。キャリブレーション更新手順は、16 ページの「トビーPCEye5 の設定を行います(ユーザープロフィールの作成)」の(2)～(7)の手順と同様です。



- (6) キャリブレーション結果画面にて、9か所の丸が全て緑になっていることを確認して、**閉じる**ボタンを注視(クリック)してください。



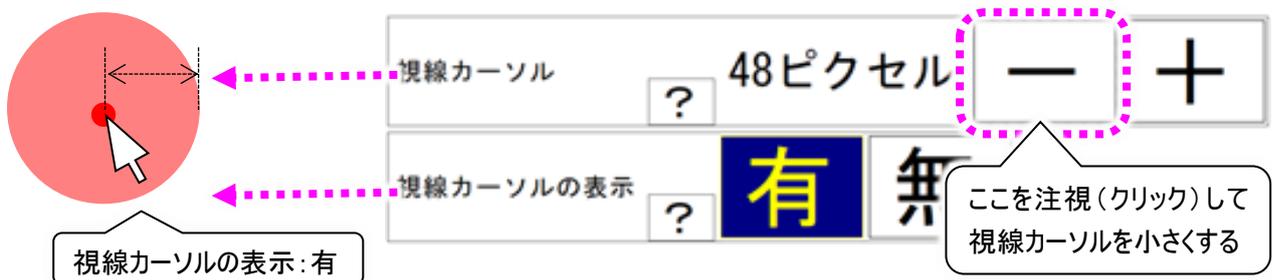
- (7) (2)の画面に戻ってくるので、**閉じる**ボタンを注視(クリック)して伝の心のメインメニューに戻ります。
- (8) キャリブレーションを行っても上手くマウスカーソルが動かないと感じた原因は、視線とマウスカーソルのずれではありません。44ページの「マウスカーソルの動きがぎこちない・動きすぎると感じた時には」を参照してマウスカーソルの動きを調整してみてください。

マウスカーソルの動きがぎこちない・動きすぎると感じた時には

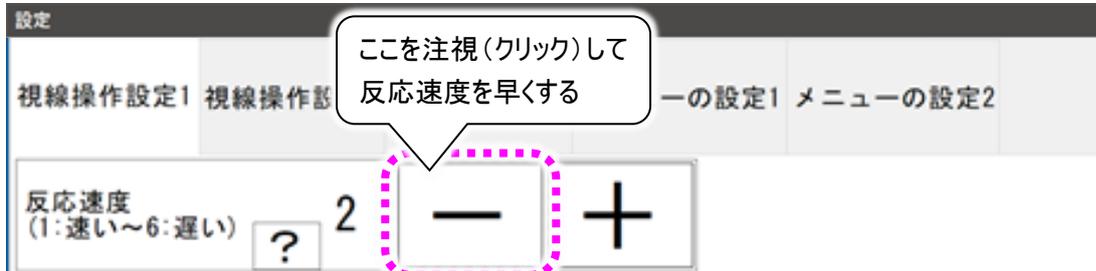
人間の目には、生理的眼振(正常な眼振)があり、常に一点を集中して見ているものではありません。伝の心の視線入力ソフトウェアはこの生理的眼振を考慮して、マウス追従の無効範囲を設けております。また、視線を向けた位置に、マウスカーソルが移動を始める早さも若干時間を設けております。このマウス追従の無効範囲やマウスカーソルが移動を始める早さを調整することによって、各使用者に合わせた設定が可能です。視線入力の設定の詳細は、64 ページの「**■視線入力の設定**」を参照ください。

○マウスカーソルの動きがぎこちない

マウス追従の無効範囲を小さくすると、視線の動きが小さくてもマウスが動き始めます。68 ページの「マウスカーソルの周りの円の大きさ(視線カーソル)と表示の有無(視線カーソルの表示)」を参照して「視線カーソル」の設定を小さくしてみましょう。



また、マウスカーソルが移動を始める早さを早くすると、視線の動きにマウスがすぐ反応するようになります。67 ページの「視線のマウス追従速度(反応速度)」を参照して「反応速度」の設定を速くしてみましょう。



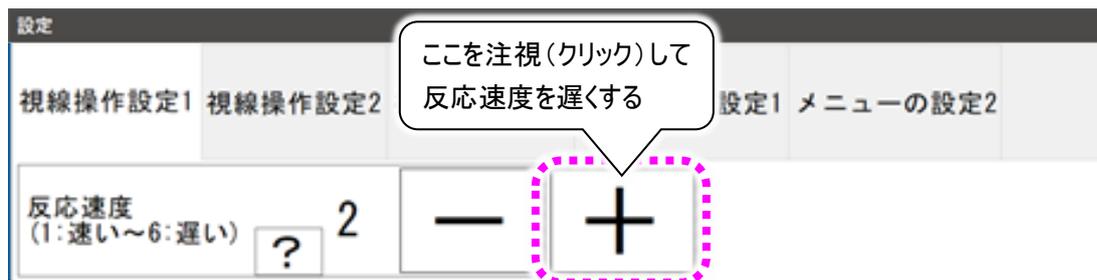
○マウスが動きすぎる

生理的眼振が大きいかもしれません。マウス追従の無効範囲を大きくすると、生理的眼振でマウスが動き始めることが少なくなります。68 ページの「マウスカーソルの周りの円の大きさ(視線カーソル)と表示の有無(視線カーソルの表示)」を参照して「視線カーソル」の設定を大きくしてみましょう。



※あまり大きくすると、細かいマウスの動きができなくなるので、注意しましょう。

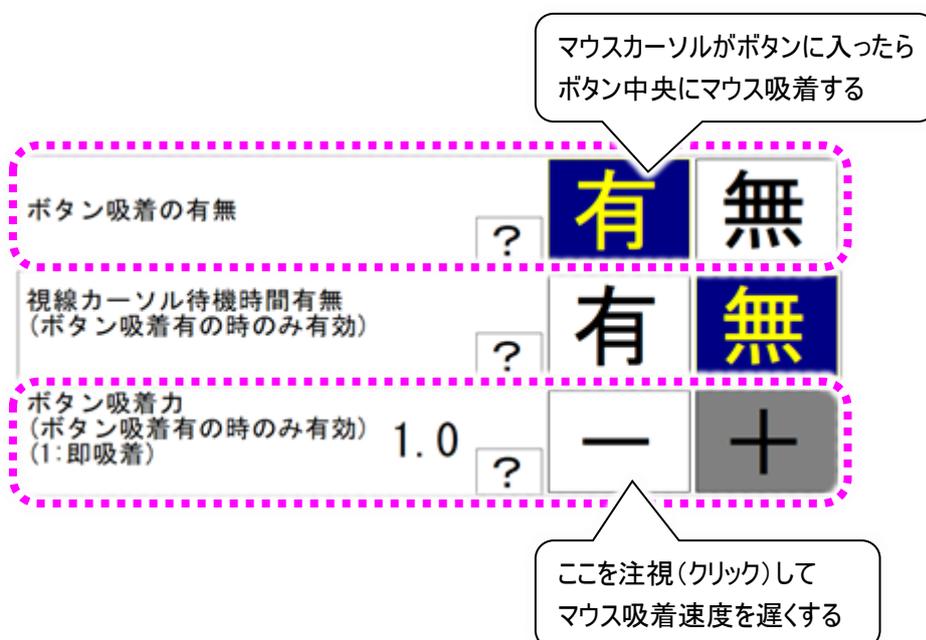
また、マウスカーソルが移動を始める早さを遅くすると、視線の動きにマウスがすぐ反応しないようになります。
67 ページの「視線のマウス追従速度(反応速度)」を参照して「反応速度」の設定を遅くしてみましょう。



○マウスカーソルが一瞬で飛んだように動く

マウスカーソルのボタン吸着が影響しているかもしれません。ボタン吸着力を小さくしたり、ボタン吸着を無効にしたりすると、ゆっくりと動くようになります。

69 ページの「マウスカーソルのボタン吸着」を参照して「ボタン吸着」の設定をしてみましょう。

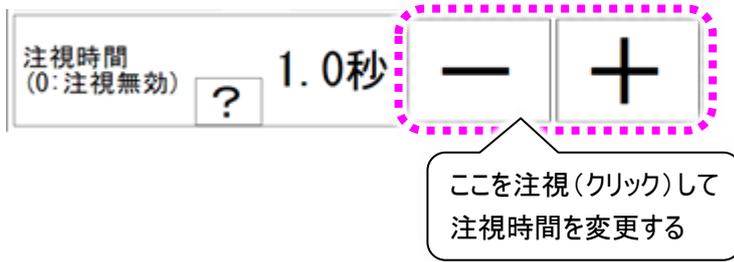


※視線カーソル待機時間とボタン吸着力の設定は、ボタン吸着「有」の場合のみ有効です。

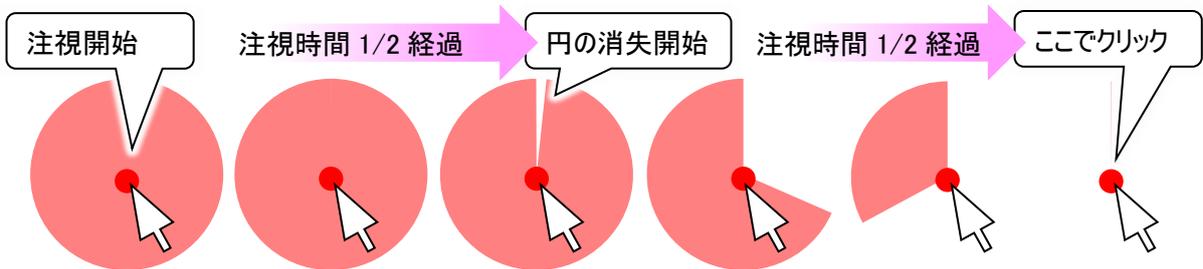
マウスクリックまでの時間が早すぎる・遅すぎると感じた時には

マウスクリックまでには一定の時間同じところを注視していなくてもはなりませんが、この注視時間は設定によって変更可能です。

67 ページの「マウスクリックまでの時間(注視時間)」参照して「注視時間」の設定を変更してみましょう。



視線カーソルを表示する設定(出荷時の設定)にしている場合は、注視時間の 1/2 の時間が経過すると、視線カーソルの円が時計回りに消失を始め、完全に消失したところでクリックが実行されます。

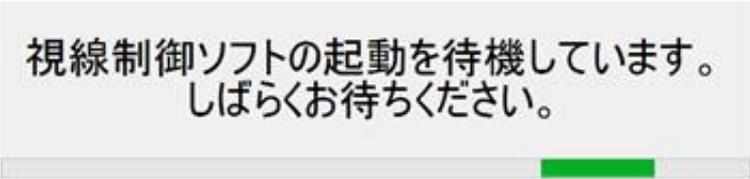


視線入力オプションを使う(詳細編)

■通常版「伝の心」との違い

電源 ON 時の起動画面について

システム装置の電源ボタンで起動時、右記の画面が表示されます。



視線制御ソフトの起動を待機しています。
しばらくお待ちください。

操作が連続して行われる機能の制限について

[↑]、[↓]、[←]、[→]などの、スイッチ入力するまで連続で動作するボタンに関して、**連続動作は行いません。1 回のみ動作します。**



右の図は、連続動作しない項目の一例です。

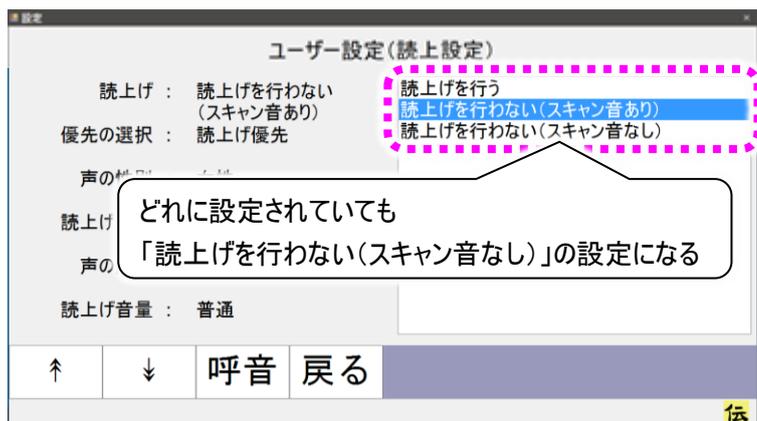


メニューの読上げやスキャン音について

読上設定において、「読上げを行う」または「読上げを行わない(スキャン音あり)」に設定してあっても、「**読上げを行わない(スキャン音なし)**」の設定で動作します。

メニューの読上げは行われず、スキャン音は鳴りません。

ただし、伝の心設定画面での表記は、視線入力無効時の表記から変わりません。



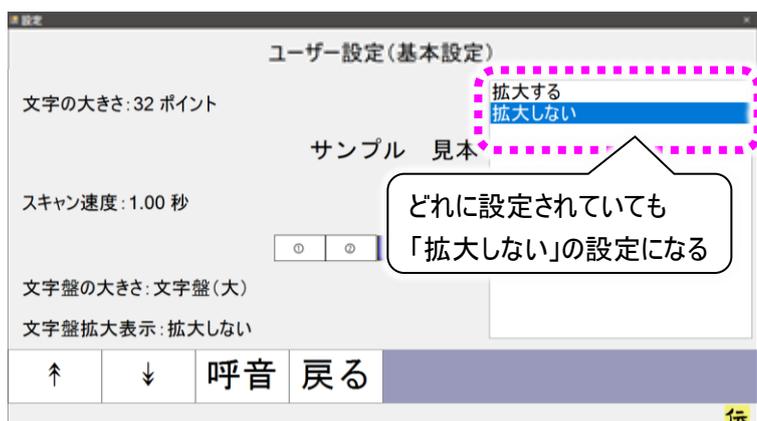
※「伝の心」Ver.06-30 より、「読上げを行う」の設定の場合、文字盤で文字を選択した際に、選択した文字を読み上げて編集領域に入力します。

文字盤の拡大表示について

基本設定において、文字盤拡大表示を「拡大する」に設定してあっても、**文字盤の選択文字の拡大は行われません。**

拡大表示の代わりにマウスカーソル付近を拡大する設定が可能です。

詳細は、71 ページの「マウスカーソル付近の拡大表示(拡大鏡表示)」を参照ください。



視線入力切替設定の追加

伝の心ユーザー設定画面に[入力]ボタンが追加されます。

この画面から視線入力とスイッチ入力の切り替えが可能です。

一度視線入力を有効にすると表示されるようになります。

(1) [入力]を注視(選択)すると、入力設定画面が表示されます。

(2) 入力設定画面で[入力デバイス]を注視(選択)すると、入力設定選択画面が表示されます。

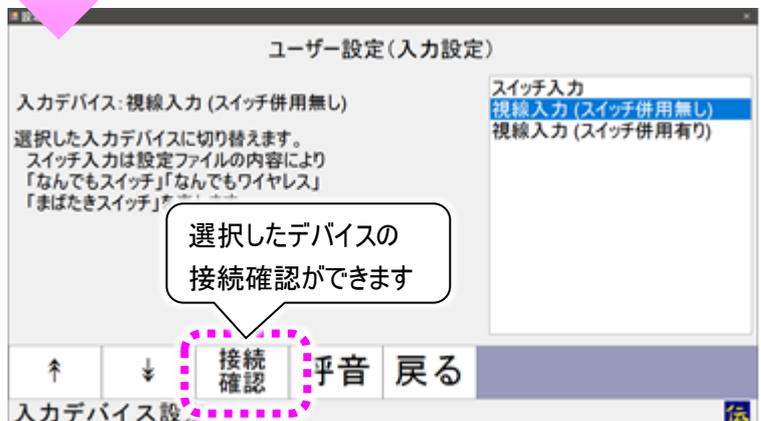
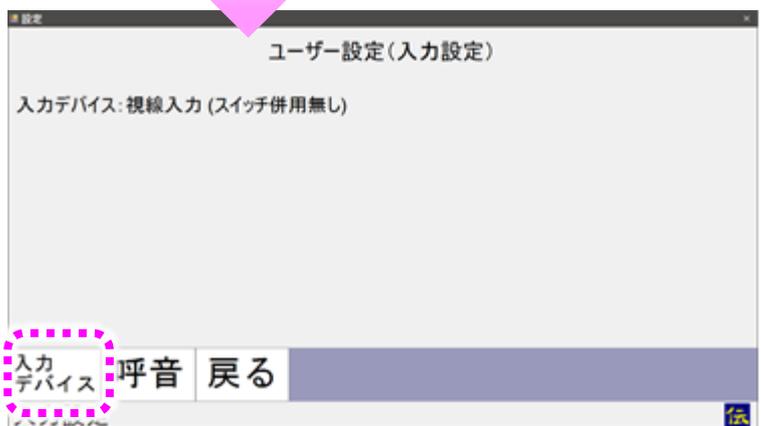
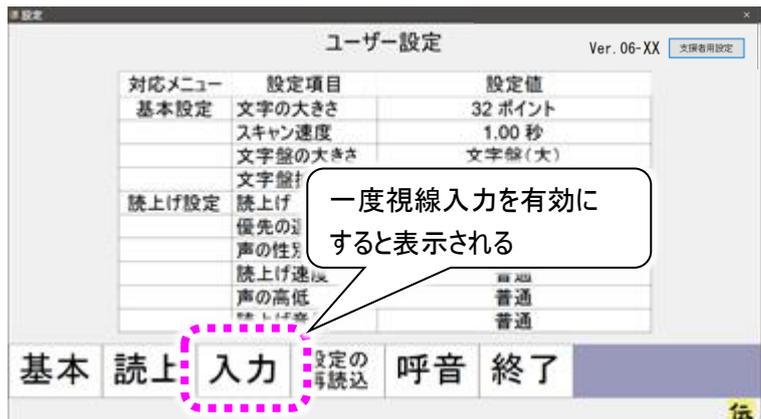
(3) 選択メニューの[↑]または[↓]を注視(選択)して、設定値を変更します。

(4) [接続確認]を注視(選択)すると、選択したデバイス(スイッチや視線出式入力装置)の接続確認が可能です。

「接続を確認できません」と表示がされた場合は、デバイスの接続を確認してください。

(5) [戻る]を注視(選択)すると、選択したデバイス(スイッチや視線出式入力装置)の接続確認を行ってから入力設定画面に戻ります。

接続が確認できなかった場合は、入力設定の変更はできません。(現在の設定に戻ります。)

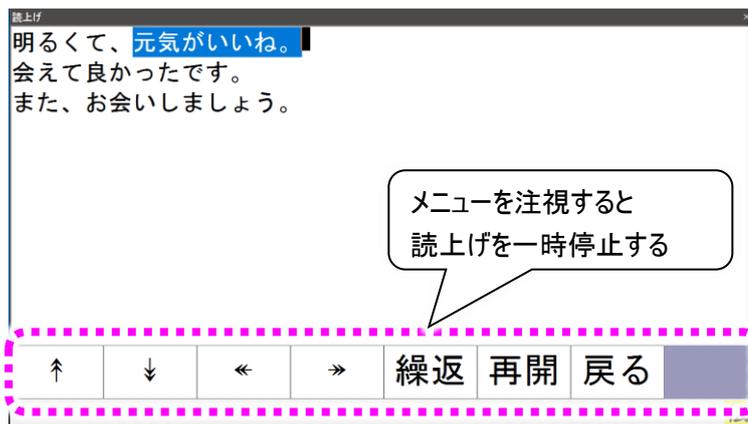


読上げ画面の操作

[F5]の選択で編集域の読上げが開始しますが、未確定文字列の読上げなど**読上げ画面を表示しない読上げの場合、途中で読み上げを止める事ができません。**

確定文字列の場合、読上げ画面を表示しますが、**読み上げを途中で一時停止する場合は、読上げ画面のメニュー部分を注視します。**

読み上げが停止した後は、メニューを注視することで視線入力無効時と同様の操作が可能です。ただし、[↑]、[↓]、[←]、[→]に関しては、48ページの「操作が連続して行われる機能の制限について」に記載の通り、連続動作は行いません。



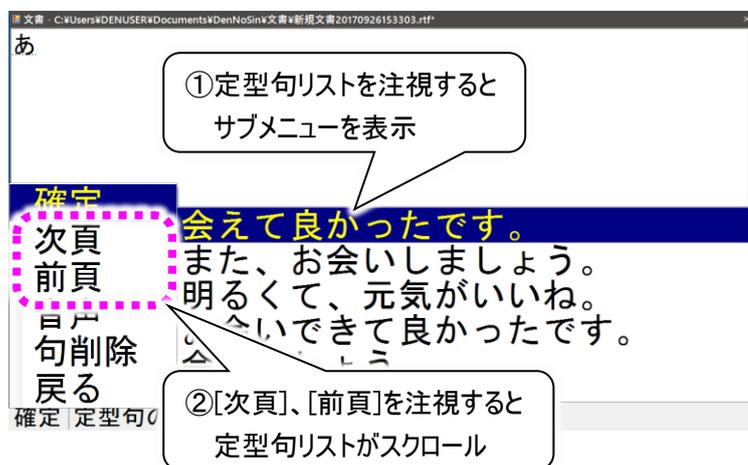
定型句入力画面の操作

視線入力無効時とはサブメニューの表記も、操作方法も異なります。

定型句リストは**自動でスクロールしません。**

定型句リストを注視して表示されるサブメニューから、**[次頁]、[前頁]**を注視(選択)することによって、画面内に表示されている項目数の数だけ、**上や下に1回スクロールします。**

もう一度スクロールさせるには、再度[次頁]、[前頁]を注視(選択)します。



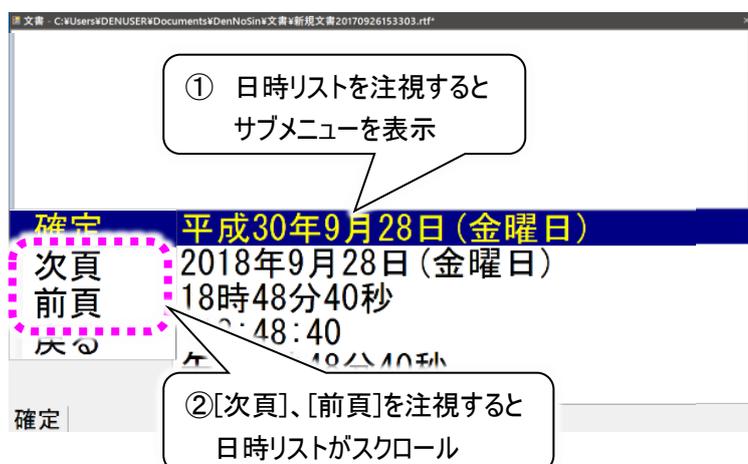
日時入力画面の操作

上の「定型句入力画面の操作」と同様に、視線入力無効時とはサブメニューの表記も、操作方法も異なります。

日時リストは**自動でスクロールしません。**

日時リストを注視して表示されるサブメニューから、**[次頁]、[前頁]**を注視(選択)することによって、画面内に表示されている項目数の数だけ、**上や下に1回スクロールします。**

もう一度スクロールさせるには、再度[次頁]、[前頁]を注視(選択)します。

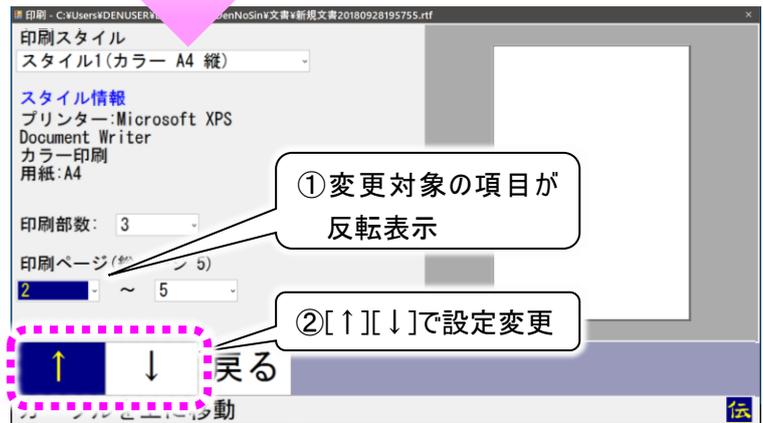
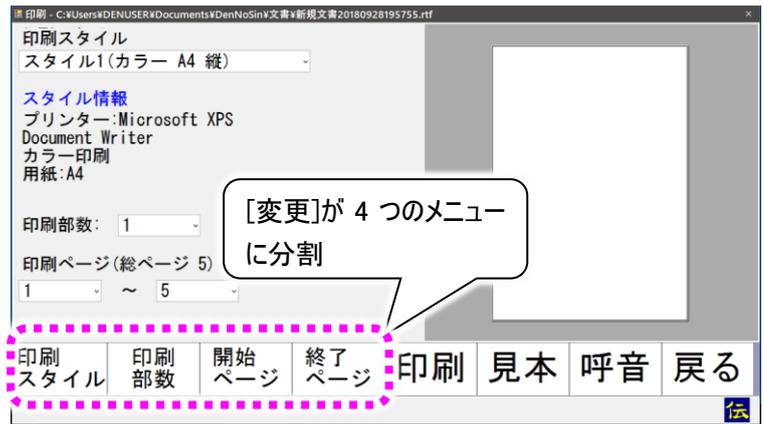


文書印刷画面の操作

視線入力無効時とはメニューや操作方法が異なります。

[変更]ボタンで変更していた、「印刷スタイル」「印刷部数」「印刷開始ページ」「印刷終了ページ」が、**[印刷スタイル][印刷部数][開始ページ][終了ページ]**の4つのメニューに分かれます。

- (6) 分割された4つのメニューのいずれかを注視(選択)すると、選択された項目の設定値が反転表示され、メニューが選択メニューに切り替わります。
- (7) 選択メニューの[↑]または[↓]を注視(選択)して、設定値を変更します。
- (8) [戻る]を注視(選択)して、印刷メニューに戻ります。
- (9) (1)~(3)を繰り返して、4つの項目を設定します。



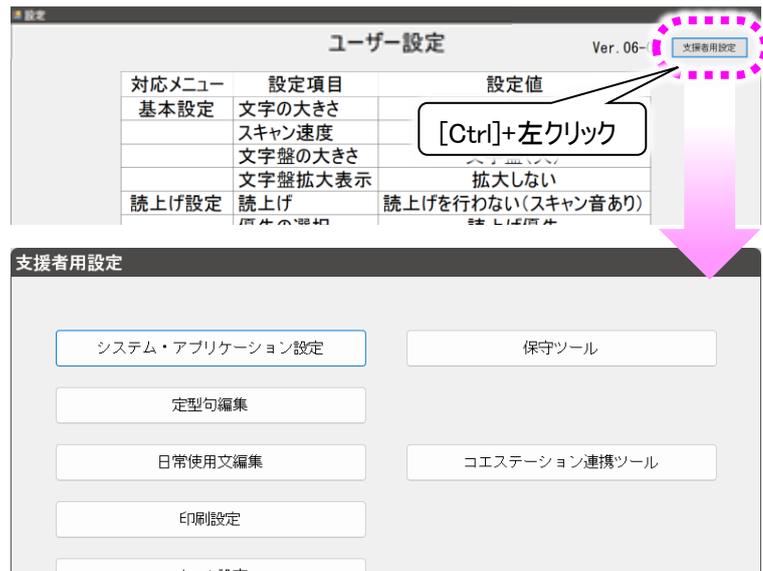
その他の項目については、視線入力無効時の動作と変わりませんが、視線入力無効時、連続動作していた項目(見本画面の移動メニュー)については、48ページの「操作が連続して行われる機能の制限について」に記載の通り、連続動作は行いません。

支援者用設定画面について

伝の心ユーザー設定画面から支援者用設定画面に入る方法が異なります。

[支援者用設定]ボタンをマウスでクリックしても、支援者用設定画面は表示されません。

支援者用設定画面は**[支援者用設定]**ボタンを**[Ctrl]**キーを押下しながらマウスでクリックしないと、表示されません。



応用操作（Windows 操作・ブラウザ操作）について

伝の心メインメニューに表示される[応用操作]に関して、下記の変更があります。

○Windows 操作

視線入力有効時は、通常版「伝の心」と違う**視線入力専用のメニューを表示**します。詳細は、55 ページの「**Windows 操作（視線入力有効時）**」を参照ください。また、支援者用設定において、**[Windows 操作]**を表示しないように設定してあっても、**自動的に表示されるように設定されます**。

※支援者用設定で表示/非表示は選択可能です。

○ブラウザ操作

表示されません。Windows 操作にてブラウザを起動して閲覧ください。



視線入力有効時の設定

通常版「伝の心」の設定

応用操作
 ブラウザ操作
 Windows操作

応用操作（視線入力有効時に表示されるメニュー）について

○キャリブレーション

視線入力有効時は、**表示される設定になります**。

応用操作のサブメニューより選択時は、伝の心起動時に表示されるキャリブレーション画面を表示します。

キャリブレーション画面の詳細は 24 ページの「視線入力有効時の「伝の心」の起動」を参照ください。

※支援者用設定で表示/非表示は選択可能です。

○視線入力練習

視線入力有効時は、**表示される設定になります**。

応用操作のサブメニューより選択時は、視線入力練習画面を表示します。

文字選択練習の他、じゃんけんゲームなどもあります。視線入力の導入時などにご利用ください。

※支援者用設定で表示/非表示は選択可能です。



○視線設定

視線入力有効時は、**表示される設定になります。**

応用操作のサブメニューより選択時は、視線入力の設定画面を表示します。

視線入力の設定画面の詳細は 64 ページの「**■視線入力の設定**」を参照ください。

※支援者用設定で表示/非表示は選択できません。(設定項目はありません。)

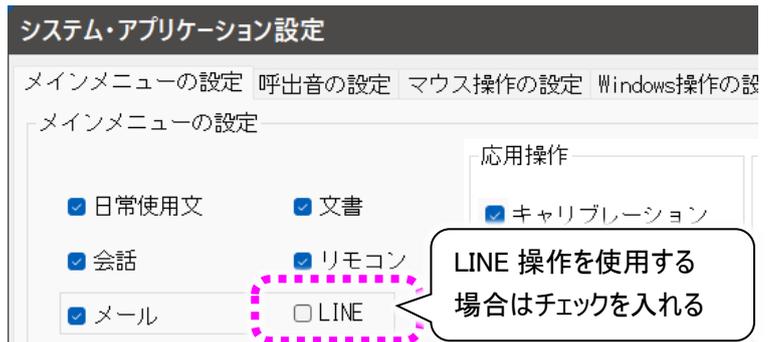
応用操作 (LINE) について

○メニューの設定

Windows 操作の**視線入力専用のメニューには[LINE]の項目がありません。**

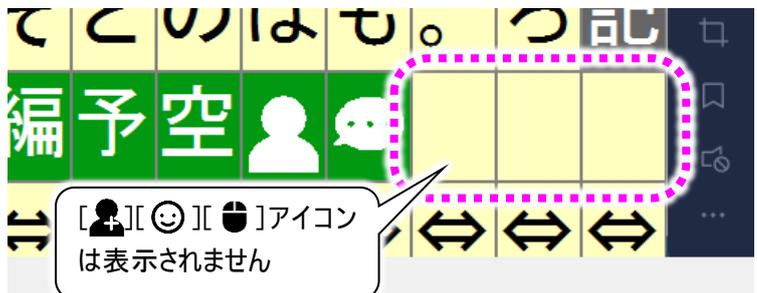
LINE を使用する場合は、支援者用設定にてメインメニューに表示する設定を行ってください。

○LINE 操作

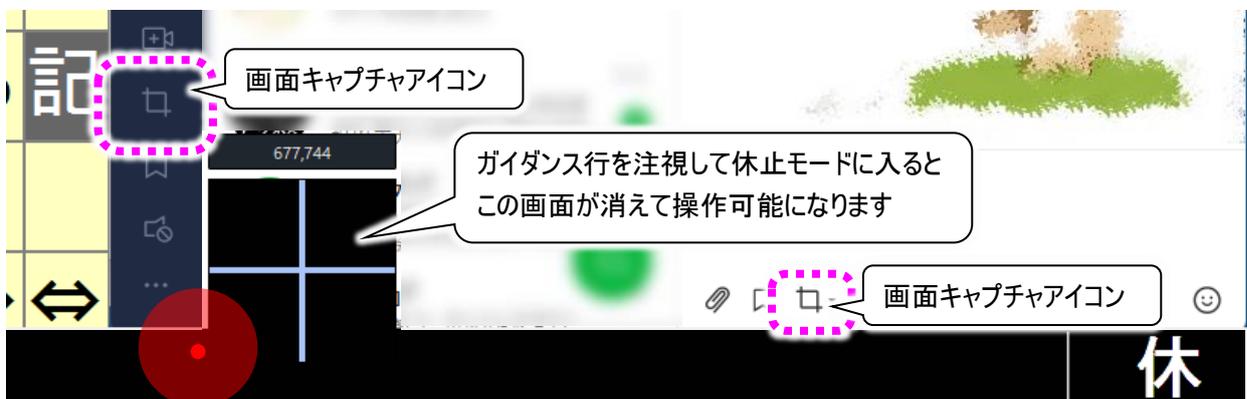


LINE 操作画面に関して、以下の制限があります。

- ① LINE 文字盤の友だち追加アイコン [人], スタンプアイコン [😊], マウスアイコン [🖱️] は表示されません。友だち追加、スタンプ投稿時は、LINE 画面の友だち追加アイコン、スタンプアイコンを、視線で直接選択してください。



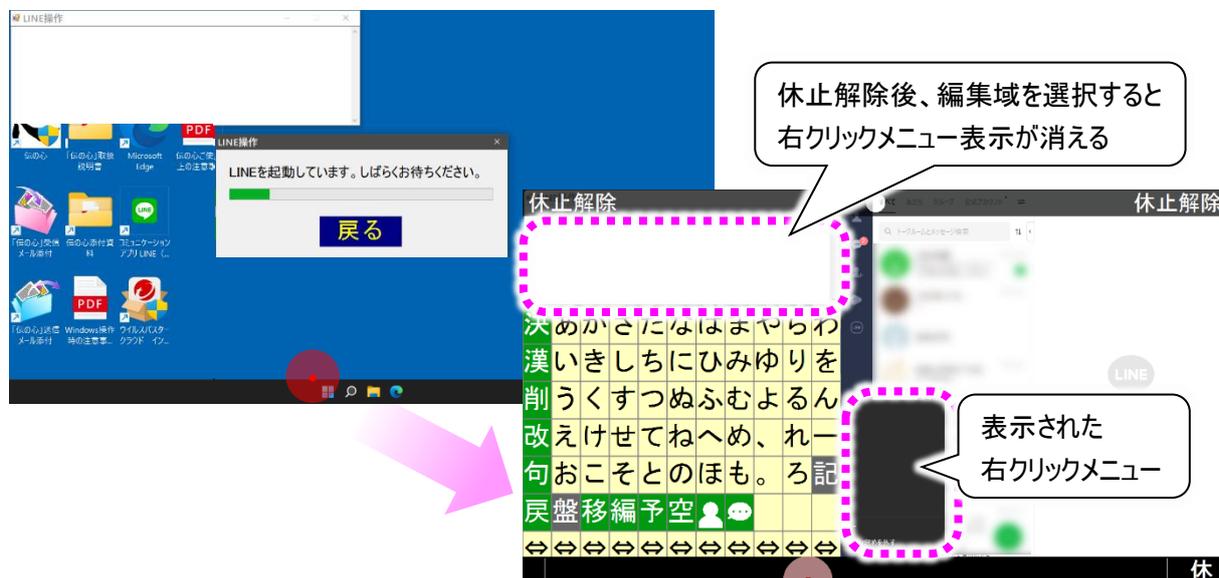
- ② LINE 画面の画面キャプチャアイコン [📷] を選択すると、その後の操作ができなくなります。その場合は、ガイダンス行を一定時間注視して、視線入力を一時停止させると、画面キャプチャがキャンセルされます。



視線入力の一時停止と再開については、39 ページの「**伝の心のガイダンス行の注視で一時停止・再開が可能です**」を参照ください。

また、画面キャプチャを使用する場合は、Windows 操作にて直接 LINE 画面を開いて操作してください。Windows 操作に関しては 55 ページの「■Windows 操作(視線入力有効時)」を参照ください。

- ③ LINE 操作の起動中に視線入力の一時停止を行うと、タスクバーまたはタスクバー中央付近のアイコンの右クリックメニューが表示されることがあります。このメニューは、LINE 操作起動後、休止解除を行い、編集域を選択すると表示が消えます。



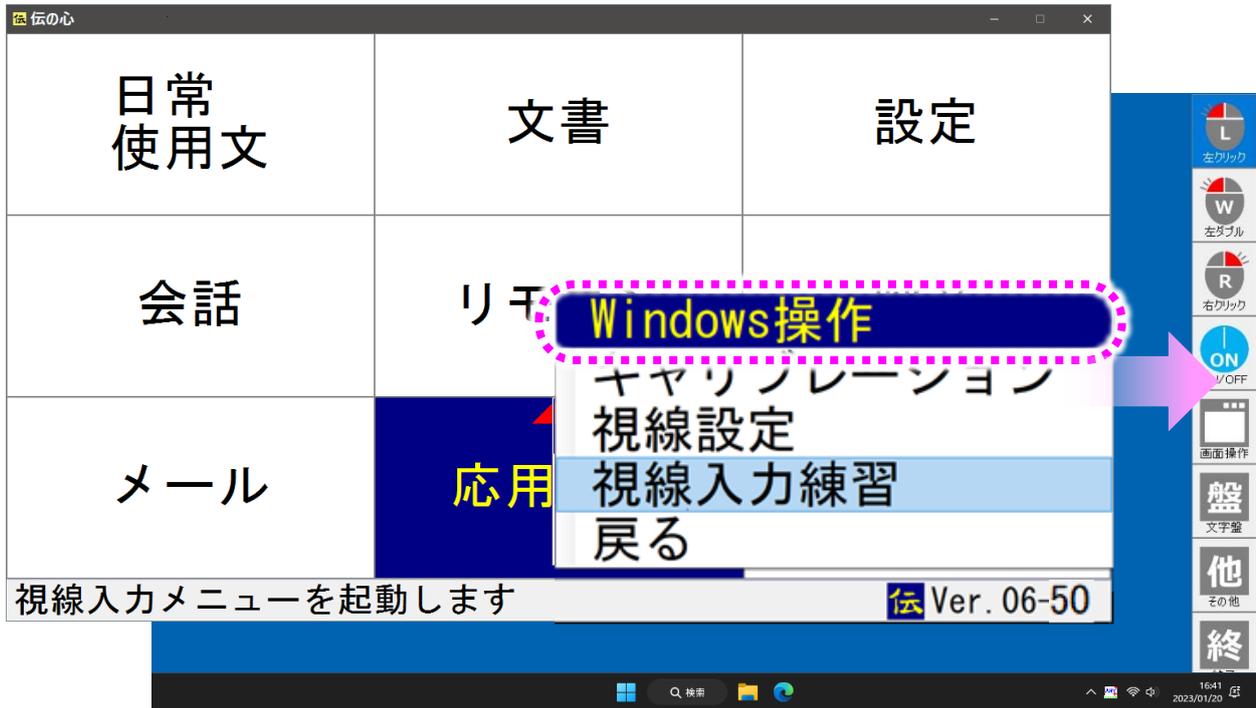
- ④ トークルームに投稿する場合は、投稿画面→編集域の順に視線入力で選択後、LINE 文字盤で文字入力を行ってください。また投稿以外の操作後、LINE 文字盤から投稿できなくなった時も同様の操作を行ってください。



※LINE の設定や操作に関しては「伝の心」取扱説明書をご参照ください。

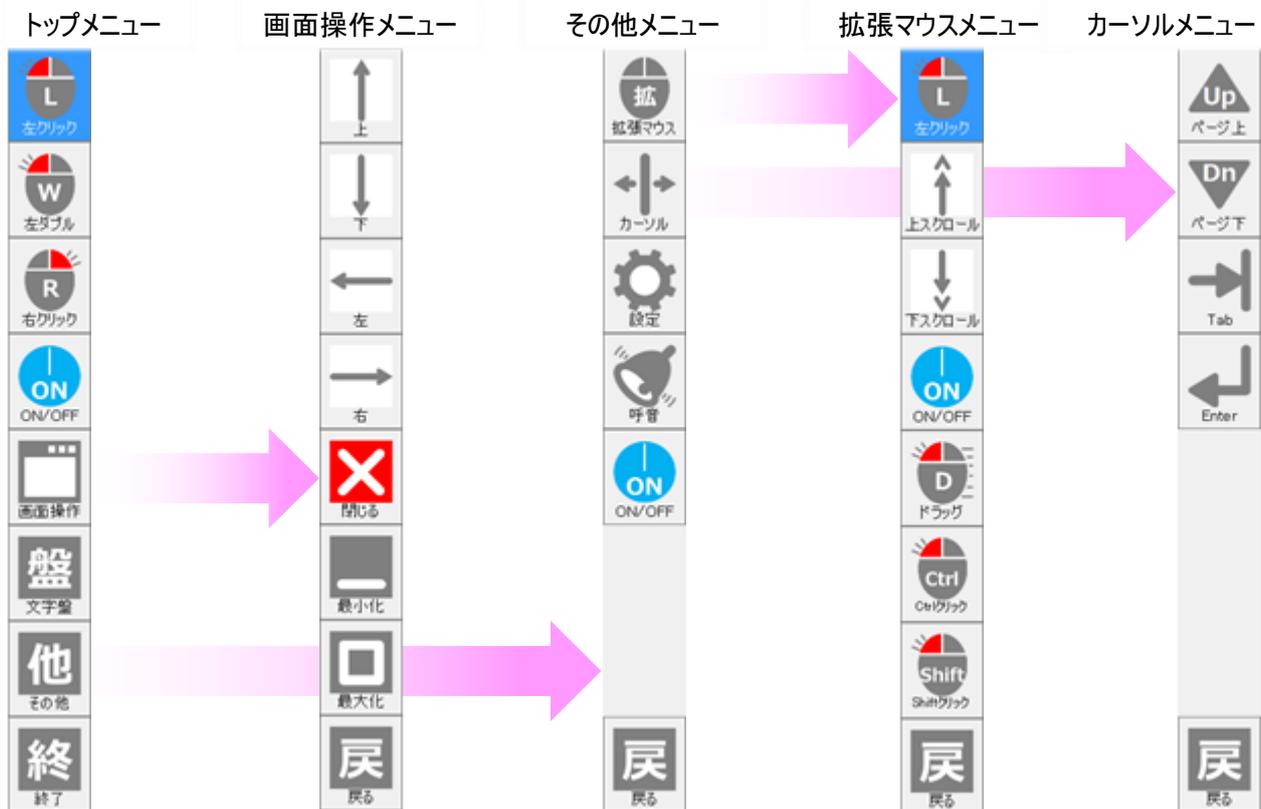
■Windows 操作(視線入力有効時)

伝の心のメインメニューから[応用操作]→[Windows 操作]を選択すると、視線入力メニューが表示された Windows 操作画面が表示されます。視線入力メニューはデスクトップ画面右端に表示されます。

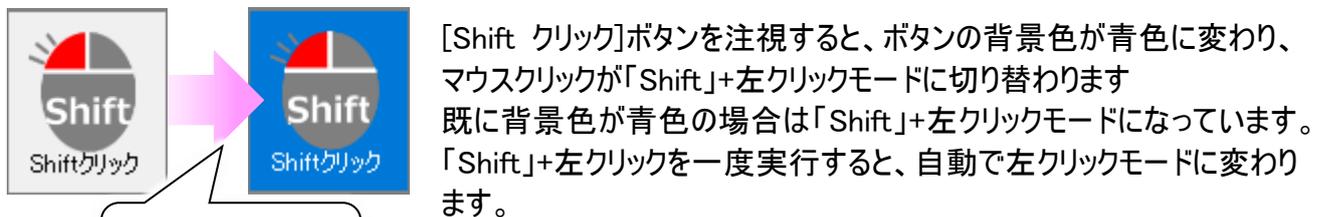
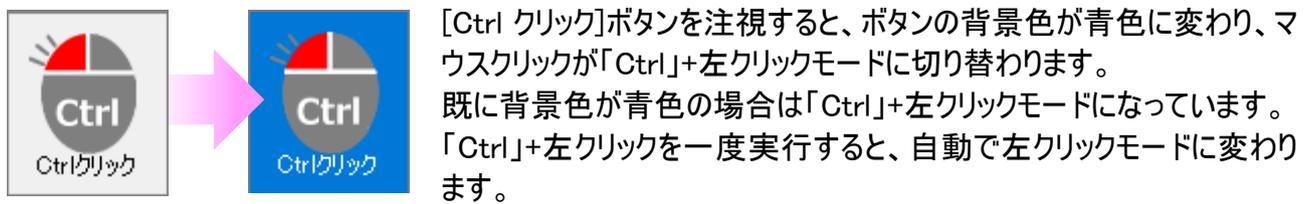
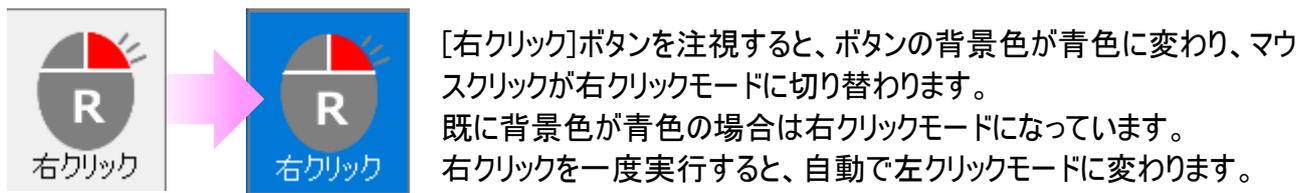
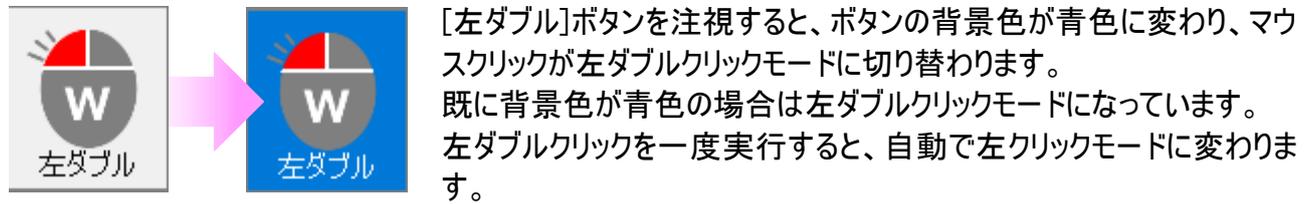
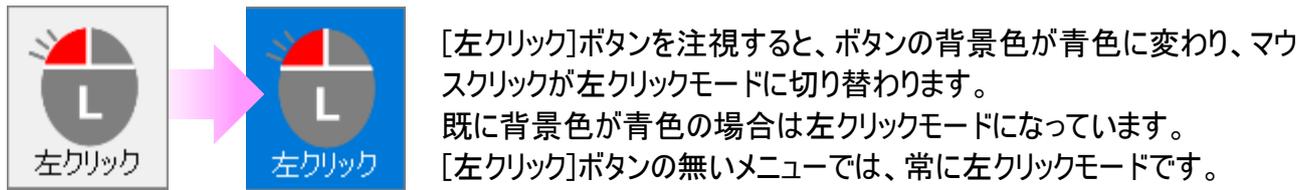


メニュー一覧

入力メニューはデスクトップ画面右端に表示されます。下記にメニューの遷移を含めた一覧を表示します。

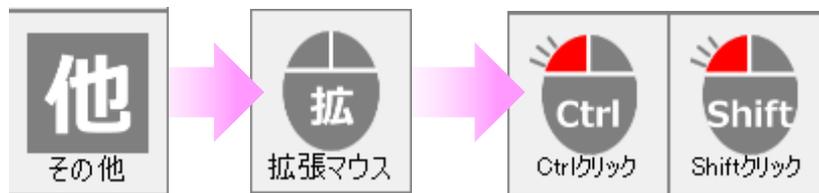


マウスクリックの切り替え（左クリック・右クリックなど）



注視して、クリック
モードに切り替える

※[Ctrl クリック]ボタンと[Shift クリック]ボタンは、視線入力メニューのトップメニューから、[その他]→[拡張マウス]を順に注視（選択）して表示された拡張マウスメニューから選択できます。



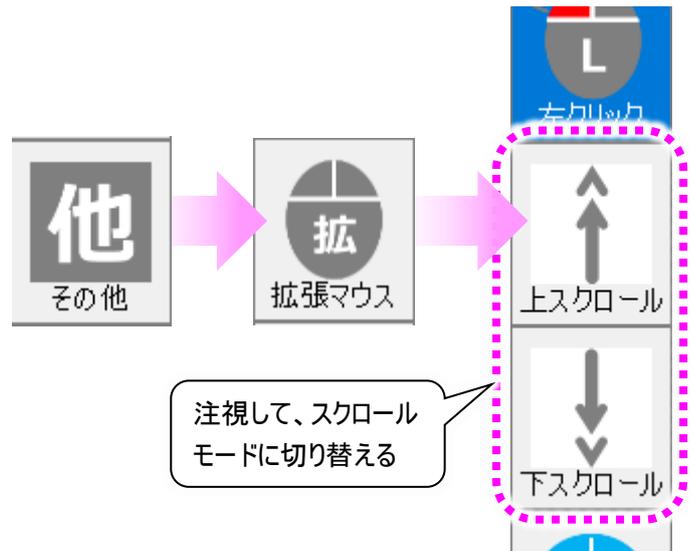
※各マウスクリックの実行については、38 ページの「クリック（決定）するには」を参照ください。

マウスのスクロール

拡張マウスメニューからマウスのスクロールが可能です。

- (1) 視線入力メニューのトップメニューから、[その他]→[拡張マウス]を順に注視(選択)して表示された拡張マウスメニューから[上スクロール]または[下スクロール]ボタンを注視(選択)します。

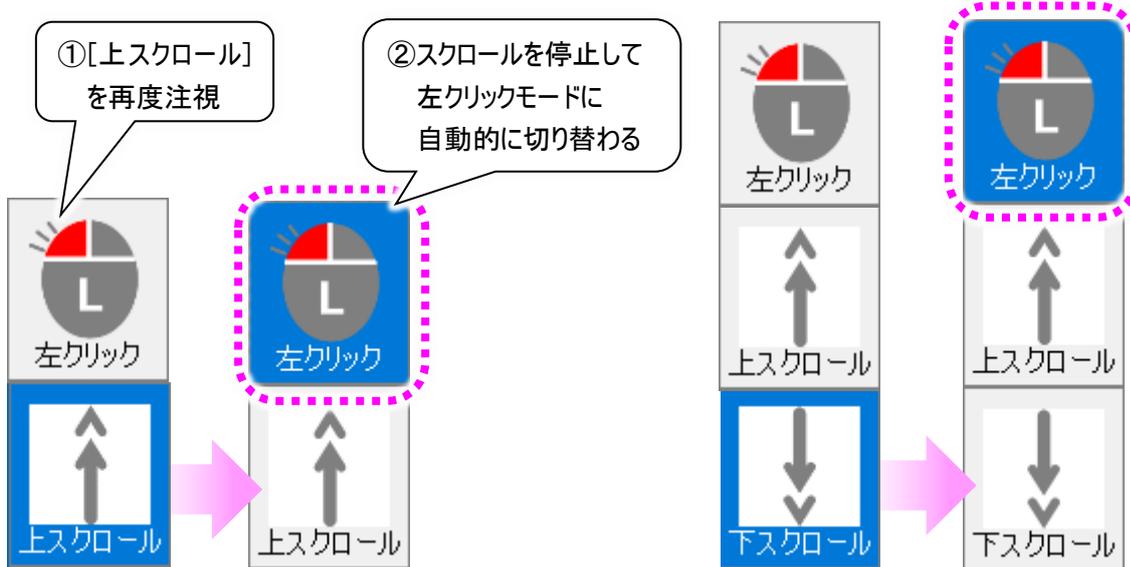
選択されたボタンは背景色が青色に変化します。



- (2) スクロール可能なアクティブな画面のスクロール可能領域を注視して、マウスカーソルを移動させます。

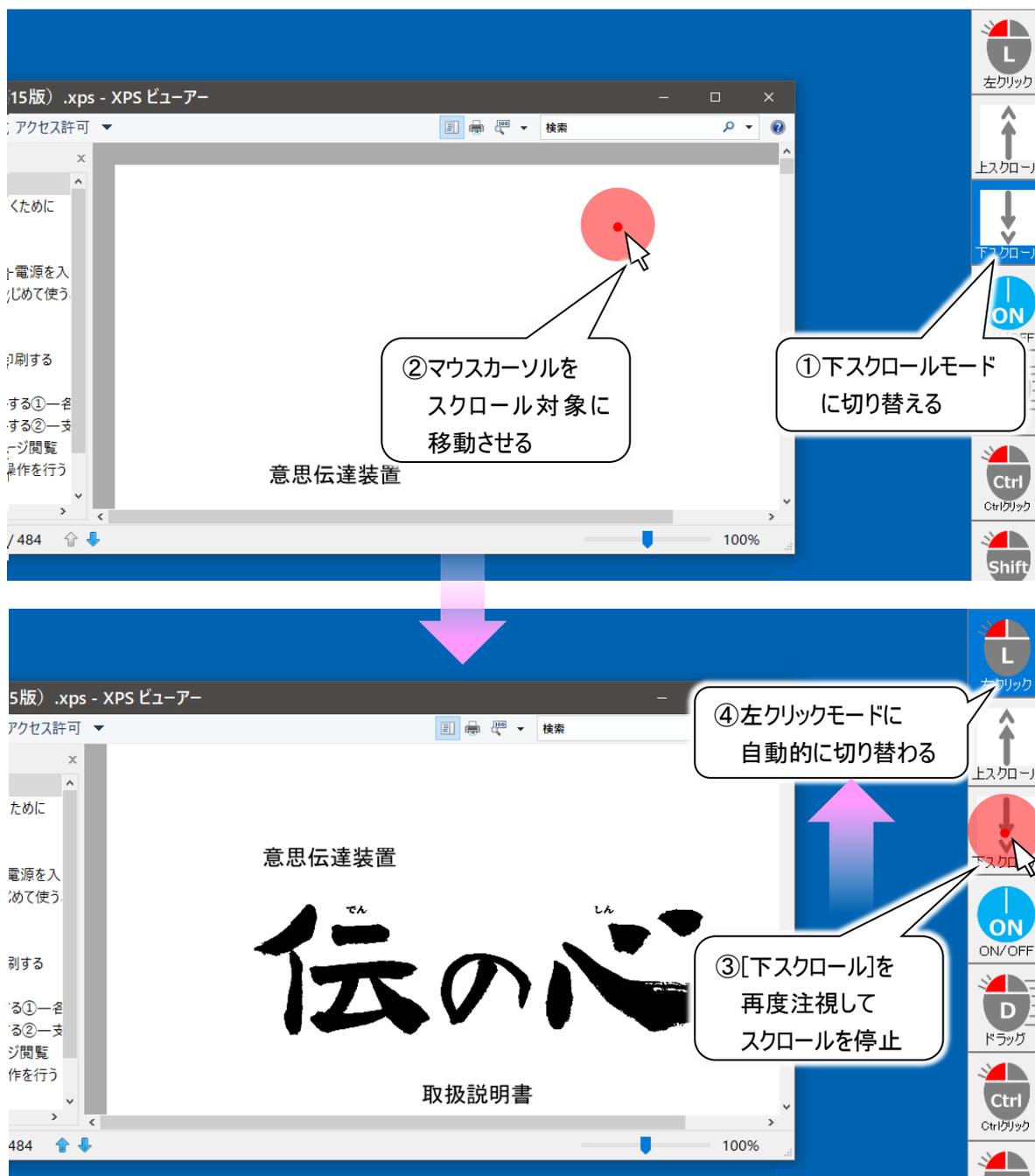
- (3) [上スクロール]を選択している場合は上方向に、[下スクロール]を選択している場合は下方向に、画面がスクロールします。

- (4) スクロールを停止する場合は、もう一度、背景色が青色になっている上スクロール]または[下スクロール]ボタンを注視(選択)します。



- (5) 注視したボタンの背景色が元の色に戻り、自動的に左クリックモードに変わります。
([左クリック]ボタンが選択されます)

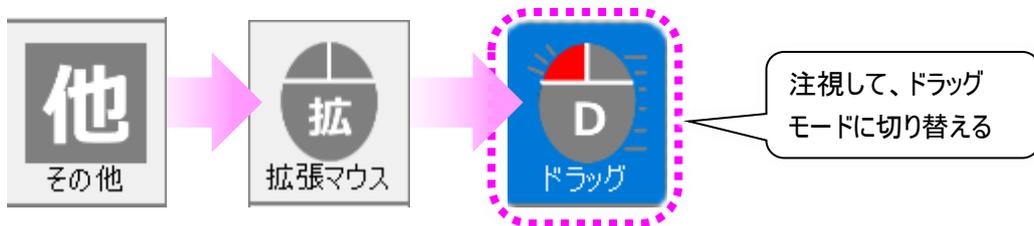
(6) 下の画面は「伝の心取説」を下方向にスクロールしている画面です。



ドラッグ&ドロップ操作

拡張マウスメニューからマウスのドラッグ&ドロップが可能です。

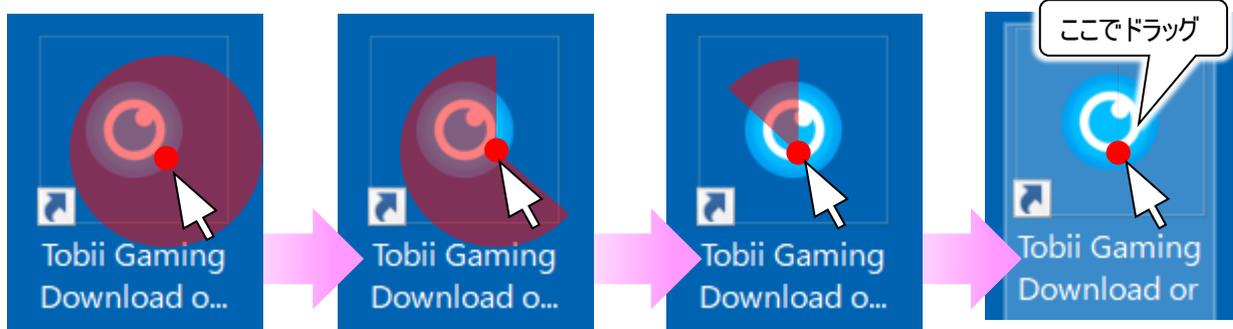
- (1) 視線入力メニューのトップメニューから、[その他]→[拡張マウス]を順に注視(選択)して表示された拡張マウスメニューから[ドラッグ]ボタンを注視(選択)します。



選択されたボタンは背景色が青色に変化します。

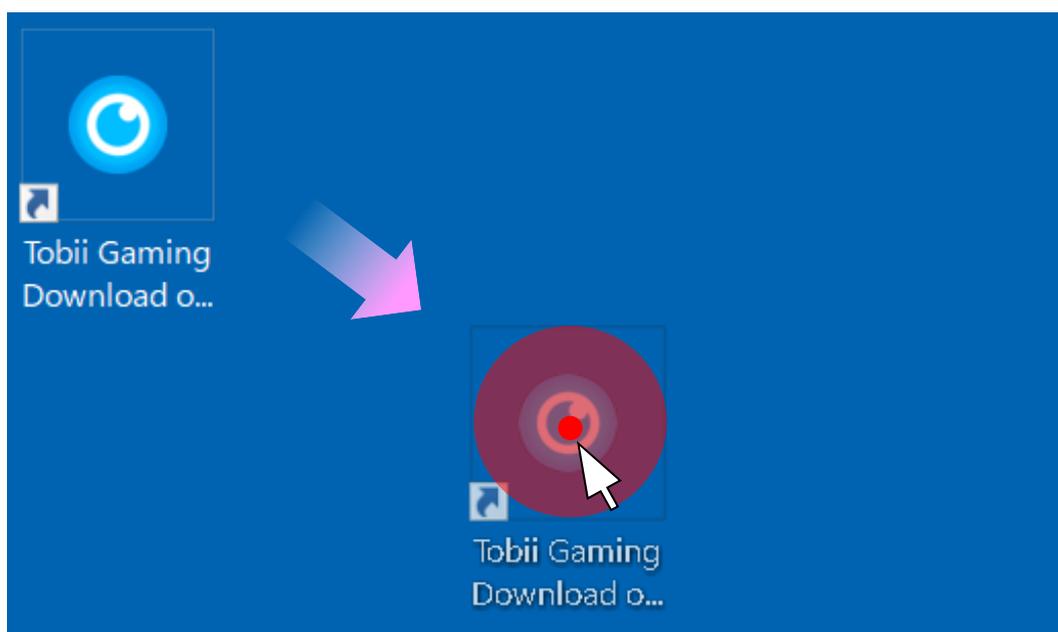
- (2) ここでは一例として、デスクトップアイコンを、ドラッグ&ドロップで移動してみます。

- (3) まず、移動対象のアイコンを注視して、マウスカーソルをアイコンの上に移動させます。



- (4) マウスカーソルが同じエリアに一定時間留まっていると、マウスカーソルの周りの色付きの円が時計回りに消えていき、円が消えた時にドラッグ動作が行われます。

- (5) ドラッグしたアイコンはマウスカーソルと一緒に移動します。



- (6) ドロップしたい場所を注視すると、(4)と同様にマウスカーソルの周りの色付きの円が時計回りに消えて

いき、円が消えた時にドロップ動作が行われます。



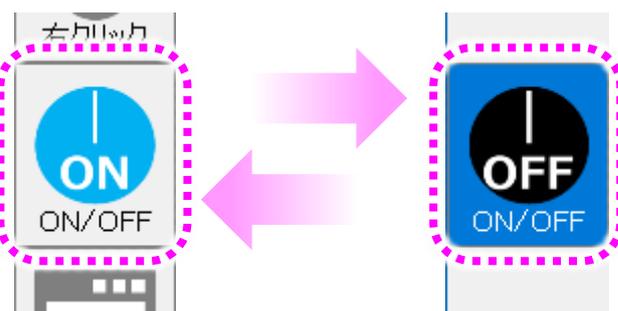
(7) ドロップ動作が終了すると、自動で左クリックモードに変わります。



視線入力の ON/OFF

[ON/OFF]ボタンを一定時間注視することで、視線入力を一時停止/再開と切り替えられます。

[ON/OFF]ボタンは、トップメニュー、その他メニュー、拡張マウスメニューに各々あります。





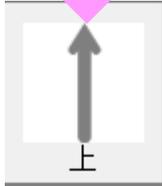
画面操作は、視線入力トップメニューから[画面操作]を注視(選択)して表示された画面操作メニューから操作します。



[上]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が上方向に移動をはじめます。

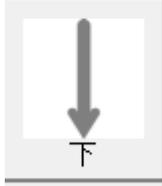
再度[上]ボタンを注視すると、ボタンの背景色が元の色に戻り、画面の移動が停止します。



[下]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が上方向に移動をはじめます。

再度[下]ボタンを注視すると、ボタンの背景色が元の色に戻り、画面の移動が停止します。



[左]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が左方向に移動をはじめます。

再度[左]ボタンを注視すると、ボタンの背景色が元の色に戻り、画面の移動が停止します。



[右]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が右方向に移動をはじめます。

再度[右]ボタンを注視すると、ボタンの背景色が元の色に戻り、画面の移動が停止します。



閉じる

[閉じる]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が閉じます(終了します)。

※対象となる画面の仕様によっては、閉じない画面もあります。



最小化

[最小化]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が最小化します。



最大化

[最大化]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が最大化します。

現在アクティブな画面が既に最大化している場合は、通常の画面サイズに戻ります。

※対象となる画面の仕様によっては、最大化ができない画面もあります。



戻る



カーソル移動は、視線入力トップメニューから[その他]を注視(選択)して表示されたその他メニューから[カーソル]を注視(選択)して表示されたカーソルメニューから操作します。



[ページ上]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面にキーボードの「PageUp」キーを発行します。(キーボードで「PageUp」キーを押下したときと同様の操作です。)



[ページ下]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面にキーボードの「PageDown」キーを発行します。(キーボードで「PageDown」キーを押下したときと同様の操作です。)



[Tab]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面にキーボードの「Tab」キーを発行します。(キーボードで「Tab」キーを押下したときと同様の操作です。)



[Enter]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面にキーボードの「Enter」キーを発行します。(キーボードで「Enter」キーを押下したときと同様の操作です。)

その他の機能



[盤]

視線入力メニューを非表示にして、マウスクリックが左クリックモードに切り替わり、文字盤を起動します。

文字盤の「戻」を選択すると文字盤が終了して視線入力メニューを表示します。

文字盤は、伝の心の文字盤と同じものです。

[呼音]

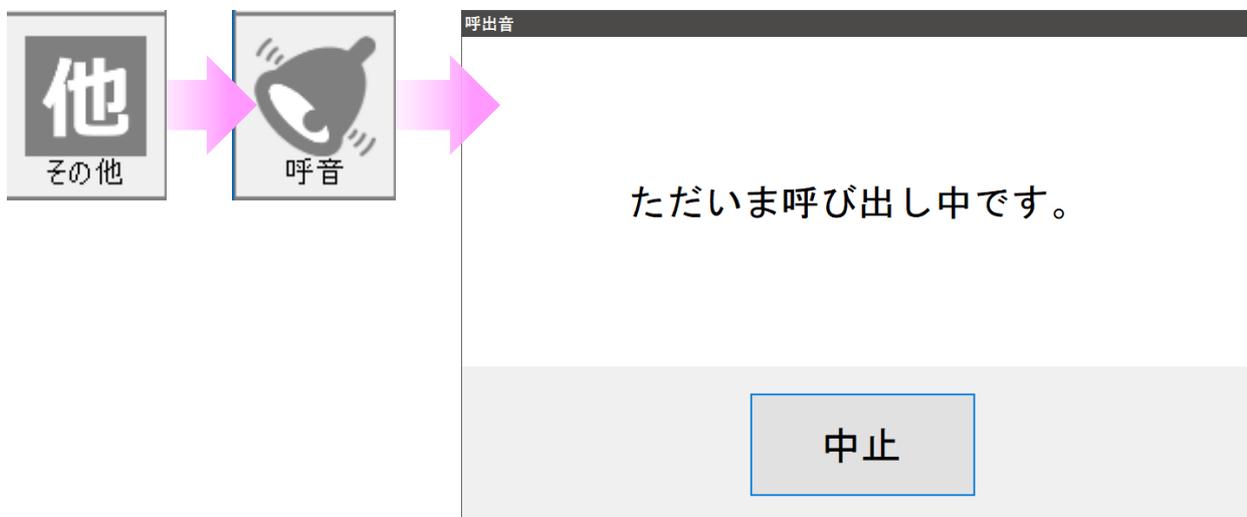
視線入力トップメニューから[その他]を注視(選択)して表示されたその他メニューから選択可能です。

[呼音]ボタンを注視(選択)すると、呼音を再生します。

呼音は伝の心呼音と同じものです。

呼音再生中は下記メッセージ画面を表示します。

メッセージ画面の[中止]ボタンを注視(選択)すると、メッセージ画面を閉じます。



[設定]

視線入力トップメニューから[その他]を注視(選択)して表示されたその他メニューから選択可能です。

[設定]ボタンを注視(選択)すると、視線入力メニューを非表示にして、マウスクリックが左クリックモードに切り替わり、設定画面を起動します。

設定画面の詳細は 64 ページの「**■**視線入力の設定」を参照ください。

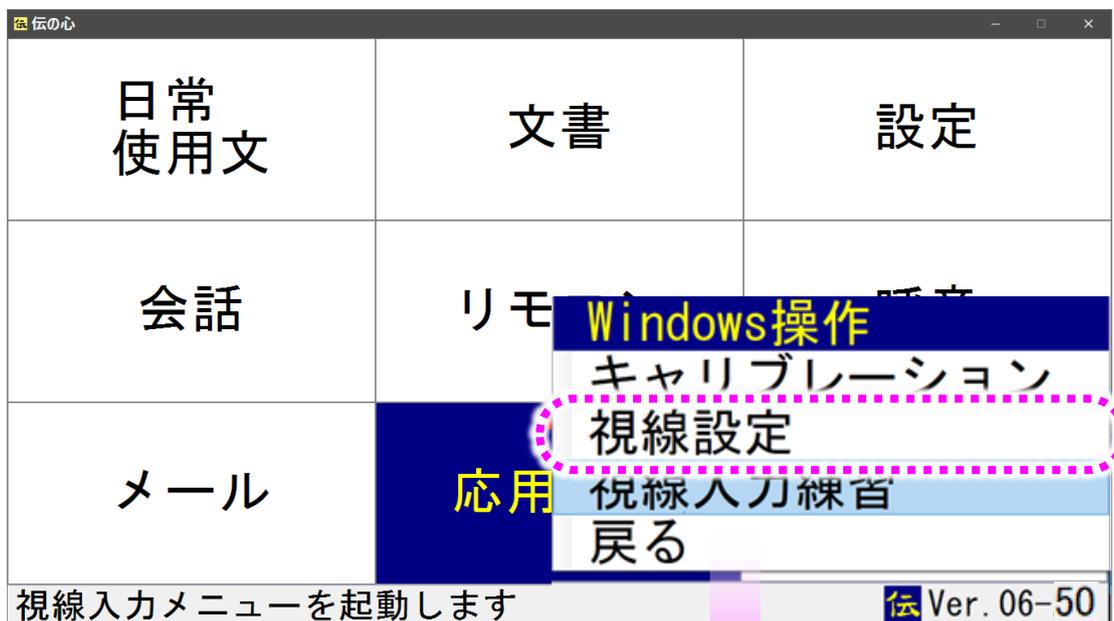


■視線入力の設定

視線入力トップメニューから[その他]→[設定]の順に注視(選択)すると、視線入力の設定画面が表示されます。このとき、視線入力メニューは非表示、マウスクリックは左クリックモードに切り替わります。

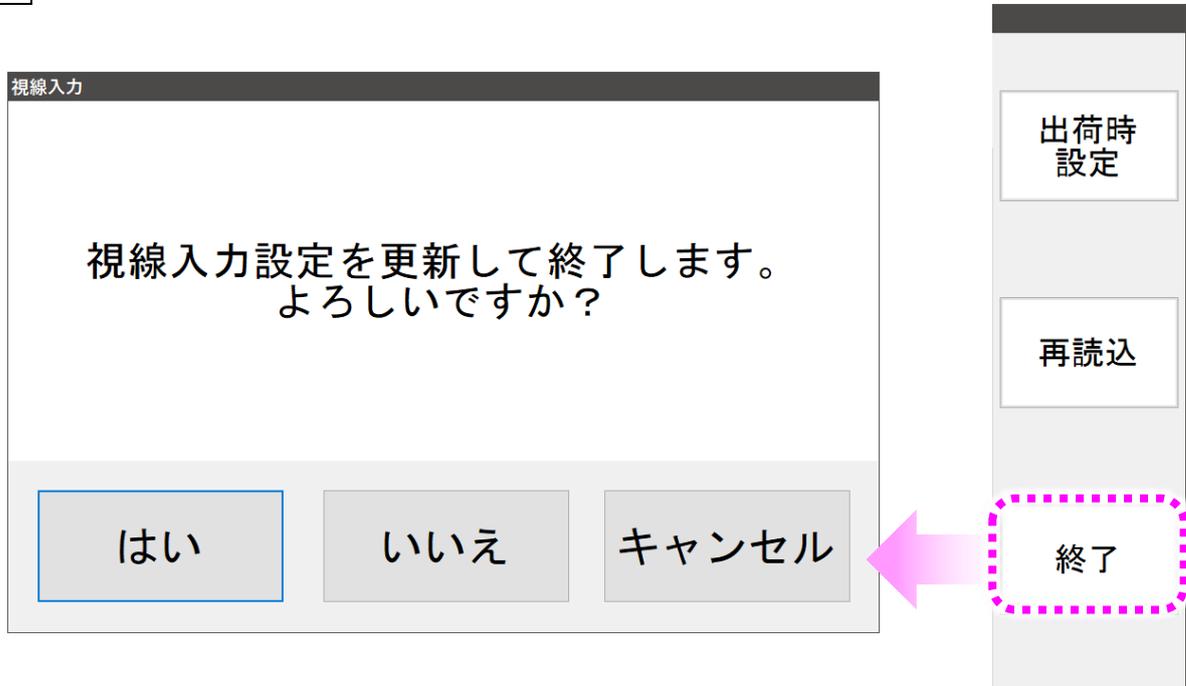


また、伝の心のメインメニューから[応用操作]→[視線設定]からも、視線入力の設定画面を表示することができます。



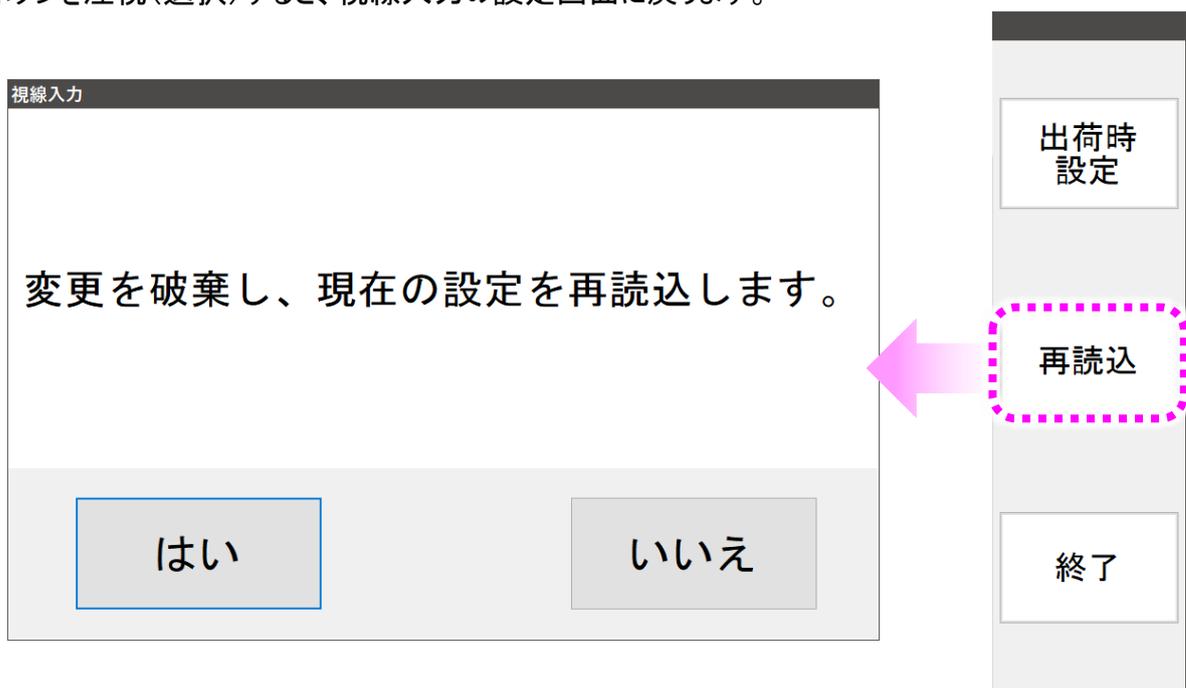
○終了

設定後は、設定画面の「終了」ボタンを注視(選択)すると、下記画面が表示されるので、「はい」ボタンを注視(選択)すると設定を更新して終了します。
「いいえ」ボタンを注視(選択)すると設定を元に戻して終了します。
終了後は、視線入力のおしりメニューに戻ります。
「キャンセル」ボタンを注視(選択)すると、視線入力の設定画面に戻ります。



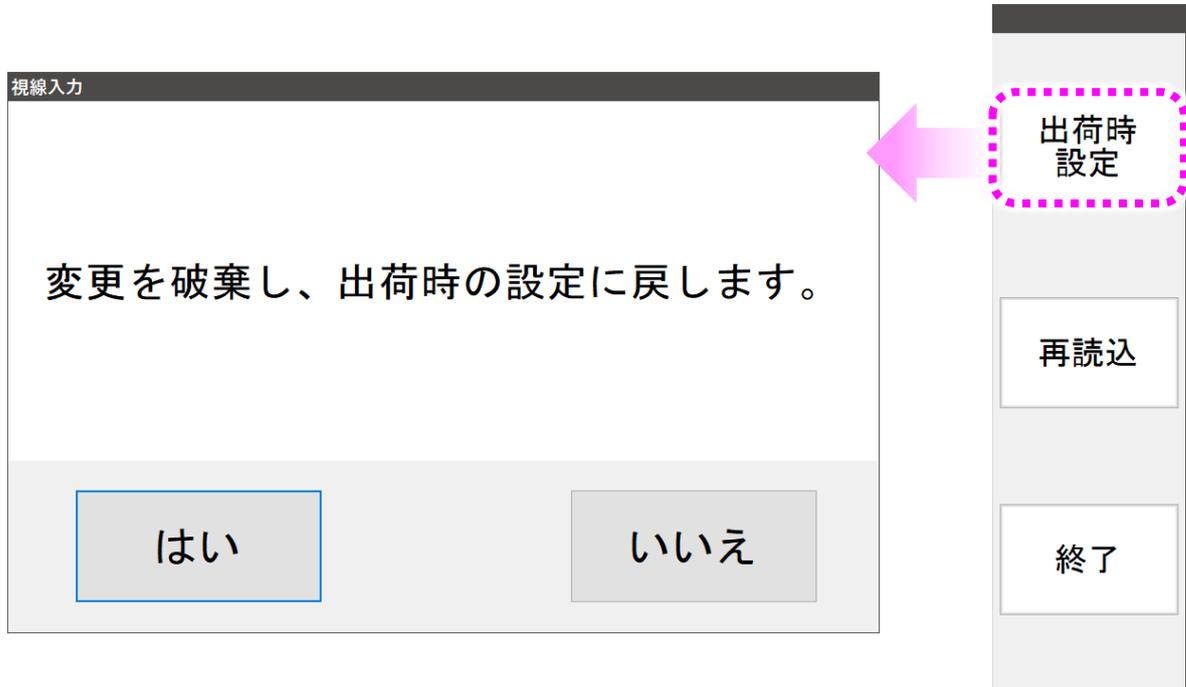
○再読込

「再読込」ボタンを注視(選択)すると、下記画面が表示されるので、「はい」ボタンを注視(選択)すると、現在の設定を表示して視線入力の設定画面に戻ります。
「いいえ」ボタンを注視(選択)すると、視線入力の設定画面に戻ります。



○出荷時設定

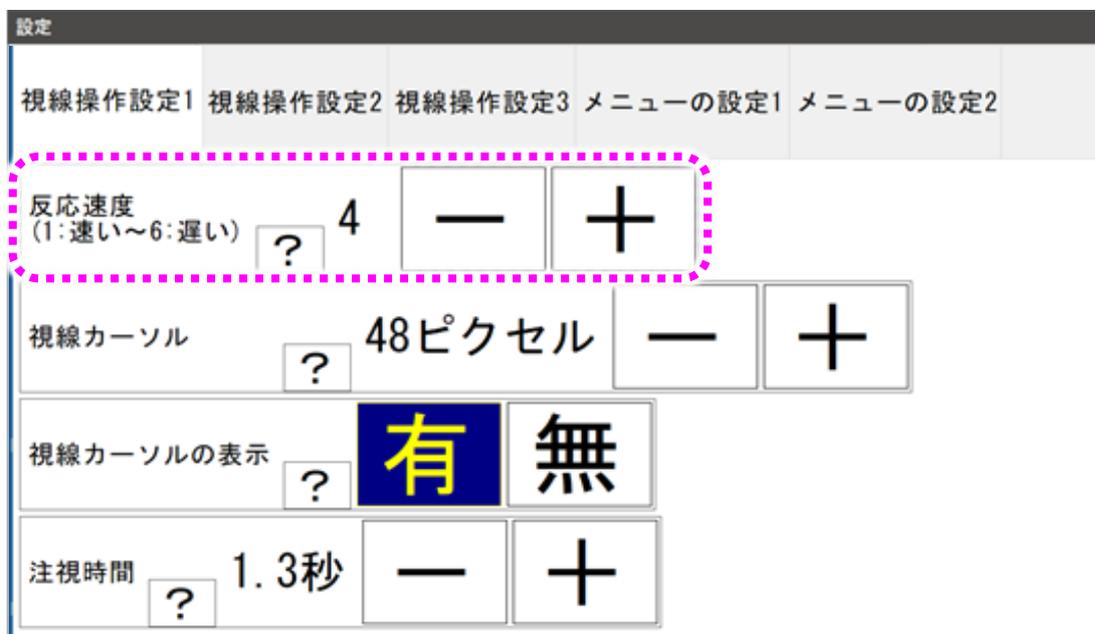
出荷時設定 ボタンを注視(選択)すると、下記画面が表示されるので、
はい ボタンを注視(選択)すると、出荷時の設定を表示して視線入力の設定画面に戻ります。
いいえ ボタンを注視(選択)すると、視線入力の設定画面に戻ります。



視線のマウス追従速度（反応速度）

視線を向けた位置に、マウスカーソルが移動を始める早さを設定できます。
「視線操作設定 1」のページの「反応速度」で設定します。（出荷時の設定は 4 です。）

- ⊕: 反応速度を 1 プラスします。（視線の位置にマウスカーソルが遅れて追従するようになります。）
- ⊖: 反応速度を 1 マイナスします。（視線の位置へのマウス追従速度が速くなります。）

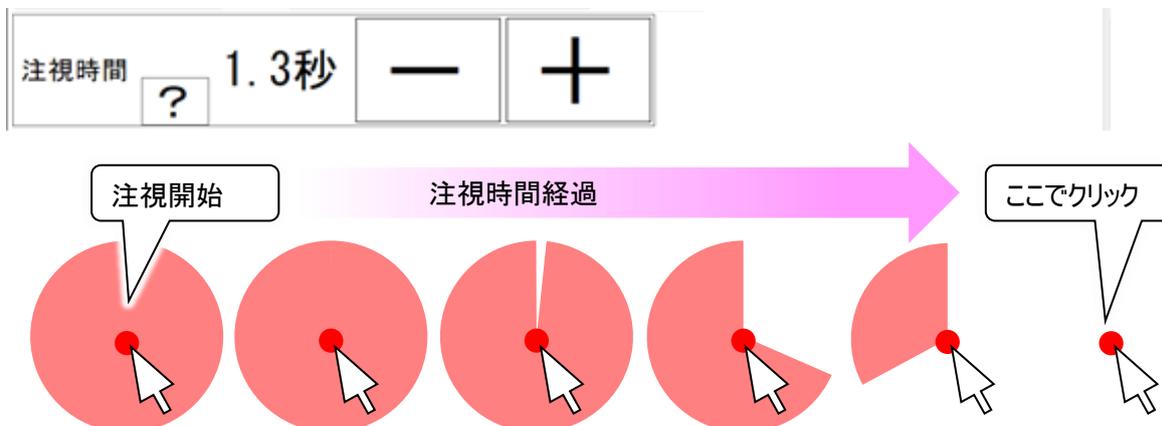


マウスクリックまでの時間（注視時間）

視線を向けた位置を注視してからマウスクリックが行われるまでの時間です。
「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定します。
0～3.0 秒まで変更可能です。（出荷時の設定は 1.3 秒です。）

- ⊕: 注視時間を 0.1 秒プラス(遅く)します。
- ⊖: 注視時間を 0.1 秒マイナス(早く)します。

※0 秒に設定すると、注視無効になります。スイッチ併用時の初期設定となります。



※ここでの注視時間は Windows 操作メニュー「メニュー設定 1」のページの「注視時間」で設定するマウスクリックまでの時間とは異なりますのでご注意ください。

マウスカーソルの周りの円の大きさ（視線カーソル）と表示の有無（視線カーソルの表示）

マウスカーソルの周りに円を表示可能です。（出荷時は表示されています。）

この円の範囲の中で視線を動かしても、マウスカーソルは追従しません。（マウス追従の無効範囲）

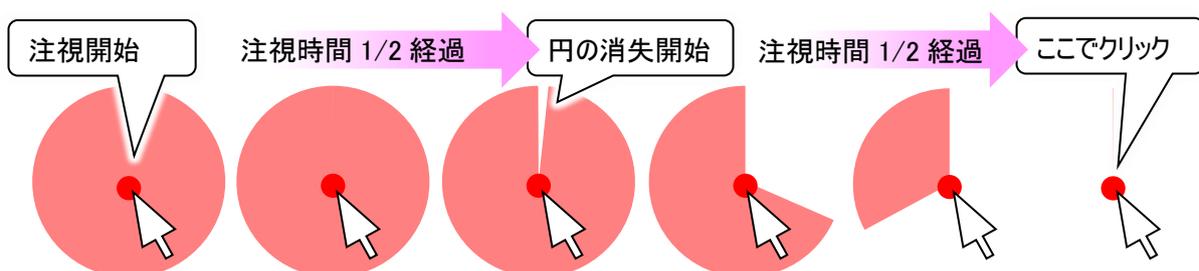
「視線操作設定 1」のページの「視線カーソルの表示」で円の表示の有無、「視線カーソル」で円の大きさ（半径）を指定します。

「視線カーソル」は 24～96 ピクセルの範囲で 8 ピクセル毎に変更可能です。（出荷時は 48 ピクセルです。）

※円の表示の有無の関わらず、「視線カーソル」の設定は有効です。



「視線カーソルの表示」を「有」に設定した場合、マウスクリックが行われる時に、注視時間の半分が過ぎると円の表示が時計回りに消えていき、円が消えた時にクリック動作が行われるので、マウスクリックが視覚的に分かりやすくなります。



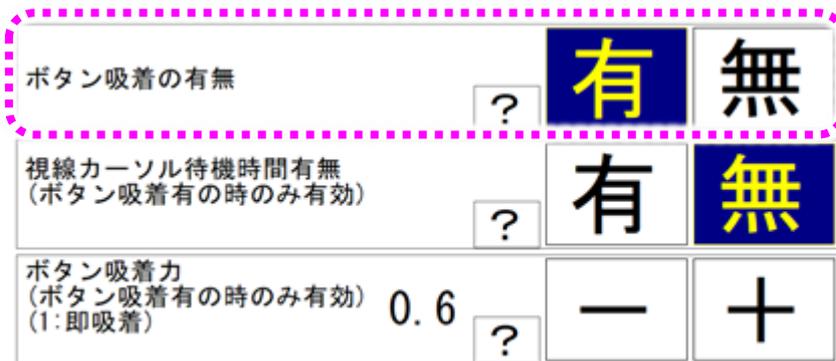
マウスクリック後は、円が再表示されます。

マウスカーソルのボタン吸着

「伝の心」のメニューや文字盤の文字を、注視すると、マウスカーソルがメニューや文字盤のボタン中央に吸着(移動)するように設定することが可能です。別のメニューや別の文字(文字盤の場合)を注視すると、マウスカーソルは即吸着(移動)します。(出荷時はボタン吸着「有」です。)

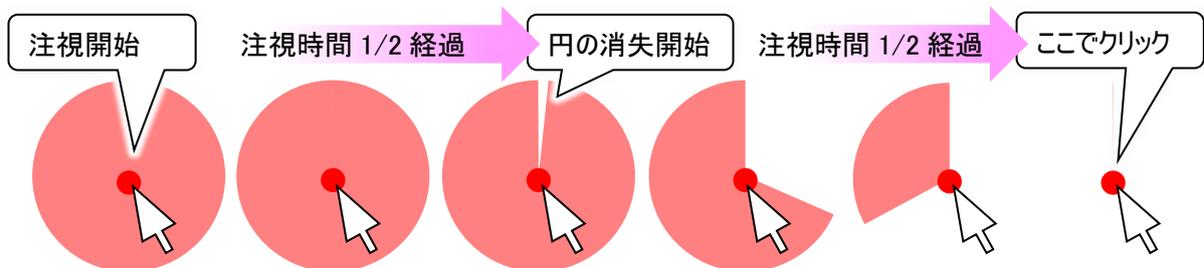
また、ボタン吸着「有」の場合、視線カーソル待機時間とボタン吸着力を設定することが可能です。

「視線操作設定 2」のページの「ボタン吸着の有無」と「視線カーソル待機時間有無」「ボタン吸着力」で設定します。



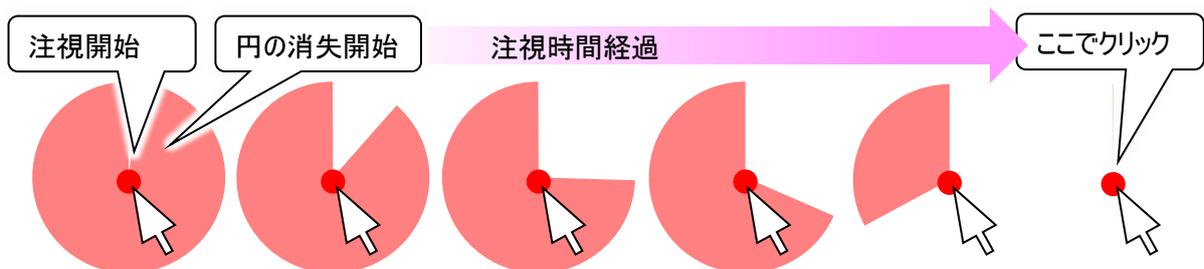
○視線カーソル待機時間

視線カーソル待機時間が有の場合は、通常の注視処理と同じで、ボタン吸着後、注視時間の半分が過ぎると視線カーソル円の表示が時計回りに消えていき、円が消えた時にクリック動作が行われる動作です。



視線カーソル待機時間が無の場合は、ボタン吸着後、すぐに視線カーソル円の表示が時計回りに消えていきます。注視時間は変わりません。

(出荷時は視線カーソル待機時間「無」です。)



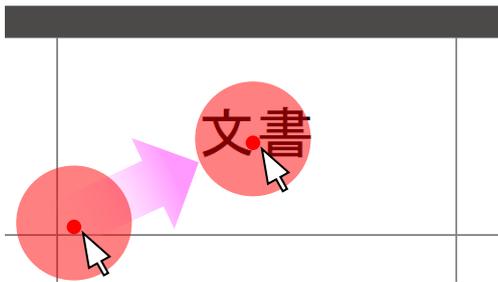
○視線カーソルのボタン吸着力

ボタン吸着力はマウスカーソルがメニューや文字盤のボタン中央に吸着(移動)する速度を設定します。

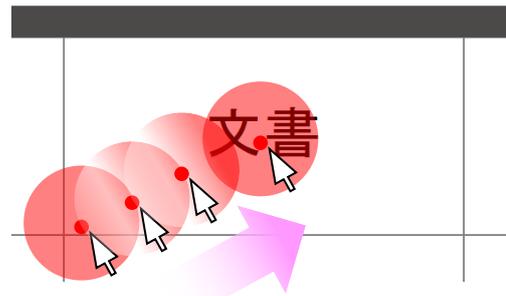
「ボタン吸着力」は 1.0～0.3 の範囲で 0.1 毎に変更可能です。(出荷時は 0.6 です。)

1.0: マウスカーソルがメニューや文字盤のボタンの上に移動したら、ボタン中央に即時吸着します。

0.3: マウスカーソルがメニューや文字盤のボタンの上に移動したら、ボタン中央にゆっくり吸着します。



マウスカーソルがボタンに入ったら
ボタン中央に即時吸着



マウスカーソルがボタンに入ったら
ボタン中央にゆっくり吸着

マウスカースルの周りの円の色（視線カーソルの色）

「視線カーソルの表示」を「有」に設定した場合、円の色を変更することが可能です。（出荷時は「赤」です。）

「視線操作設定 3」のページの「視線カーソルの色」で設定します。



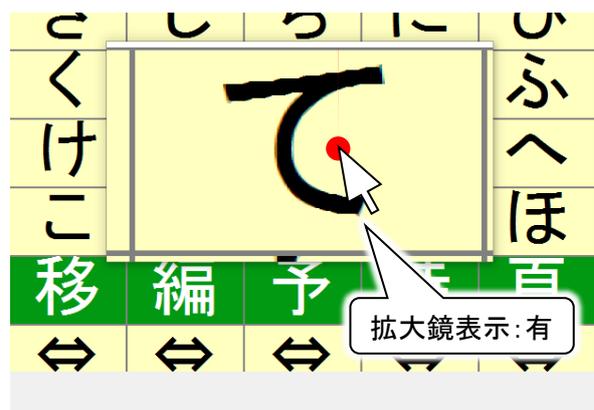
マウスカースル付近の拡大表示（拡大鏡表示）

操作対象が小さくて注視しづらい場合は、拡大鏡を表示してマウスカースル付近を拡大表示させることも可能です。

「視線操作設定 3」のページの「拡大鏡表示」で設定します。（出荷時は表示されていません。）



「拡大鏡表示」を「有」に設定すると、OS 標準でインストールされている拡大鏡を表示します。下記のようにマウスカースル付近を拡大表示します。



Windows 操作(視線入力)メニューの設定

視線入力メニューの設定も可能です。「メニュー設定 1」「メニュー設定 2」のページで設定します。



※ここでの注視時間は「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定するマウスクリックまでの時間とは異なりますのでご注意ください。

○透明度

視線入力メニューの透明度を設定します。

0.1～1.0 まで変更可能です。(出荷時の設定は 1.0(透明度:なし)です。)

+: 透明度を 0.1 プラス(透明に)します。

-: 透明度を 0.1 マイナス(不透明に)します。



ON/OFF 注視時間

視線入力メニューの[ON/OFF] ボタンを注視して ON/OFF を切り替えるまでの時間を設定します。
※「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定するマウスクリックまでの時間とは異なりますのでご
注意ください。



○マウス操作注視時間

視線入力メニューの[左クリック]、[右クリック]、[ダブルクリック]、[ドラッグ]、[Ctrl+左クリック]、[Shift+左クリ
ック]ボタンを注視してマウスクリックモードを切り替えるまでの時間を設定します。
※「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定するマウスクリックまでの時間とは異なりますのでご
注意ください。



○その他注視時間

視線入力メニューの ON/OFF、マウス操作系ボタン以外のボタンに対して、ボタンを注視してマウスクリック
モードを切り替えるまでの時間を設定します。
※「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定するマウスクリックまでの時間とは異なりますのでご
注意ください。



○Windows 操作メニュー表示位置

Windows 操作メニューの表示位置を、右端か左端か選択可能です。(出荷時の設定は「右」です。)

ガイダンス機能について

視線入力の設定画面では、各設定項目に対して説明を表示するガイダンス機能があります。各項目の項目名表記エリアを注視すると、右側に説明画面が表示されます。下記は「拡大鏡表示」を注視したときの一例です。



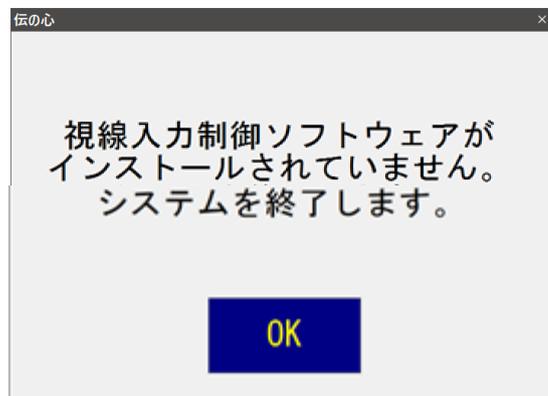
説明画面を注視している間は、説明画面は表示されます。視線を説明画面から外して「注意時間」経過すると、自動的に説明画面は閉じます。

※ここでの「注視時間」は「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定する時間です。

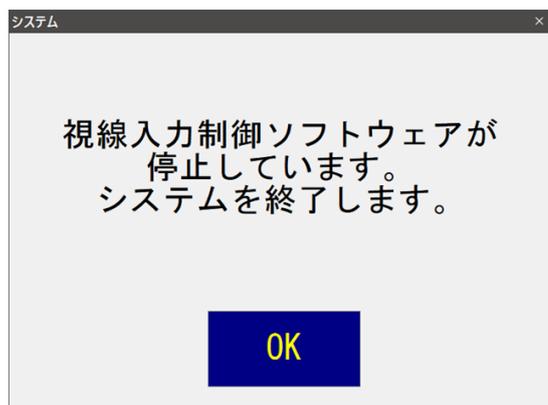
■こんな時には

メッセージが表示されて「伝の心」が起動しない

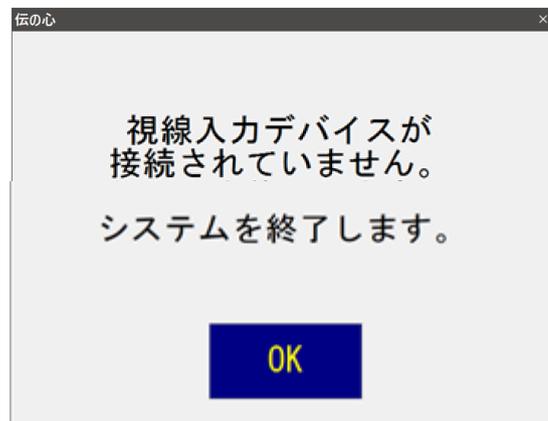
- メッセージの内容が、「視線入力制御ソフトウェアがインストールされていません。」の場合
⇒視線入力オプションを有効にするためのソフトウェアがインストールされていません。
6 ページの「ソフトウェアのインストール」を参照して、ソフトウェアをインストールしてください。



- メッセージの内容が、「視線入力制御ソフトウェアが停止しています。」の場合
⇒視線入力オプションを有効にするためのソフトウェアが起動していません。
視線入力制御ソフトウェアは、インストールすると、「伝の心」の起動と同時に起動する設定となっておりますが、何らかの原因で起動が遅れている場合があります。
OK ボタンをクリックしてメッセージを閉じた後、暫く待ってからデスクトップ画面の [伝の心] アイコンをダブルクリックして、「伝の心」を起動してください。



- メッセージの内容が、「視線入力デバイスが接続されていません。伝の心を終了します。」の場合
- ⇒トビーPCEye5が「伝の心」に接続されていません。
 - 8ページの「トビーPCEye5の設置を行います」や、31ページの「○表示のセットアップ」を参照して、トビーPCEye5の接続を確認してください。
 - ⇒トビーPCEye5ではない視線入力オプションが接続されている可能性があります。接続機器をご確認ください。



- メッセージの内容が、「なんでもスイッチ USB が接続されていません。」または「なんでもワイヤレスが接続されていません。」の場合
- ⇒視線入力有効で、なんでもスイッチを併用する設定もしくは、視線入力無効の設定になっています。更にその状態でなんでもスイッチ USB またはなんでもワイヤレスが接続されていません。
 - 視線入力の設定が違う場合は 21 ページの「伝の心で使用できるようにします」を参照して、「視線入力有効(なんでもスイッチを併用しない)」設定に切り替えてください
 - なんでもスイッチを使用する設定の場合は、なんでもスイッチ USB またはなんでもワイヤレスの接続を確認してください。



キャリブレーションを行ったら、動作不能になった

キャリブレーションの更新は、CPU 負荷が非常に高くなるため、OS の状態によっては視線制御ソフトが停止してしまうことがあります。

○伝の心起動時のキャリブレーション画面からキャリブレーションの更新を行った場合

⇒

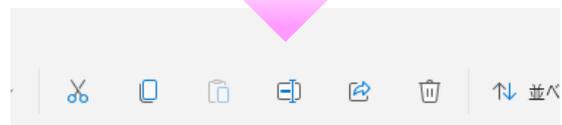
- ⑤ キャリブレーション画面の閉じるボタンをマウスでクリックして、まずキャリブレーション画面を閉じます。
- ⑥ 6 ページの「ソフトウェアのインストール」や 21 ページの「伝の心で使用できるようにします」を参照して「視線入力」フォルダーを開きます。
- ⑦ 「Service の再起動」を右クリックして、表示されたメニューから「管理者として実行」をクリックします。
- ⑧ 「Tobii Service サービスを停止中です...」メッセージが表示されます。
- ⑨ 「Tobii Service サービスは正常に開始されました」と表示されるまで待ちます。
- ⑩ メッセージ画面の右上の×をマウスでクリックして、メッセージ画面を閉じます。
- ⑪ 32 ページの「ユーザープロファイルの設定(キャリブレーション)」を参照して再度キャリブレーションを行います。
- ⑫ キャリブレーションが終了したら、伝の心が起動します。

○伝の心のメインメニューから「キャリブレーション」を選択してキャリブレーションの更新を行った場合

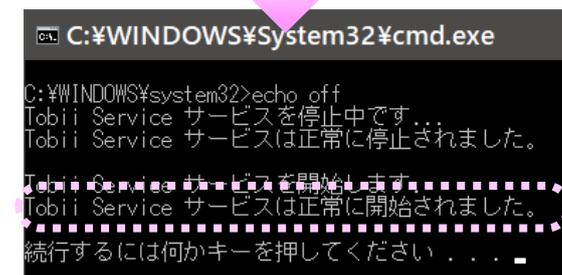
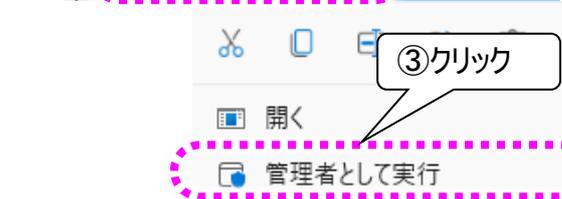
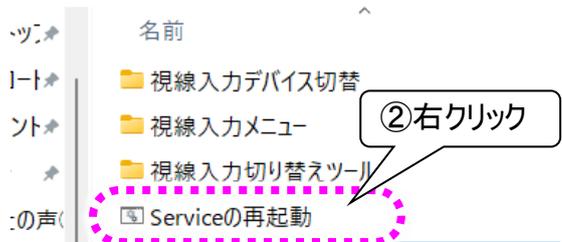
⇒前項の①～⑧と同様の操作を行ってください。

ただし、②を行う際に伝の心のメインメニューが表示されていますので、メインメニューの右上の閉じるボタンをクリックして、伝の心を最小化してください。

また、⑧でキャリブレーションが終了した際は、②で伝の心を最小化している場合、タスクバーの伝の心アイコンをクリックして伝の心画面を表示させてください。



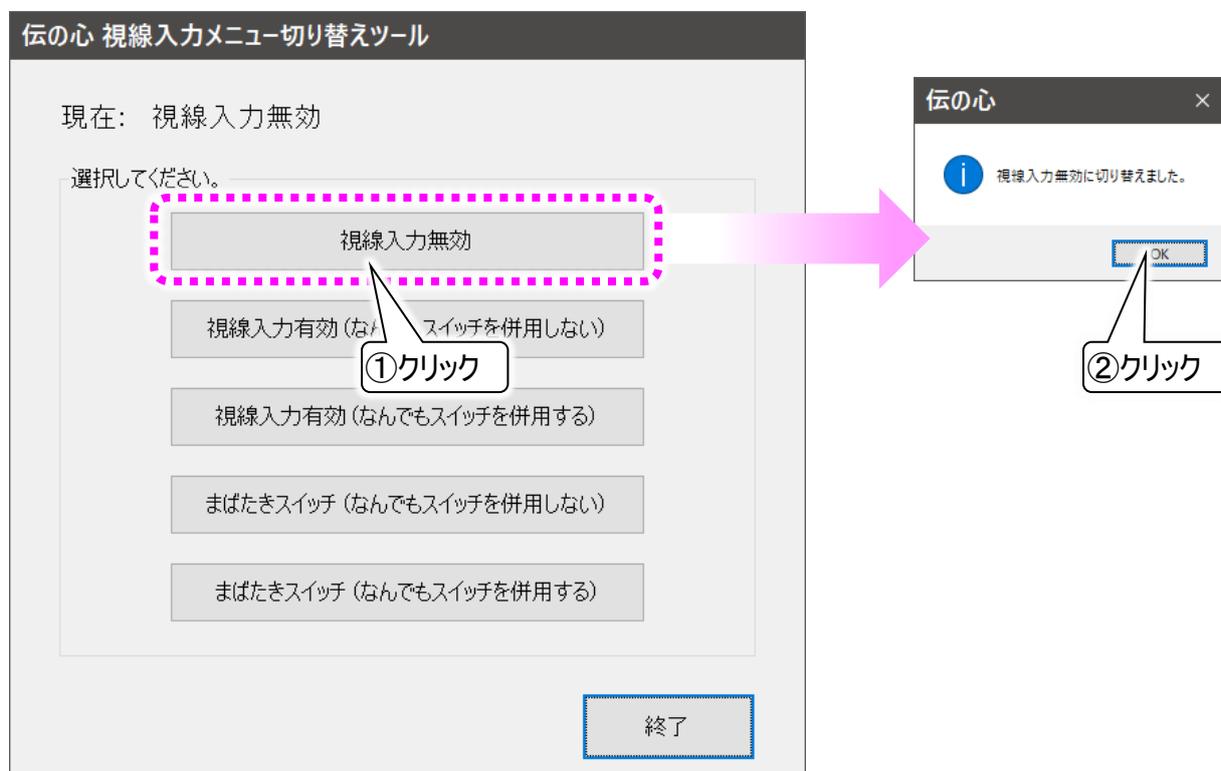
↑ PC > ローカルディスク (C:) > DENTOOL >



なんでもスイッチのみで「伝の心」の操作がしたい

視線入力オプションでの「伝の心」操作をなんでもスイッチでの操作に戻すことができます。

(1) 21 ページの「伝の心で使用できるようにします」を参照して、下記の画面を表示します。



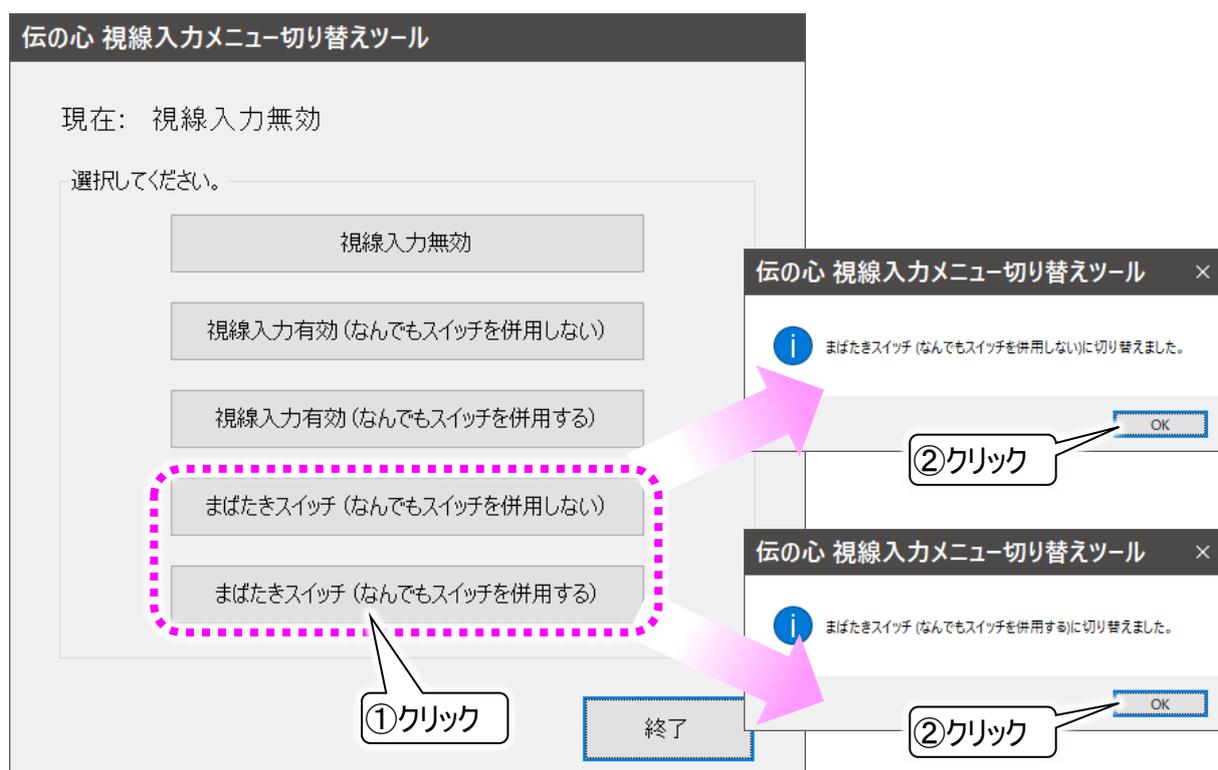
(2) **視線入力無効** ボタンをクリックしてください。なんでもスイッチのみでの操作に切り替わります。

■まばたきスイッチについて

視線入力オプションとして、「まばたきスイッチ」を使用することができます。これは視線の注視によって決定（マウスクリック）する入力方法ではなく、まばたきによる瞳の個数変化によってスイッチ入力するオプション機能です。視線入力のオプションとの切り替えと同様に切り替えて使用することが可能です。

まばたきスイッチの設定

- (1) 21 ページの「伝の心で使用できるようにします」を参照して、下記の画面を表示します。
- (2) まばたきのみでスイッチ入力する場合は「まばたきスイッチ(なんでもスイッチを併用しない)」ボタンを、まばたきとスイッチの両方でスイッチ入力する場合は「まばたきスイッチ(なんでもスイッチを併用する)」ボタンをクリックしてください。



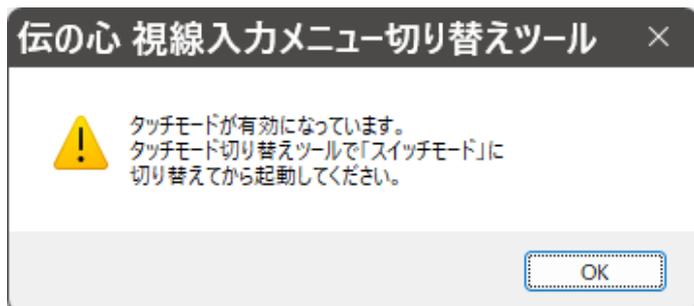
※まばたきスイッチは、なんでもワイヤレスとの併用はできません。

なんでもワイヤレスを使用している場合は、なんでもスイッチを併用設定にすると、スイッチの設定がなんでもスイッチに戻ります。

※なんでもスイッチを併用する場合は、2点スイッチは使用できません。

視線入力を有効にする前に、「支援者用設定」で2点スイッチの設定を行っていても1点スイッチに変更されます。

- (3) 下記のようなメッセージが表示される場合は、「伝の心」取扱説明書を参照して「スイッチモード」に設定し、再度(2)項から実施ください。



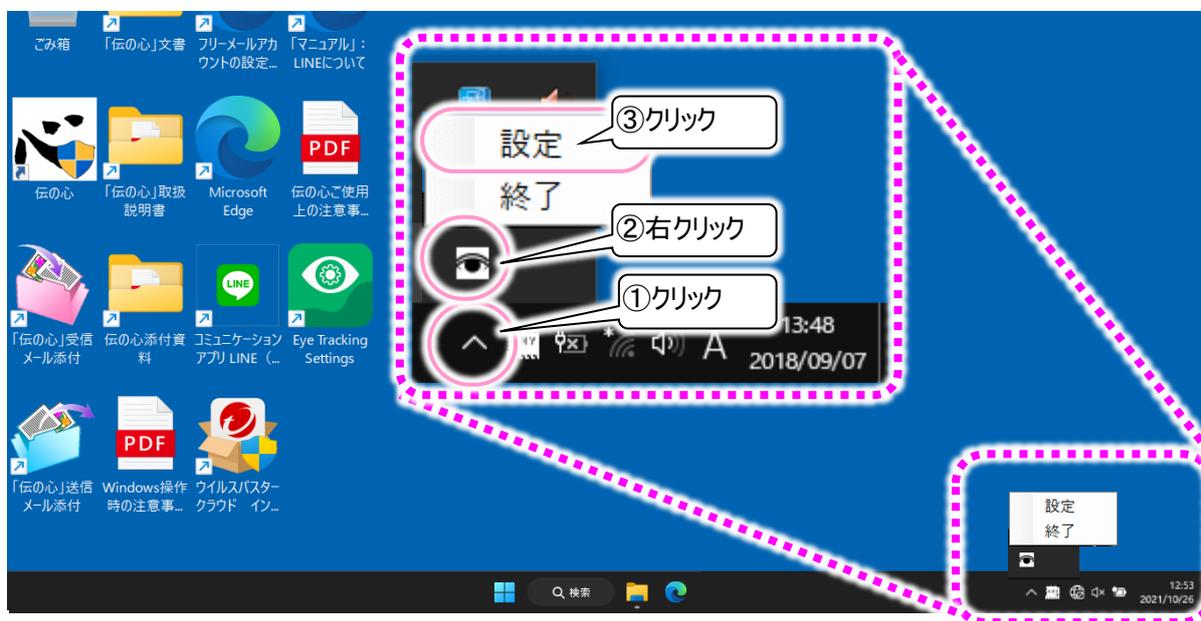
- (4) これで準備は完了です。
デスクトップの「伝の心」ショートカットから「伝の心」を起動させてください。

- (5) 次回からは電源を入れるだけで視線入力オプションが使用できます。

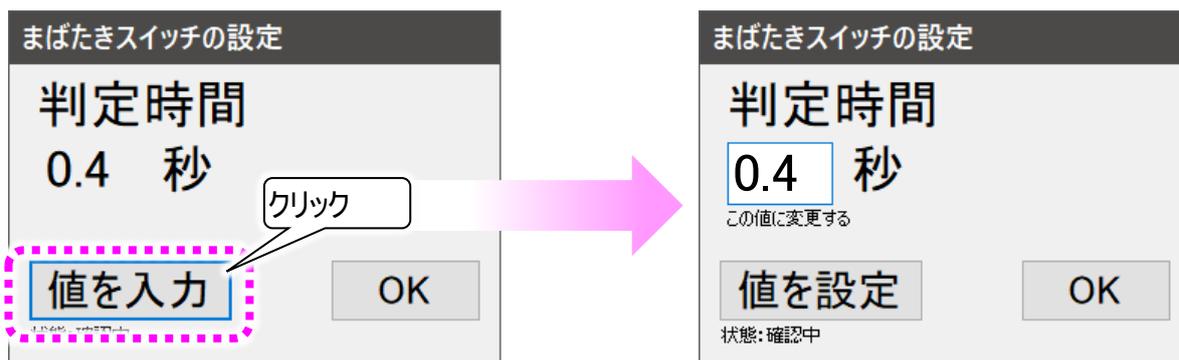
まばたき時間の設定

まばたきする時間を設定可能です。初期値は0.4秒になっています。0.1 ~ 999秒まで設定可能です。設定方法は下記になります。

- (1) 6 ページの「伝の心を停止します」を参照して、「伝の心」を停止します。
- (2) デスクトップ画面右下のタスクトレイから  まばたきスイッチアイコンをマウスで右クリックします。メニューが表示されますので、「設定」を選択します。

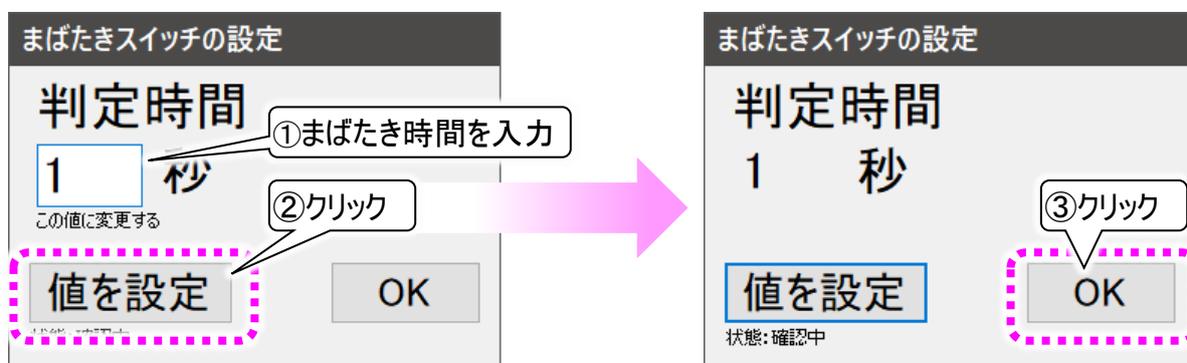


- (3) まばたきスイッチの設定画面が表示されますので、まばたき時間を変更する場合は、**値を入力**ボタンをクリックします。



- (4) まばたき時間が編集可能になるので、0.1 ~ 999 の範囲でまばたき時間を入力します。あまり短い時間を設定すると、生理的なまばたきでもスイッチが入ってしまいますので、ご注意ください。

- (5) まばたき時間を入力したら、**値を設定**ボタンをクリックします。



- (6) **OK**ボタンをクリックして設定画面を閉じ、デスクトップの「伝の心」ショートカットから「伝の心」を起動させてください。

■ サポート

トビーPCEye5 やコアソフトに関するお問い合わせは、以下までご連絡ください。

[株式会社クレアクト お問い合わせ窓口](#)



「伝の心」に関するお問い合わせは、「伝の心」をご購入された販売店にご連絡ください。